第VI章　第７次発掘調査の成果

第１節　柳又遺跡Ａ地点における編年

國學院大學文学部考古学研究室が考古学演習II（考古学実習）の一環として実施してきた柳又遺跡Ａ地点における発掘調査は、今年度の調査をもって休止することになった。

旧石器文化ならびに縄文草創期文化の様相とその変遷等の解明を目的として、1987年に開田高原に調査地を求めて以来、小馬背遺跡における２年次にわたる発掘調査と柳又遺跡Ａ地点における７年次にわたる発掘調査と、９年という長期間継続してきたものである。

小馬背遺跡は残念ながら遺物包含層がすでに煙滅していたが、柳又遺跡Ａ地点は良好な遺物包含層に恵まれて多くの成果を得ることができた。

柳又遺跡Ａ地点では、旧石器文化ならびに縄文草創期文化の様相とその変遷の解明するために、特に出土遺物相互の層位的把握に留意して発掘調査を進めてきたところである。

そのために遺物の出土層位と垂直分布の検討に加え、平面分布の検討を通して、礫の集中範囲を礫群として、あるいは石器の集中部分を石器ブロックとして把握してきた。そして、このような遺物の出土状況に基づいて把握したまとまりを単位としてさまざまな分析を行ない、具体的な内容の理解にも努めてきた。

例えば、礫群では礫の遺存状態の分類、重量別の分類、被熱の有無の観察を通して各礫群の特徴を把握し、破砕している礫に関しては接合作業を行なって、礫群それぞれの中での、礫群相互の中での関連を捉えている。

また、石器ブロックでは、石器それぞれの観察に基づいた器種分類や石材同定を前提に、石器器種組成、石器器種の形態分類、製作技術などや、石器石材の特徴、各石材の使用頻度や使用総量などを検討して、各石器ブロックの特徴を把握し、あるいはまた母岩分類と接合作業とを通して母岩別資料分析を行なって、石器ブロックそれぞれの中での、石器ブロック相互の中での関連を捉えている。

さらに礫群と石器群との関係についても、出土層位と垂直分布、あるいは平面分布などの出土状況に照らして判断してきた。これらの検討に基づいて、礫群や石器群を文化層にまとめ、それらの編年的位置を明らかにしてきた。

柳又遺跡Ａ地点には、遺跡の基本層序に照らした層位的出土によって、編年された７枚の文化層がある。すなわち、第II層に包含される表裏縄文系土器群の文化層、第III層下部から第IV層上部に包含される隆起線文系土器群に有舌尖頭器の伴う文化層、第IV層中に包含される大形石刃を主体とする第IV層文化層、第Ｖ層中に包含される細石刃を主体とし槍先形尖頭器の伴う

第Ｖ層文化層、第VI層中部に包含されるナイフ形石器を主体とする第VI層M文化層、第VI層中部から下部に包含されるナイフ形石器を主体とし槍先形尖頭器の伴う第VI層Ｌ文化層、第VII層上部から中部に包含される小形の切出形ナイフ形石器を主体とする第VII層文化層である。

なお、第７次調査における特筆すべき成果の一つに、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力によって実施された土壌の自然科学分析から、Ｃ－７区において第VII層下部に最濃集層準もつ明瞭なバブル型火山ガラスが検出され、ＡＴの降灰層準が指摘され、ＡＴの噴出年代として22000～25000年前という実年代が示されたことがある（付編参照）。

この結果、第VII層文化層はＡＴ降灰以後に位置づけられることが確実となった。また、柳又遺跡Ａ地点では、第VII層文化層が確認されている最下層の文化層であることから、いずれの文化層に関してもＡＴ降灰以後の編年的位置づけが妥当なものであることが明らかとなった。

また、第II層上部から中部において、重鉱物と火山ガラスの産状からＫ－Ａｈの存在が指摘され、その噴出年代が約6300年前と示された。第II層中からは表裏縄文系土器群が出土しており、編年的位置づけとの関わりが注意される。

各文化層は層位的出土によって、相対的な編年上の位置を与えられているが、それぞれに若干の問題点がある。それは大きく見れば、基本層序の各層の堆積状態とその遺存状況に関わる問題であり、包含される遺物の共伴関係の問題といえる。以下に各文化層の概要を示しながら、それぞれの文化層が抱える問題点を指摘してゆきたい。　（栗田一生）

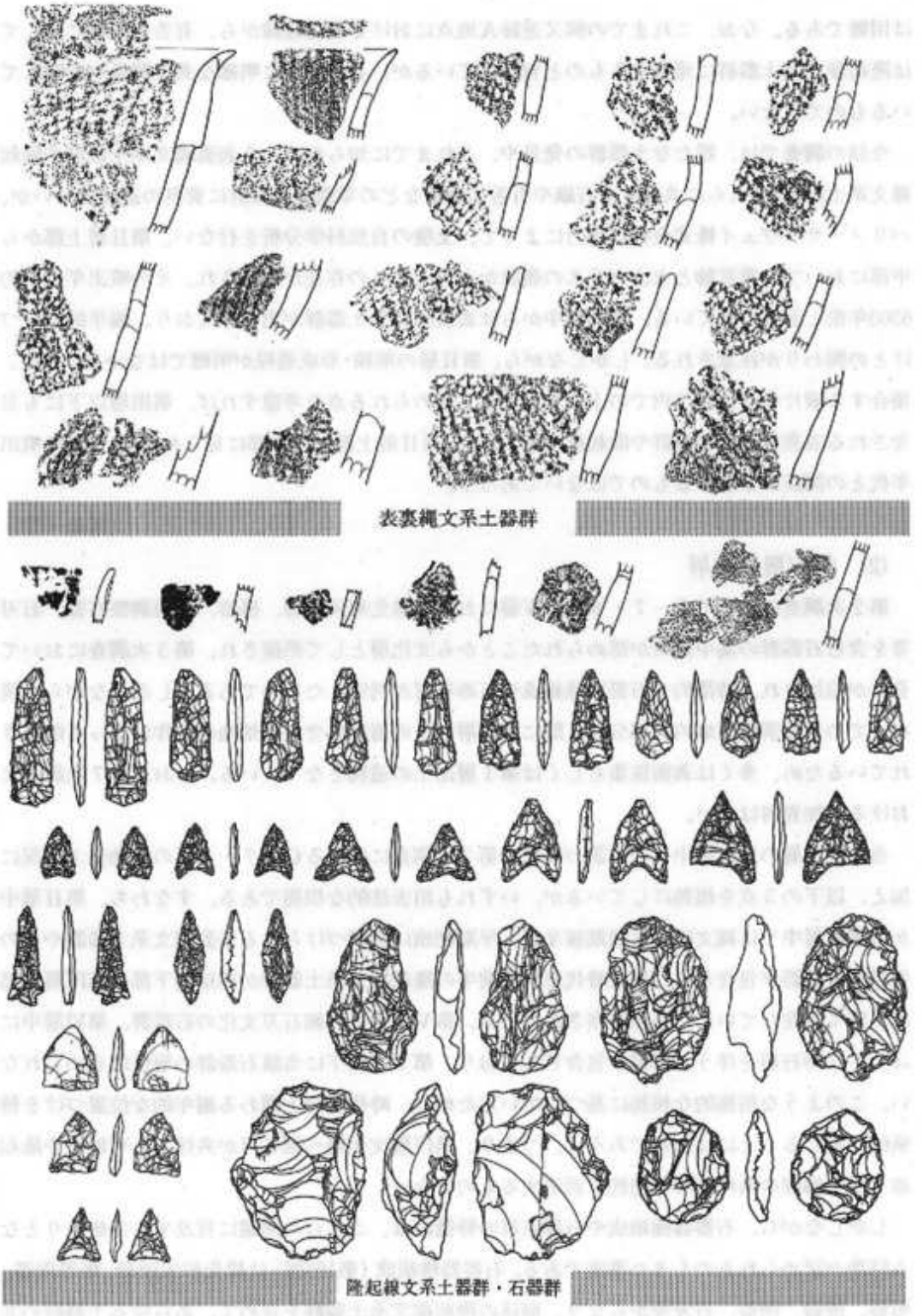
第２節　柳又遺跡Ａ地点の各文化層

(1)　縄文時代草創期～早期初頭

第II層に包含される表裏縄文系土器群の文化層と、第III層下部から第IV層上部に包含される隆起線文系土器群に有舌尖頭器の伴う文化層とがある（第164図）。

表裏縄文系土器群と隆起線文系土器群とは、縄文土器の編年に照らせば、縄文時代草創期から早期初頭に位置づけられる。表裏縄文系土器群が草創期後半から早期初頭に、隆起線文系土器群は草創期前半にそれぞれ位置づけられる。

表裏縄文系土器群は、第６次調査におけるＵ～Ｘ－16・17区で得られた成果である。特にそれまでに層位的な出土の確認できなかった隆起線文系土器群とともに検出され、層位学的に検討し得たことは大きな成果である。しかしながら、表裏縄文系土器群と隆起線文系土器群とはいずれも第II層から第IV層上部にかけて出土し、明確に包含層位が分離できたものではないことには注意する必要がある。それは、あくまでも土器の型式分類と、分類に基づいたそれぞれの土器群の検出ピークに依拠しているからである。そのために、第II層から第IV層上部にかけて分布する石器群、特に石鏃がいずれの文化層に帰属するものであるか、的確に判断すること



第164図　縄文時代草創期～早期初頭の遺物(1/2)

は困難である。なお、これまでの柳又遺跡Ａ地点における調査経緯から、有舌尖頭器に関しては隆起線文系土器群に帰属するものと判断しているが、石鏃同様に明確な共伴関係が判明しているものではない。

今回の調査では、新たな土器群の発見や、これまでに知られている表裏縄文系土器群や隆起線文系土器群、それらに共伴する石鏃や有舌尖頭器などの草創期石器群に資料の追加はないが、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力によって、土壌の自然科学分析を行ない、第Ⅱ層上部から中部において、重鉱物と火山ガラスの産状からＫ－Ａｈの存在が指摘され、その噴出年代が約6300年前と記載されている。第Ⅱ層中からは表裏縄文系土器群が出土しており、編年的位置づけとの関わりが注意される。しかしながら、第Ⅱ層の堆積・形成過程が明確ではない点、また、接合する破片相互に層位内での上下差が著しく認められる点を考慮すれば、第Ⅲ層以下にも包含される表裏縄文系土器群や隆起線文系土器と、第Ⅱ層上部から中部に見られるＫ－Ahの噴出年代との関係は矛盾するものではないであろう。

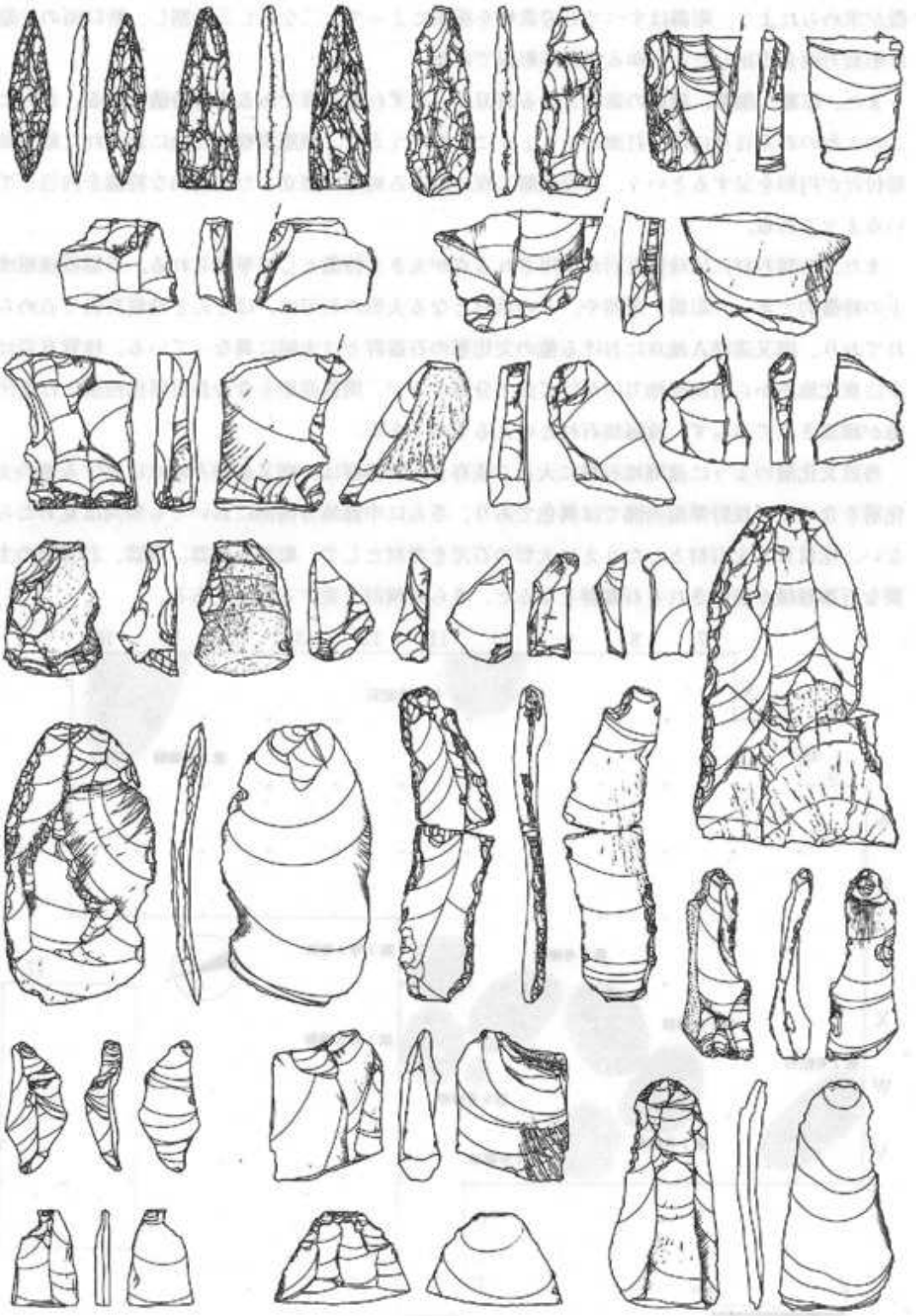
（栗田一生）

(2)　第Ⅳ層文化層

第２次調査においてＣ－７・８区第Ⅳ層において槍先形尖頭器、掻器、両面調整石器、石刃等を含む石器群の集中箇所が認められたことから文化層として把握され、第３次調査において資料が追加され、特徴的な石器器種組成や石器石材が判明したものである。しかしながら、現在までの発掘調査区域の大部分は、既に第Ⅳ層以上の遺物包含層が畑地の耕作によって削剥されているため、多くは表面採集もしくは第Ⅰ層出土の遺物となっている。なお、第７次調査における追加資料はない。

当該文化層の第Ⅳ層中への位置づけは、第２次調査におけるＣ－７・８区の遺物出土状況に加え、以下の３点を根拠にしているが、いずれも消去法的な根拠である。すなわち、第Ⅱ層中から第Ⅲ層中では縄文時代草創期後半から早期初頭に位置づけられる表裏縄文系土器群やその他早期土器群が包含され、縄文時代草創期前半の隆起線文系土器群が第Ⅲ層下部～第Ⅳ層上部にかけて存在していたことが推察されている。第Ⅴ層中には細石刃文化の石器群、第Ⅵ層中にはナイフ形石器を伴う石器群が包含されており、第Ⅴ層以下に当該石器群の層位は求められない。このような消極的な根拠に基づいているために、時代区分と関わる編年的な位置づけを積極的に論じることには困難であろう。つまり、第Ⅳ層文化層へ細石刃が共伴する可能性や隆起線文系土器群の共伴する可能性を否定するものでない。

しかしながら、石器器種組成や石器石材の特徴には、これらの問題に言及する手掛かりとなる特徴が認められるのもまた事実である。石器器種組成（第165図）は槍先形尖頭器、彫器削器、彫器、掻器、削器、石刃等からなり、前述の隆起線文系土器群を含めて、あらゆる土器群の共伴の有無については明らかではない。石器群では、特に彫器・削器が主体となっている点に特



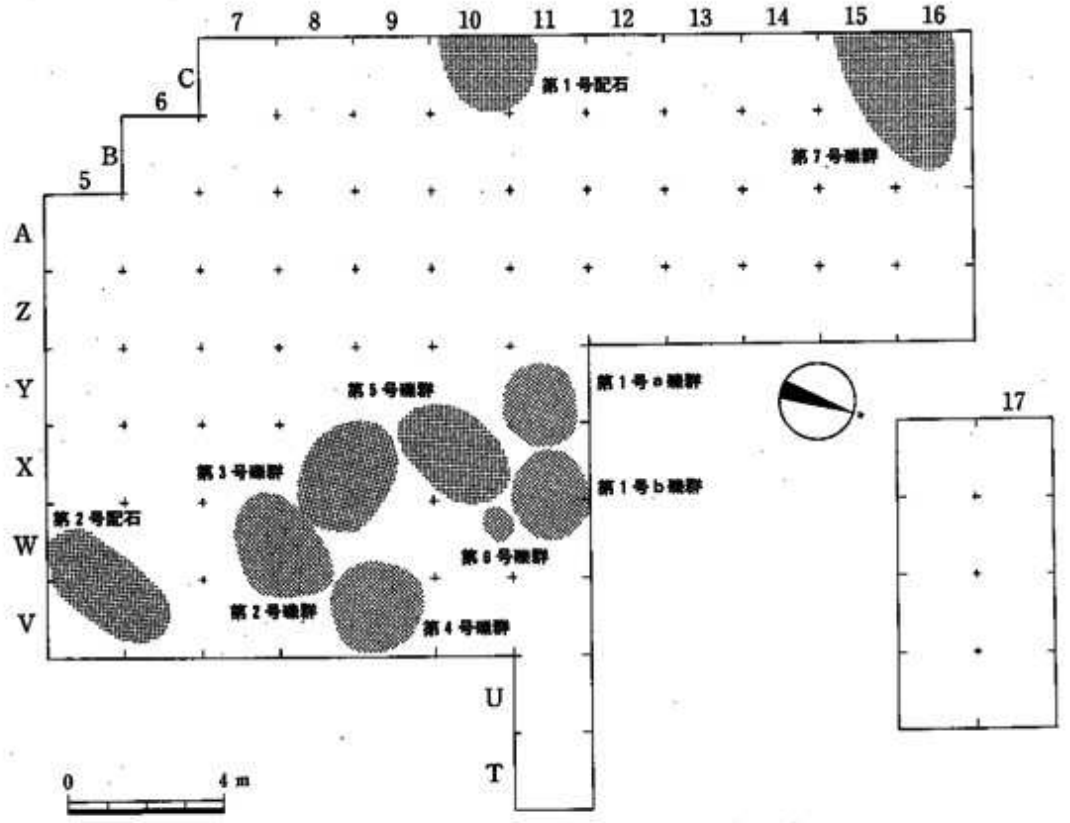
第165図　第Ⅳ層文化層の石器群(1/2)

徴が求められよう。彫器はすべて石刃素材を折断によって、二ないし三分割し、断口面の一端に彫刻刀面を作出したいわゆる側刀形彫器である。

また、彫器、削器、掻器の素材となる石刃は、いずれも大形である点も特徴である。さらにこの大形の石刃自身には、打面がひじょうに小さいうえに、頭部調整が丹念に施された結果頭部付近が円形を呈するという、石刃剥離工程における処理に際立った技術的な特徴を内包しているようである。

また、石器石材には珪質頁岩が多用される点が大きな特徴として挙げられる。石器器種組成上の特徴的であった彫器・削器や、その素材となる大形の石刃は、ほとんど珪質頁岩で占められており、柳又遺跡Ａ地点における他の文化層の石器群とは大幅に異なっている。珪質頁岩は主に東北地方から新潟県地方にかけて広く分布するが、開田高原を含む長野県南西部には産出地が確認されておらず、遠隔地石材といえるものである。

当該文化層のように遠隔地石材に大きく依存した石器群は、柳又遺跡Ａ地点における他の文化層を含めて、長野県南西部では異色であり、さらに中部地方南部においても類例は見あたらない。珪質頁岩を石材としたうえに大形の石刃を素材として、彫器、掻器、削器、石刃等の主要な石器器種が製作される石器群となると、さらに検討を要する内容である。



第166図　第Ｖ層文化層における遺構の配置(1/200)

このような石器群が細石刃文化終末以降、旧石器時代から縄文時代への移行過程において、編年的・系統的にどのような位置付けを与えられるのか、特に細石刃文化とその直後に位置付けられる神子柴・長者久保文化の槍先形尖頭器石器群との時間的関係において注目される所以である。特に北海道道南地域の樽岸遺跡、立川遺跡、美利河１遺跡等に見られる石器群との系統的な関連性は重要である。

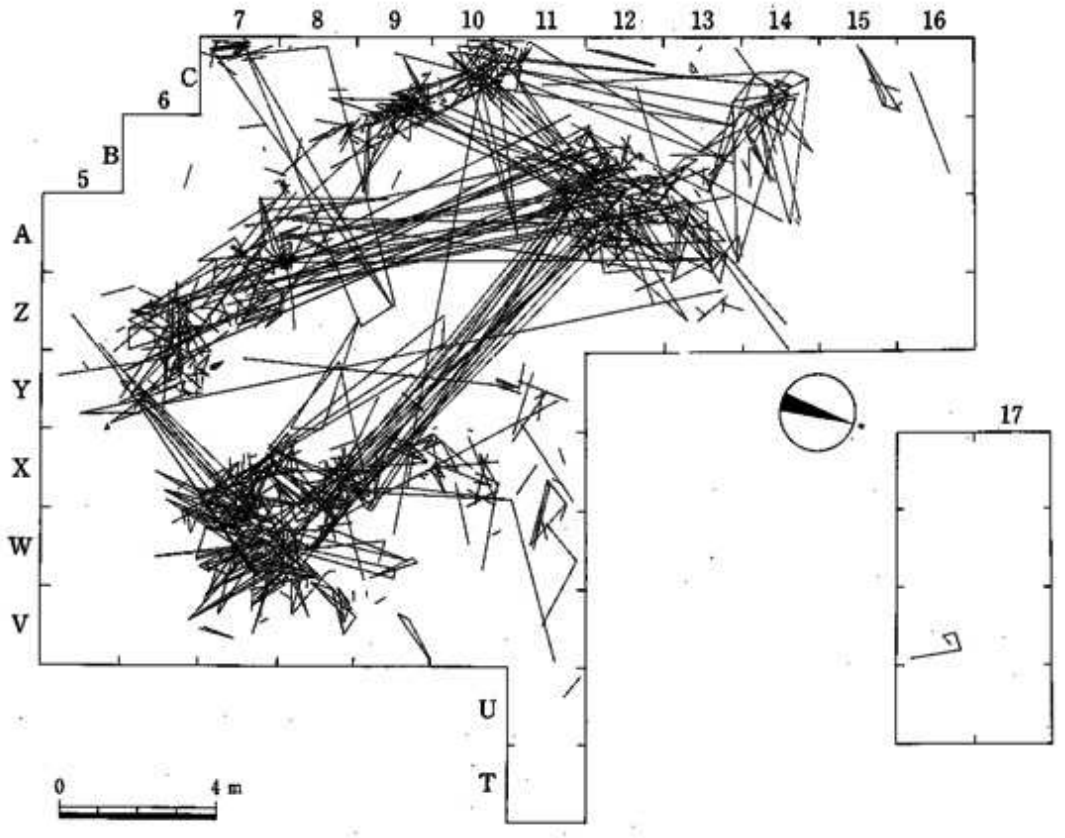
現状ではこのような点に言及する手掛かりに乏しく、今後の重要な研究課題として重くのしかかっている。その中でもそれぞれの石器製品の素材となる大形の石刃に見られる剥離工程の技術的な特徴から追及することが肝要であろう。

（栗田一生）

(3)　第Ⅴ層文化層

第Ⅴ層文化層は、第１次調査から注意されている旧石器時代終末の細石刃文化の文化層で、第Ⅴ層中に包含される。第７次調査で発掘区とした範囲は、第１次調査、第２次調査、第３次調査で発掘区とされた範囲であり、第Ⅴ層文化層の包含層位である第Ⅴ層はすでに調査を終了していたが、わずかに第Ⅴ層文化層の関連資料が追加されている。

７年次にわたる調査で確認された遺構には配石２基と礫群７基とがある。石器群は７年次に

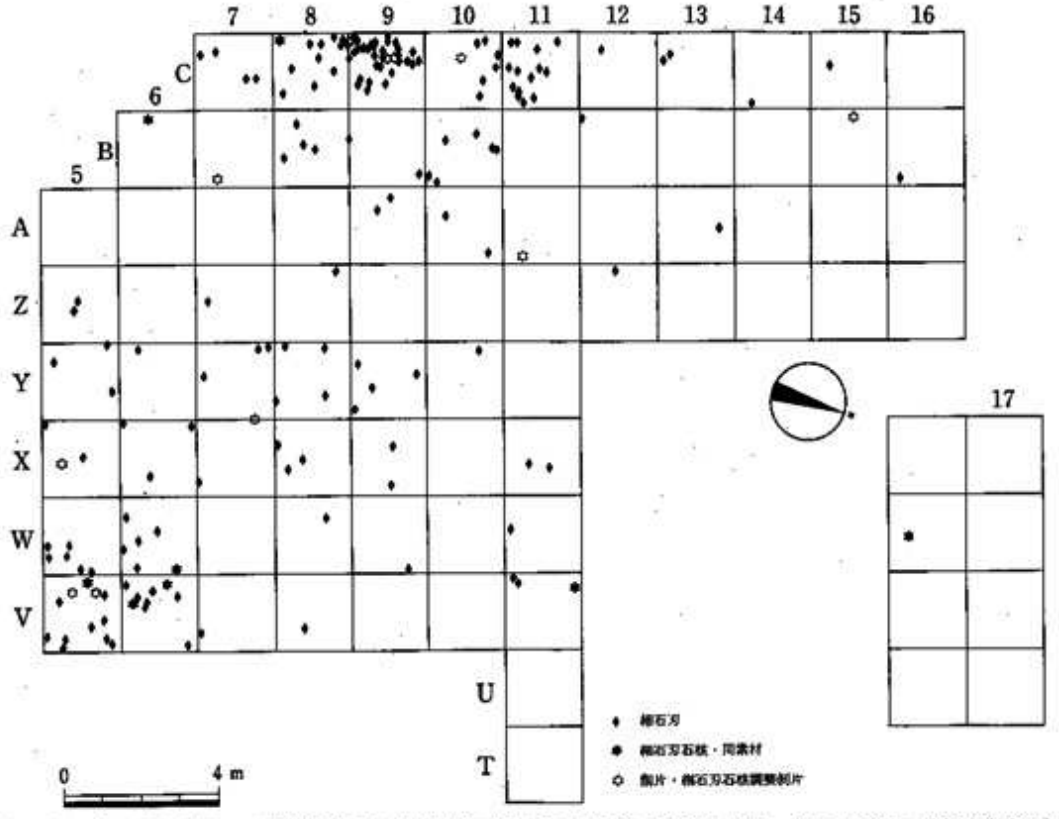


第167図　礫全体接合配線(1/200)

わたる発掘区ほぼ全域に分布しており、石器ブロックの把握という方法をとらずに資料は提示されているが、配石や礫群の形成場所と重複するように分布が集中する傾向が認められ、関連の注意されるところである（第166～171図）。

特に配石遺構には、本文化層の主体となる細石刃とその関係資料が多く分布しており、細石刃生産に関わる遺構の可能性もある。さらに母岩別資料分析を通して、これらの石器群の集中相互の関わりは追認されるところである。

また、礫群は細石刃文化の時期の発見例が全国的に見ても殊の外少ない中での発見例であり注目される。これらの礫群相互には多数の接合が確認され、共時性を示唆するとともに文化層を越える礫の接合事例が認められる。このような接合状況は各礫群の帰属文化層の誤認に起因する可能性も否定できないが、各文化層に帰属する礫群の範囲が、それぞれの文化層の石器群の分布と一致したり、礫群と石器ブロックとの間に有機的な関係を想定できること、礫群と石器ブロックの検出層位ががほぼ同レベルないしは、礫群のほうが下位に位置し、石器群を層位的に挟んでそれぞれの礫群が存在すること、文化層を越える礫群の構成礫の接合関係が把握できた場合、相対的に古い文化層の礫群を構成する礫は小形であり、より新しい文化層に大形の礫が残存する傾向があること、接合は各礫群の単位内で最も多く確認できること、という４点



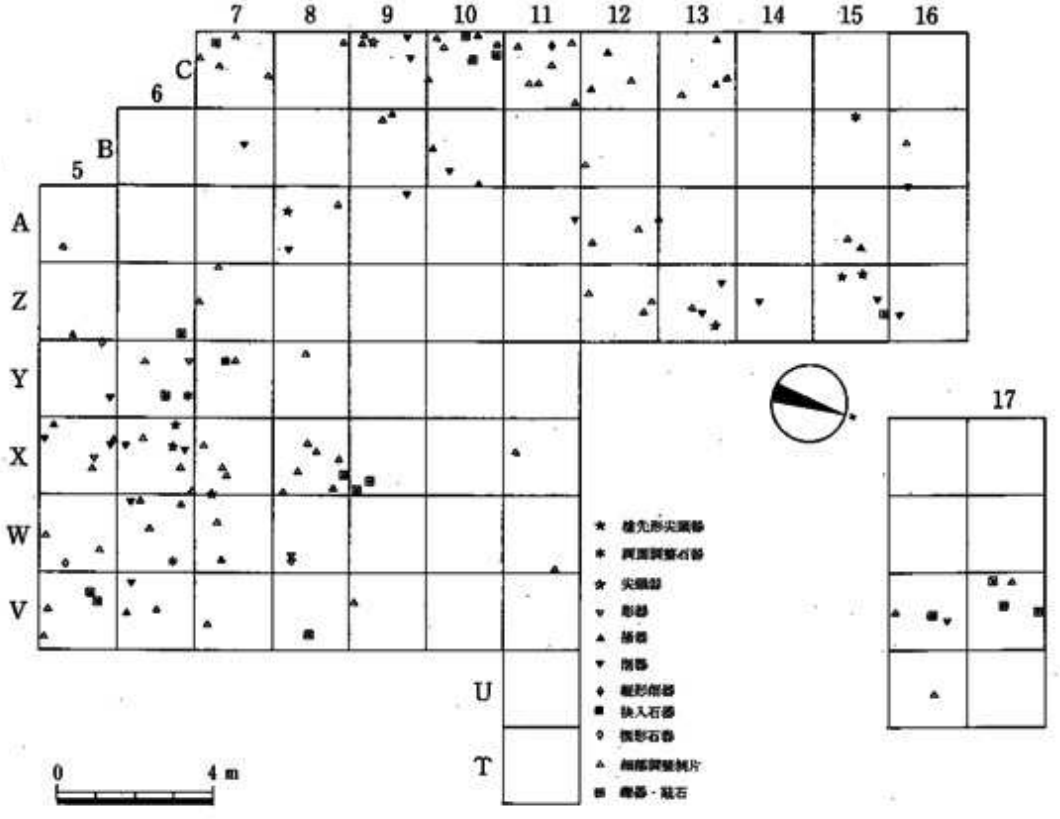
第168図　第Ⅴ層文化層の石器器種別分布状態(1)細石刃、細石刃石核、同素材、削片、細石刃石核調整剥片(1/200)

を根拠に、現時点では、文化層を越える礫群の構成礫の共有がより古い文化層の礫群構成礫が持ち出され、再使用された結果と考えている。しかしながら礫群の帰属時期に関わることであり注意されるところである。

なお、第Ｖ層文化層の生活面は、配石や礫群の検出層位によって第Ｖ層下部から第Ⅵ層上部に想定されるが、第７次調査では第Ｖ層文化層に帰属する石器群、特に細石刃などが第Ｖ層文化層の礫群の下位、第Ⅵ層Ｌ文化層と同一層準でも多く検出されたが、石器群の平面的な分布が排他的な関係にあることを考慮して、示準的な石器器種に則して帰属文化層を決定した。

石器器種組成としては、細石刃および細石刃石核・打面形成削片等の関係資料を主体に、槍先形尖頭器が伴う。他に彫器、彫器削器、削器、掻器、抉入石器、細部調整剥片等の剥片石器、石刃・石刃状剥片、剥片・砕片、石核など、礫器には打製石斧や敲石等があり、バラエティーに富んでいる（第172～220図）（表22～24）。

本文化層の主体をなす細石刃とその関係資料には、細石刃、細石刃石核、細石刃石核原形、細石刃石核素材、細石刃石核打面形成削片、稜付削片、細石刃剥離作業面再生剥片、細石刃石核調整剥片などである。これらの一連の資料によって、本遺跡での細石刃石核の準備から細石刃の剥離・細石刃石核の再調整に至る細石刃生産の全工程に該当する資料が揃い、細石刃剥離



第169図　第Ｖ層文化層の石器器種別分布状態(2)槍先形尖頭器、両面調整石器、尖頭器、彫器、掻器、削器、縦形削器、抉入石器、楔形石器、細部調整剥片、礫器、敲石(1/200)

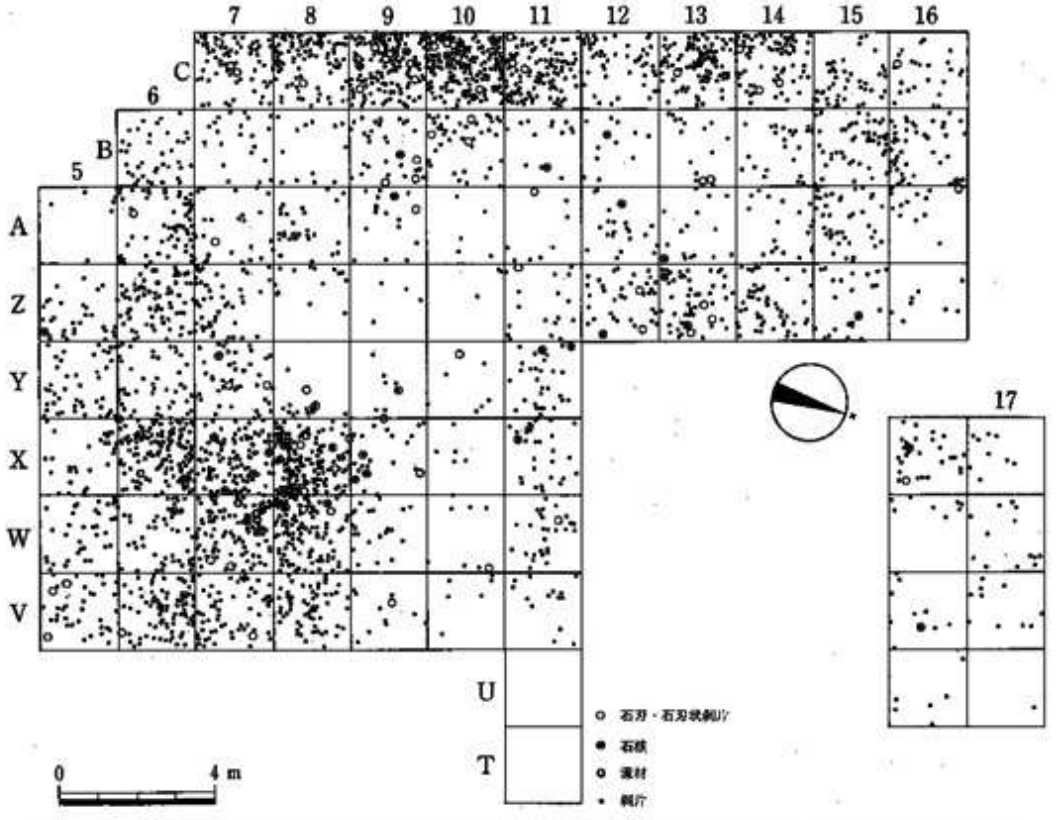
技術の特徴が詳細に分析・復元されている。

細石刃剥離技術に関して特に注目される点は、北方系細石刃文化に系統のたどれる削片系の楔形細石刃石核とその製作過程に生じる両面調整素材・打面形成削片・細石刃石核原形等の関係資料が内在し、本遺跡における細石刃剥離技術の一角を占めている点である。

これらの資料は、湧別技法に代表される北海道から東北地方に分布の認められる細石刃剥離技術で、各地方との系統的関連性を示すものと思われる。しかしその一方で、細石刃石核の調整に定形的な削片の剥離を伴わない独特な楔形石核が認められる点や、石材として玻璃質安山岩を多用する点などに本遺跡独自の様相がみられ、注意が必要である。

細石刃自体についても、大きさ、折断方法、細部調整等の形態学的特徴がすでに詳しく論じられている。特に全国的な平均値に照らして比較的幅広であるという傾向が明らかであったが、さらにそれが玻璃質安山岩製のものに顕著であることが統計的に明らかになっている。

細石刃に共伴するその他の器種には、槍先形尖頭器、彫器、彫器掻器、掻器、削器、両面調整石器、打製石斧がある。この中で注目されるのは、彫器が極めて少なく、荒屋型が含まれていない点がある。北方系の技術系統に基づく細石刃生産の様相と対極をなしている。その一方で、掻器には黒曜石製の角二山型のものが１点含まれており注意される。

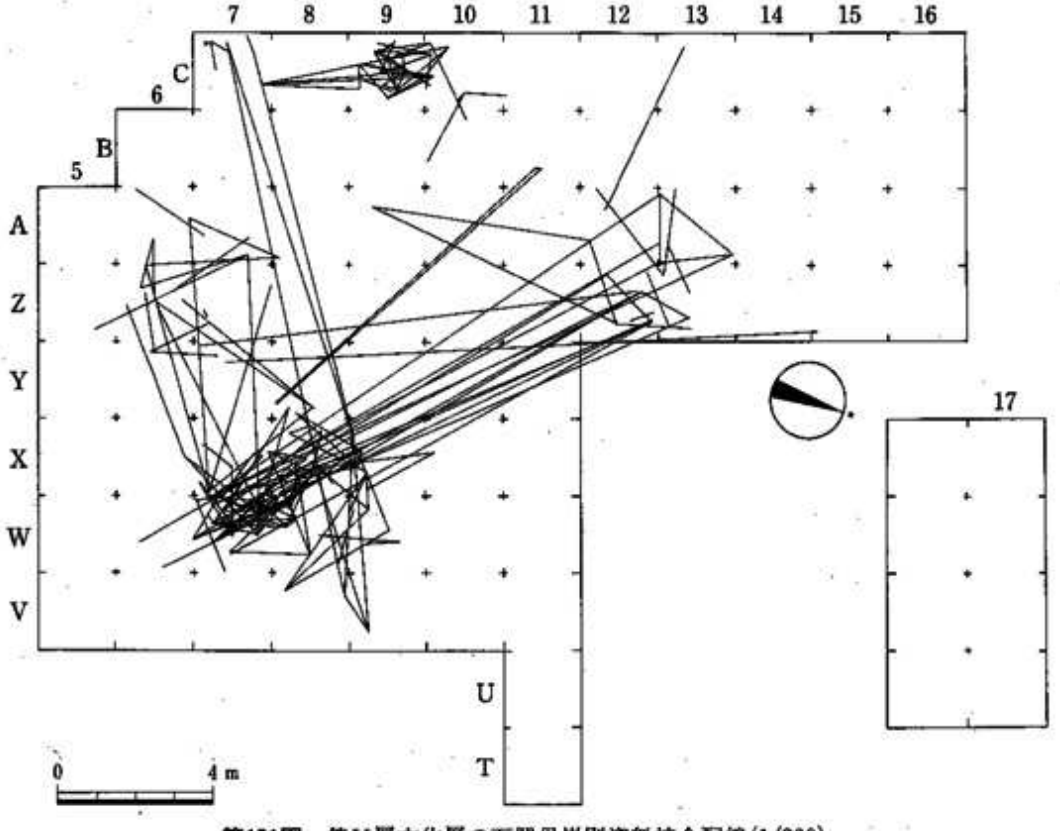


第170図　第Ⅴ層文化層の石器器種別分布状態(3)石刃、石刃状剥片、石核、素材、剥片(1/200)

北方系の技術系統に属する細石刃石器群は、現在岡山県恩原２遺跡でも知られ、その資料に対する詳細な説明に換って、歴史的な評価、あるいは解釈が与えられている（稲田編　1996）。柳又遺跡Ａ地点の第Ｖ層文化層の石器群も含め、今後とも各地の細石刃剥離技術の系統を検討していくともに、選択される石器石材、あるいは共伴する石器器種組成を検討してゆく必要がある。柳又遺跡Ａ地点の第Ｖ層文化層も多く俎上にのることを期待したい。

石器石材の特徴も先の細石刃の技術系統を考えてゆくうえで不可欠な視座であろう。特に細石刃とその関係資料は、黒曜石に加えて、あるいは以上の比率で玻璃質安山岩を主に用いており、製作される細石刃自体と石材の関連はすでに見たとおりである。また本文化層に組成する掻器・削器・細部調整剥片等の剥片石器や石刃、剥片・砕片、石核は、チャートが高い割合を占めてしており、細石刃とその関連に資料に見られる石器石材とは異なっており、あたかも器種別に石材が補完関係にあるようにも見える。特に当該文化層の母岩別資料に関して限れば、チャートのものしか把握されておらず、開田高原でチャートが比較的容易に入手できることを考慮すれば、注目される傾向といえよう。

ところで今回の調査成果の中で、Ｗ・Ｘ－８区から出土した大形の石刃を素材とするチャート製彫器１点、玻璃質安山岩製彫器抉入石器１点、玻璃質安山岩製抉入石器１点は注意を要す



第171図　第Ｖ層文化層の石器母岩別資料接合配線(1/200)

る石器であろう。

これまでの調査でこのような大形の石刃を素材とする石器は、第Ⅴ層文化層の石器群には含まれておらず、むしろ第Ⅳ層文化層の石器群に見られる特徴である。しかしながら、第Ⅳ層文化層の石器群が珪質頁岩を主要石材とするのに対して、今回発見された石器の使用石材は、他の剥片石器同様のチャートや、細石刃とその関係資料に多く使用されている玻璃質安山岩である。また、これらの石器は観察所見のうえで素材石刃の剥離にあたって打面調整や頭部調整がわずかにしか認められず、その打面が大きいという特徴があり、打面調整や頭部調整が顕著に見られ、打面が小さいことに特徴のある第Ⅳ層文化層の大形の石刃とは、剥離技術上大きく異なっているため、第Ⅳ文化層の大形石刃とは異なる石刃と判断した。

そのうえで、これらの石器の検出層位を再度検討し、これまで確認されている第Ⅴ層文化層の石器群の下位に位置することから第Ⅴ層文化層に帰属するものと判断したところである。しかしながら、類似する石器群が他の見い出せなかった点は注意される。そして、このような石器製品の素材となっている石刃がひじょうに大形である点は、帰属すべき文化層としては否定したものの、第Ⅳ層文化層の石器群との関わりを意識させるものがある。

特にその石器石材が、玻璃質安山岩と結び付いているように感じられる点は示唆的である。今後とも注意すべき石器群といえよう。

（松島悦子）

(4)　第VI層Ｍ文化層

第VI層Ｍ文化層は、第４次調査で新たに認定された文化層である。

第VI層上部から中部にかけて包含され、Ｃ－12・13区で確認された礫群１基と石器ブロック１箇所がある。Ｃ－12・13区で確認された礫群を構成する礫の検出層位から、第VI層中部に生活面が想定される。

なお、１基の礫群と１か所の石器ブロックは、いずれも発掘区以西へのひろがりが予想されるが、未調査のため分布状態について多くは判断できない。

なお、第７次調査を終了した現在、これまでの７年次にわたる発掘区となった部分全体を見渡しても、Ｃ－12・13区で確認された礫群１基と石器ブロック１箇所のみである。

第VI層Ｍ文化層は、ナイフ形石器１点、石刃３点、細部調整石刃１点、その他剥片12点、礫群を構成する礫57点を加えても、わずか73点に過ぎない。そのため、石器器種組成や石器石材の特徴といった石器群の様相は不明な点も多く、全容を把握するには至っていない。これらの石器のうち、ナイフ形石器は石刃を素材として、一側縁にプランティング加工を施し、素材の打面を残置する。

しかし、出土した石器は少量であり、ナイフ形石器も１点のみであることから、形態等から当該文化層の編年的位置づけを求めることは困難と思われる。　（栗田一生）

表22　第Ⅴ層文化層石器器種別石材別点数

単位＝点

器種	チャート	黒曜石	珪質頁岩	流紋岩質安山岩	流紋岩質凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩質頁岩	安山岩	黒色緻密安山岩	粘板岩	砂岩	ホルンフェルス	珪岩	玉髄	石英	不明	総計
細石刃石核	1	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
細石刃石核原形	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
細石刃石核素材	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
細石刃石核打面形成剥片	2	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
細石刃石核打面再生剥片	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
細石刃剥離作業面再生剥片	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
細石刃石核調整剥片	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
細石刃	7	156	123	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	287
槍先形尖頭器	6	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
尖頭器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
両面調整石器	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
彫器	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
彫器掻器	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
彫器抉入石器	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
掻器	17	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
削器	22	4	4	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	34
鋸形削器	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
抉入石器	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
細部調整石刃	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
細部調整剥片	50	22	8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	82
楔形石器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石刃	34	7	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46
石刃状剥片	23	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
石核	55	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56
石斧	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
敲石	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
礫器	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0	0	5
素材	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
鋭付剥片	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
微細剥離痕を有する剥片	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
剥片	1837	346	264	132	9	6	42	1	9	1	8	1	28	26	1	1	18	2730
砕片	236	3	14	2	0	0	0	0	3	0	6	18	0	0	0	0	0	282
総計	2312	566	457	139	11	7	43	1	16	5	14	21	29	26	1	1	19	3668

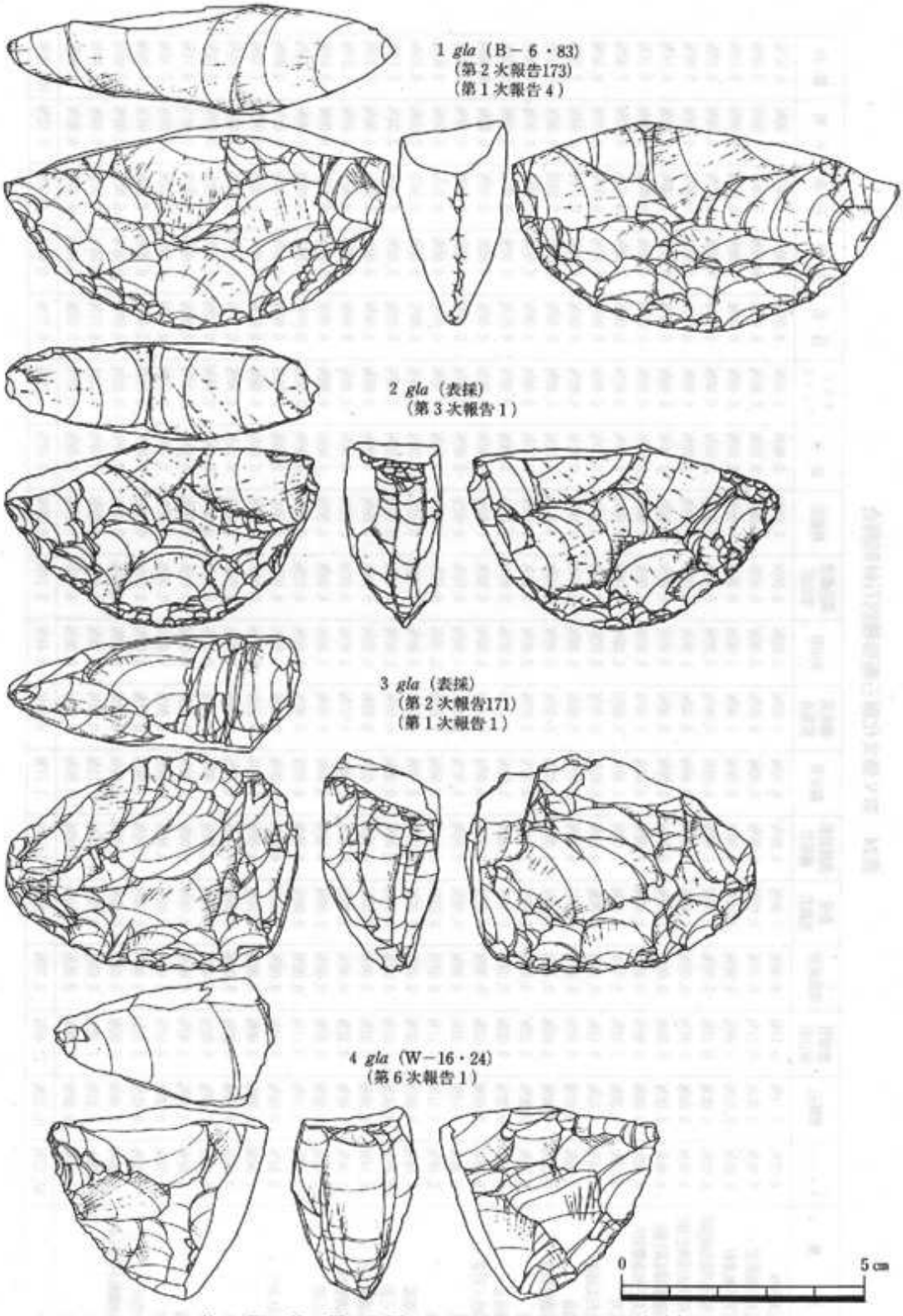
表23　第V層文化層石器器種別石材別重量

単位＝g

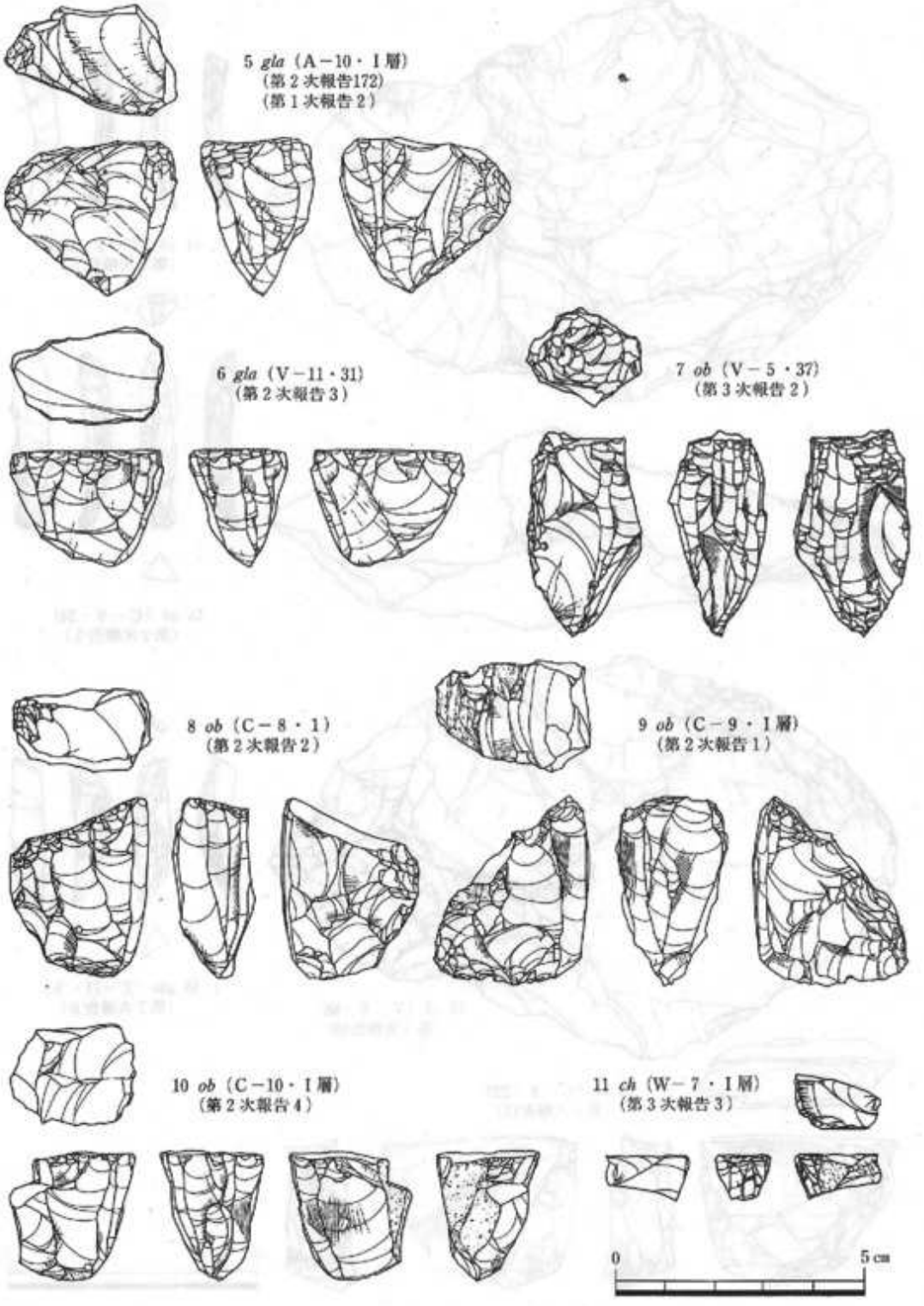
器種	チャート	黒曜石	玻璃質安山岩	珪質頁岩	濃緑流紋岩	流紋岩質凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩質頁岩	安山岩	黒色緻密安山岩	粘板岩	砂岩	ホルンフェルス	珪岩	玉髄	石英	不明	総計
細石刃石核	1.64	80.69	156.48	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	238.81
細石刃石核原形	0.00	17.34	120.89	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	138.23
細石刃石核素材	282.59	32.04	261.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	575.72
細石刃石核打面形成剥片	15.22	15.62	71.74	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	102.58
細石刃石核打面再生剥片	0.00	1.28	2.36	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.64
細石刃剥離作業面再生剥片	0.00	2.77	22.47	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	25.24
細石刃石核調整剥片	0.00	5.58	2.77	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.35
細石刃	1.72	31.78	35.86	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	69.46
槍先形尖頭器	41.58	0.00	21.19	9.87	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	72.64
尖頭器	0.00	6.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.03
両面調整石器	20.24	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	383.77	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	404.01
彫器	56.01	0.00	1.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	57.76
彫器掻器	0.00	0.00	0.00	20.61	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	20.61
彫器抉入石器	0.00	0.00	64.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	64.83
掻器	375.84	39.41	33.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	448.65
削器	470.44	42.46	54.42	0.00	75.48	0.00	0.00	0.00	0.00	138.78	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	781.58
緑形削器	0.00	0.00	7.86	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	7.86
抉入石器	30.36	0.00	18.74	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	49.10
端部調整石刃	36.01	3.68	20.16	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	59.85
縁部調整剥片	773.05	162.75	70.48	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	64.97	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.38	1071.63
楔形石器	12.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	12.08
石刃	257.07	29.18	21.73	1.41	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	309.39
石刃状剥片	108.50	0.89	7.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	116.66
石核	4905.35	14.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4920.27
石斧	0.00	0.00	0.00	0.00	192.09	192.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	384.18
敲石	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	332.03	0.00	0.00	1109.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1441.03
磨器	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5011.50	0.00	0.00	1635.40	856.90	0.00	0.00	0.00	0.00	7503.80
素材	578.49	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	578.49
機付剥片	0.00	1.64	0.79	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.43
微細剥離痕を有する剥片	84.45	0.00	0.00	5.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	89.72
剥片	6805.05	320.47	151.72	145.28	52.23	48.42	92.84	0.02	463.85	57.01	64.11	1.40	82.50	136.14	0.10	9.10	3.26	8433.50
砕片	422.74	0.17	3.26	0.76	0.00	0.00	0.00	0.00	2.12	0.00	1.83	6.95	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	437.83
総計	15278.40	808.70	1151.26	183.30	319.80	240.51	476.61	0.02	5809.50	260.76	65.94	2752.75	939.40	136.14	0.10	9.10	3.64	28435.96

表24　第Ⅴ層文化層石器器種別石材別割合

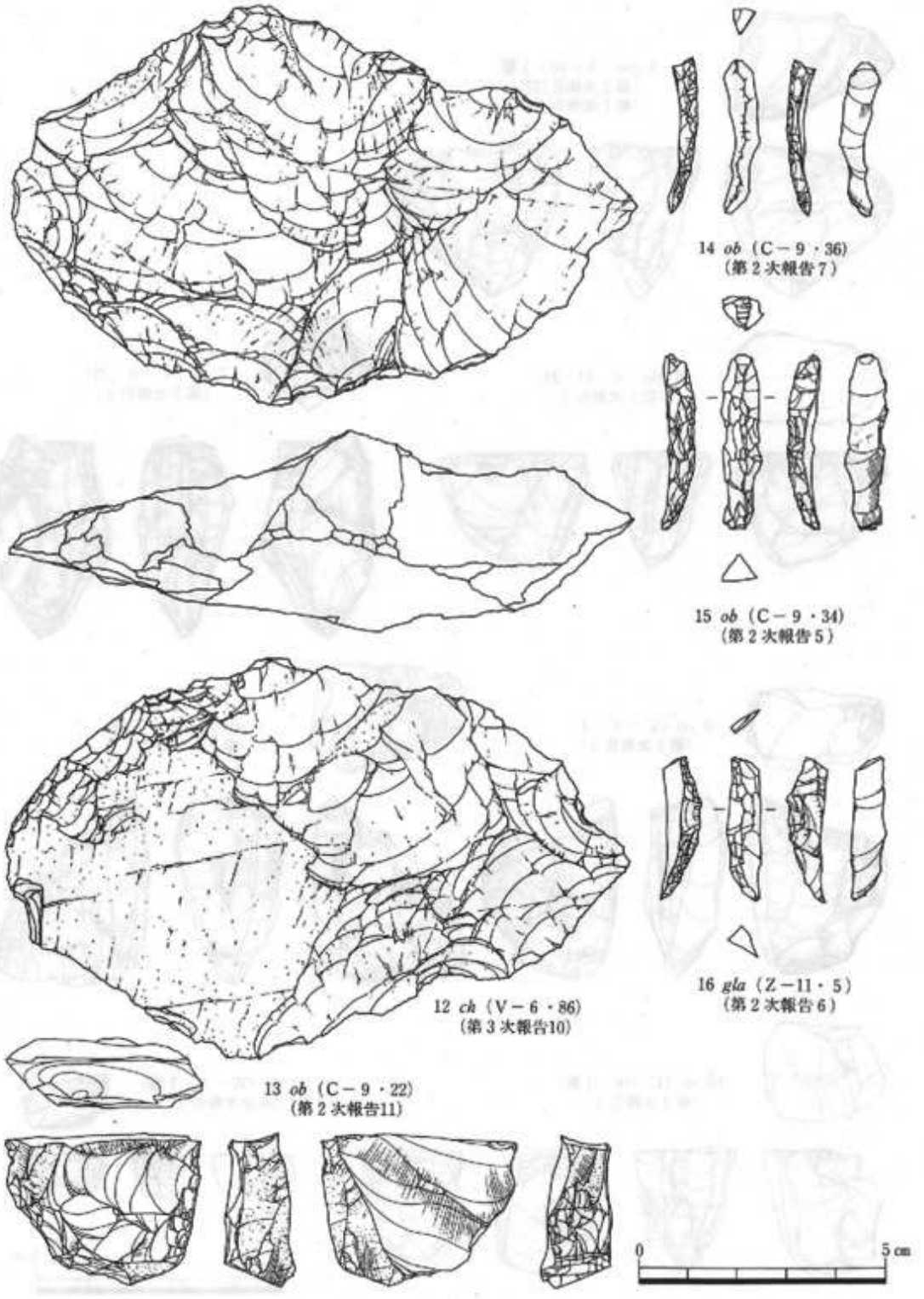
器種	チャート	黒曜石	玻璃質安山岩	珪質頁岩	濃飛流紋岩	流紋岩質凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩質頁岩	安山岩	黒色緻密安山岩	粘板岩	砂岩	ホルンフェルス	珪岩	玉髄	石英	不明	総計
細石刃石核	0.03%	0.14%	0.14%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.30%
細石刃石核原形	0.00%	0.03%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%
細石刃石核素材	0.05%	0.06%	0.08%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.19%
細石刃石核打面形成剥片	0.05%	0.06%	0.22%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.33%
細石刃石核打面再生剥片	0.00%	0.03%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
細石刃剥離作業面再生剥片	0.00%	0.05%	0.08%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.14%
細石刃石核調整剥片	0.00%	0.08%	0.08%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.16%
細石刃	0.19%	4.25%	3.35%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	7.82%
槍先形尖頭器	0.16%	0.00%	0.19%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.38%
尖頭器	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%
両面調整石器	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
彫器	0.05%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%
彫器掻器	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%
彫器抉入石器	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%
掻器	0.46%	0.14%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.63%
削器	0.60%	0.11%	0.11%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.93%
錐形削器	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%
抉入石器	0.08%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.11%
細部調整石刃	0.14%	0.05%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.22%
細部調整剥片	1.36%	0.60%	0.22%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%	2.24%
楔形石器	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%
石刃	0.93%	0.19%	0.11%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.25%
石刃状剥片	0.63%	0.03%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.68%
石核	1.50%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.53%
石斧	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
敲石	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
礫器	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%	0.00%	0.00%	0.03%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.14%
素材	0.16%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.16%
被付剥片	0.00%	0.05%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%
微細剥離痕を有する剥片	0.05%	0.00%	0.00%	0.03%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%
剥片	50.08%	9.43%	7.20%	3.60%	0.25%	0.16%	1.15%	0.03%	0.25%	0.03%	0.22%	0.03%	0.76%	0.71%	0.03%	0.03%	0.49%	74.43%
砕片	6.43%	0.08%	0.38%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%	0.00%	0.16%	0.49%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	7.69%
総計	63.03%	15.43%	12.46%	3.79%	0.30%	0.19%	1.17%	0.03%	0.44%	0.14%	0.38%	0.57%	0.79%	0.71%	0.03%	0.03%	0.52%	100.00%



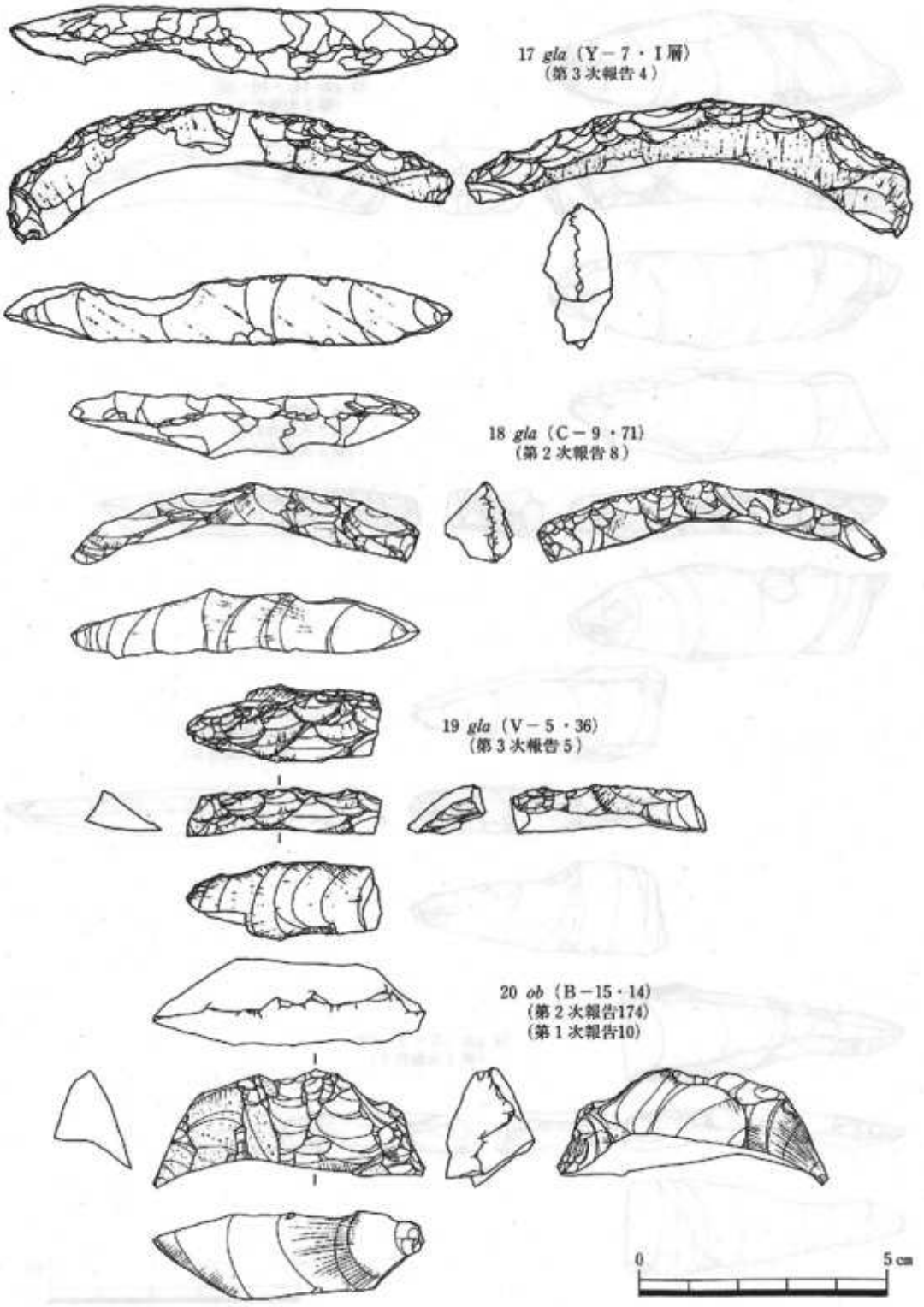
第172図　第Ⅴ層文化層の石器(1)細石刃石核・原形(3/4)



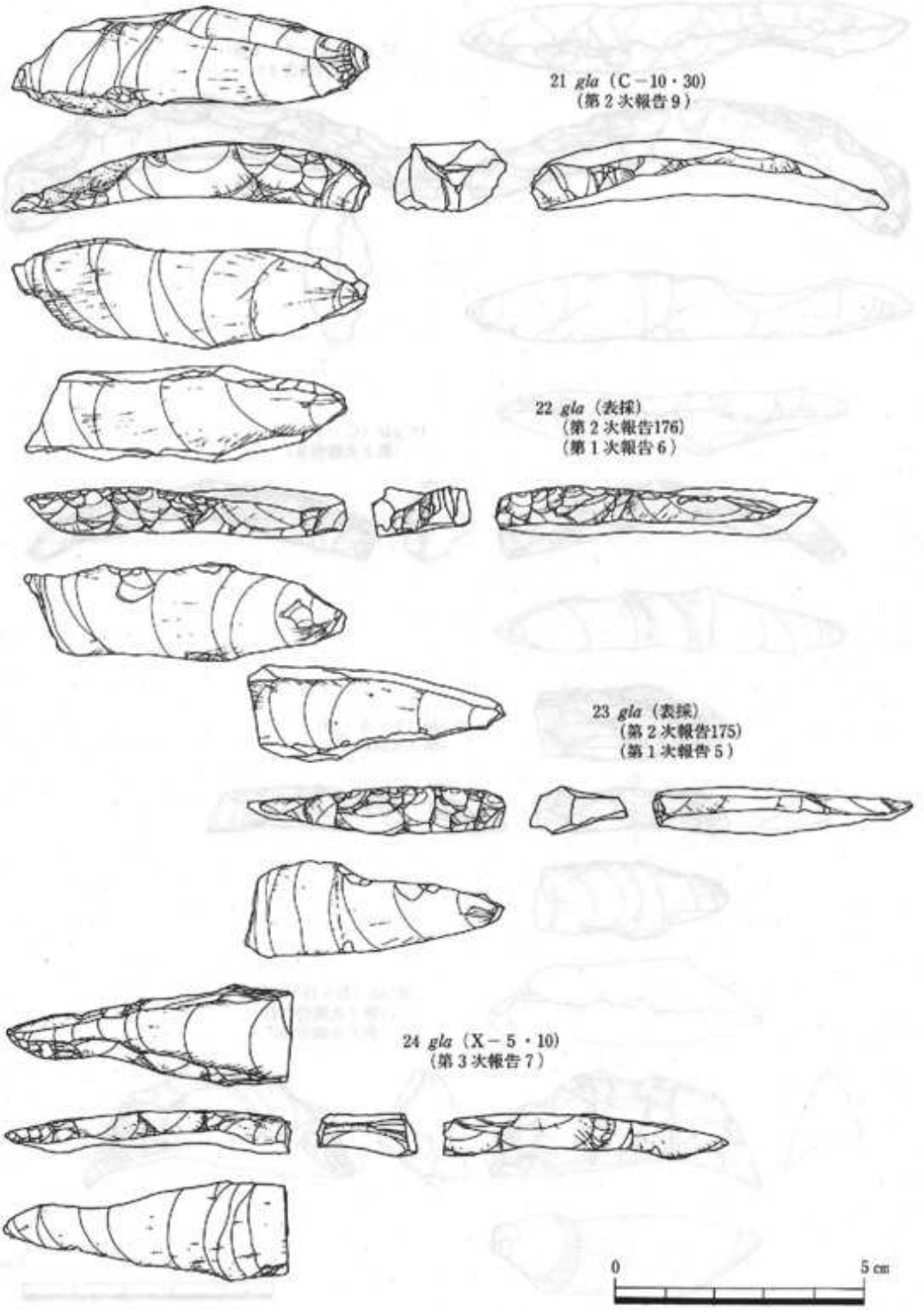
第173図　第Ⅴ層文化層の石器(2)細石刃石核(3/4)



第174図　第Ⅴ層文化層の石器(3)細石刃石核素材、原形、稜付削片(3/4)

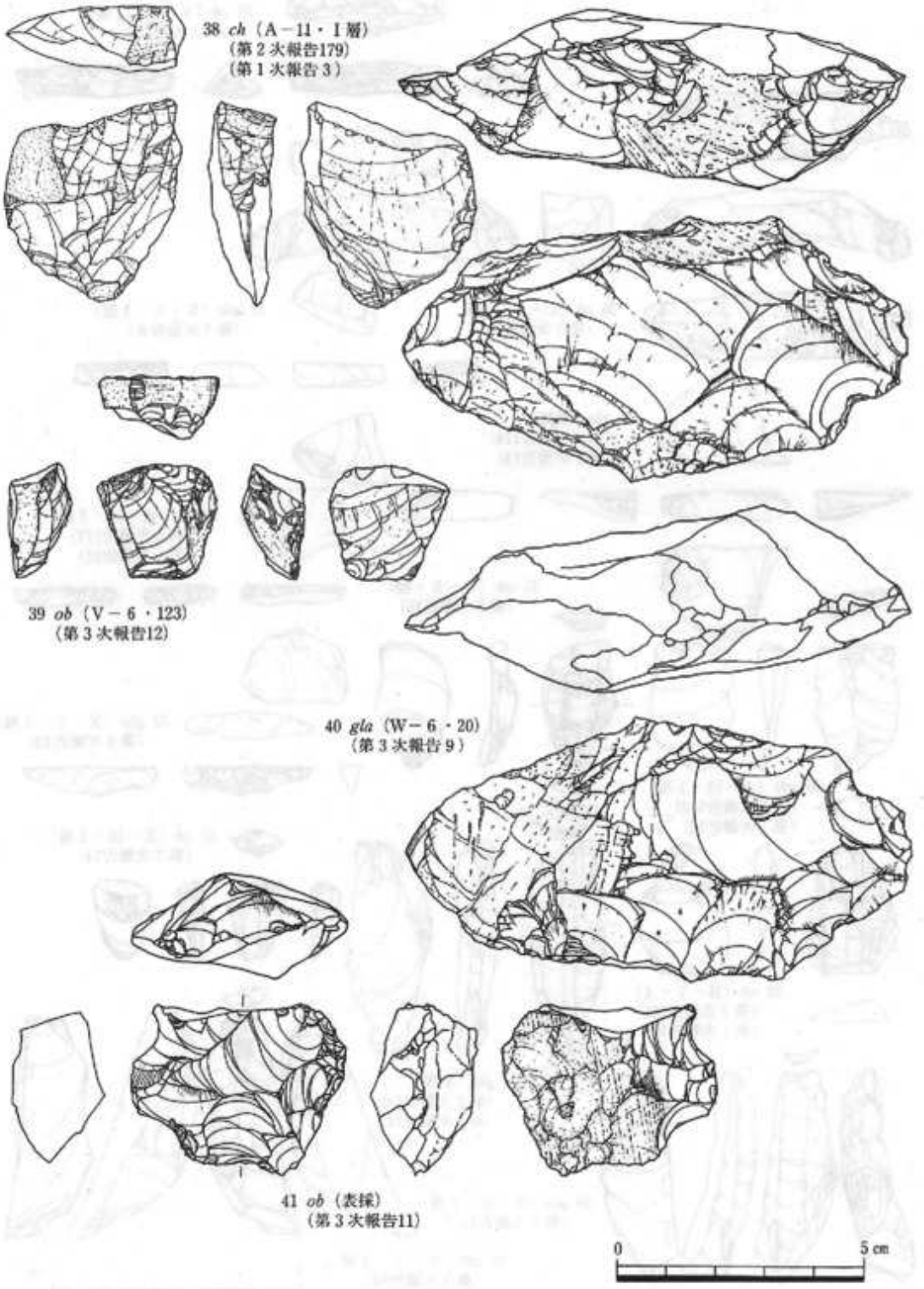


第175図　第V層文化層の石器(4)打面形成削片(3/4)

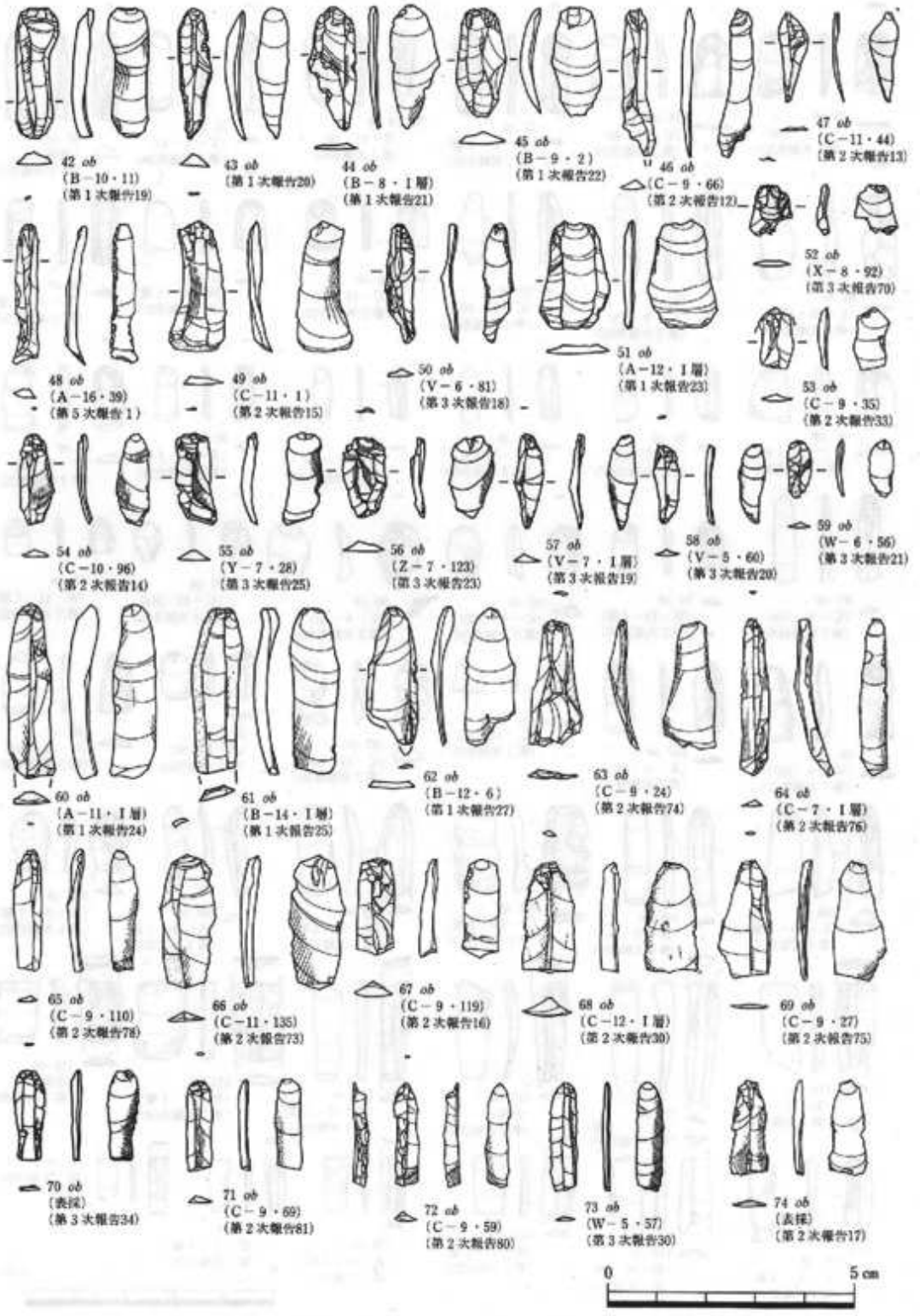


第176図　第Ⅴ層文化層の石器(5)打面形成削片(3/4)

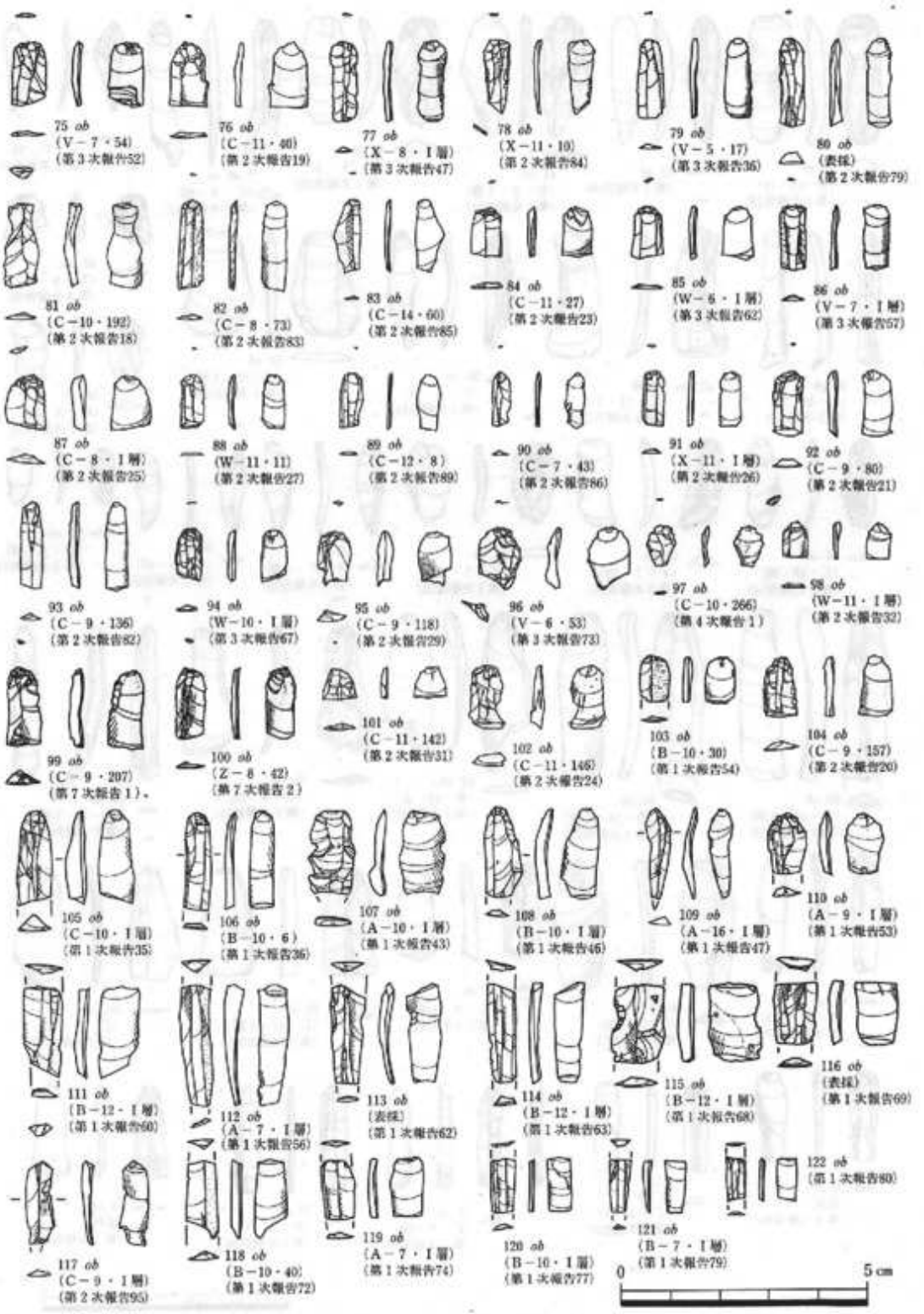
第177図　第Ⅴ層文化層の石器(6)打面形成剥片、打面再生剥片、調整剥片(3/4)



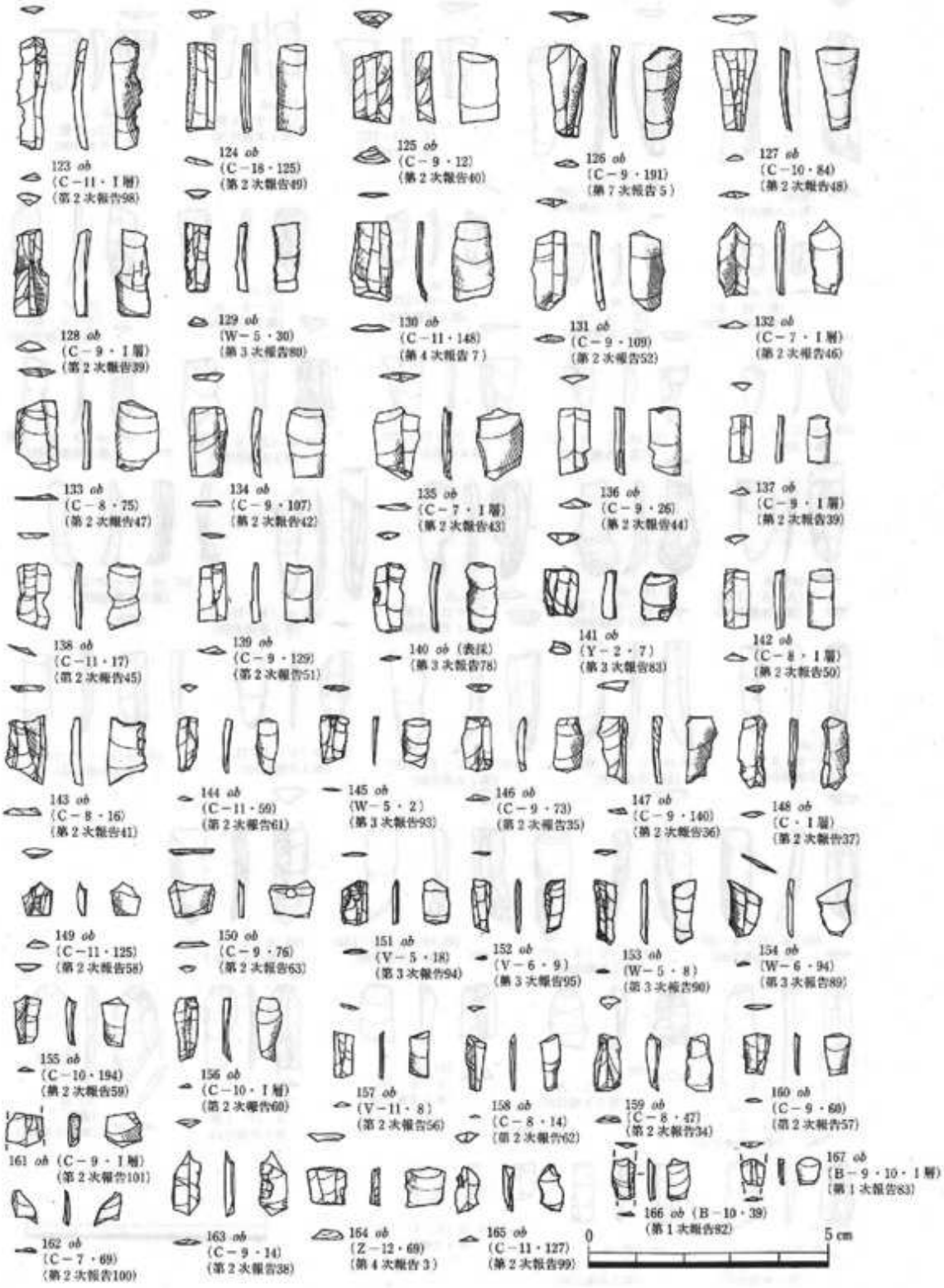
第178図　第Ⅴ層文化層の石器(7)細石刃石核素材(3/4)



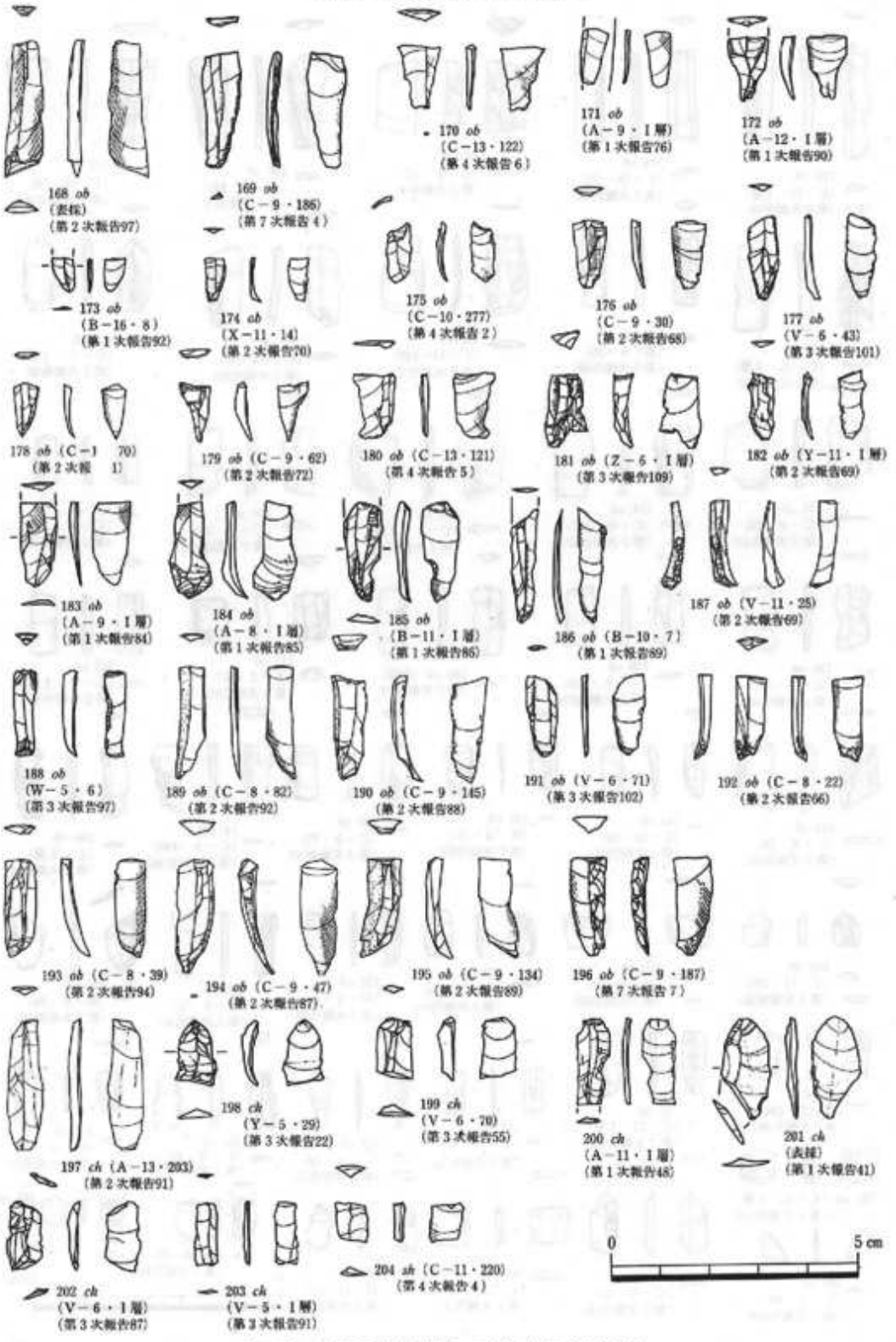
第179図　第Ⅴ層文化層の石器(8)細石刃(3/4)



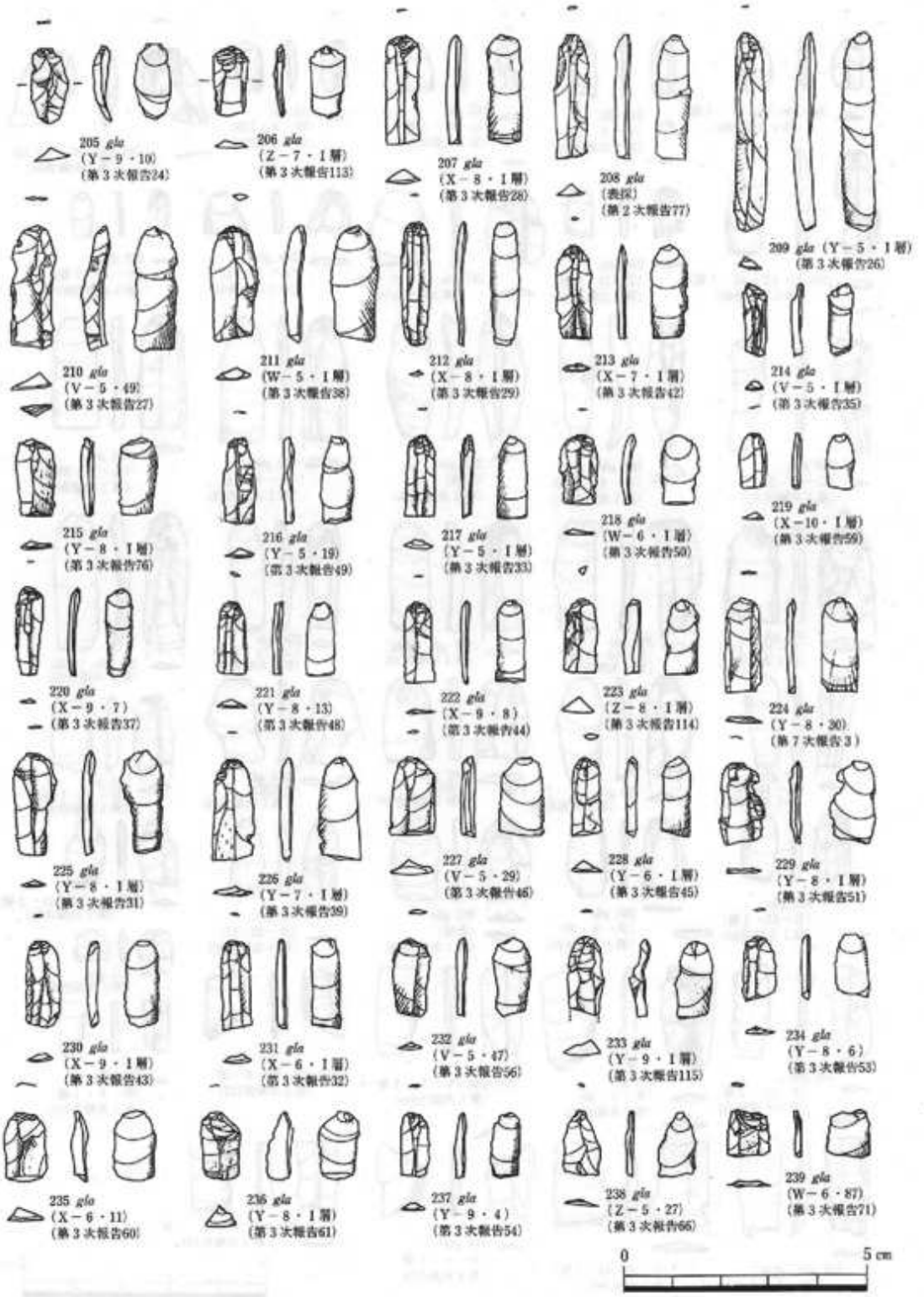
第180図　第Ⅴ層文化層の石器(9)細石刃(3/4)



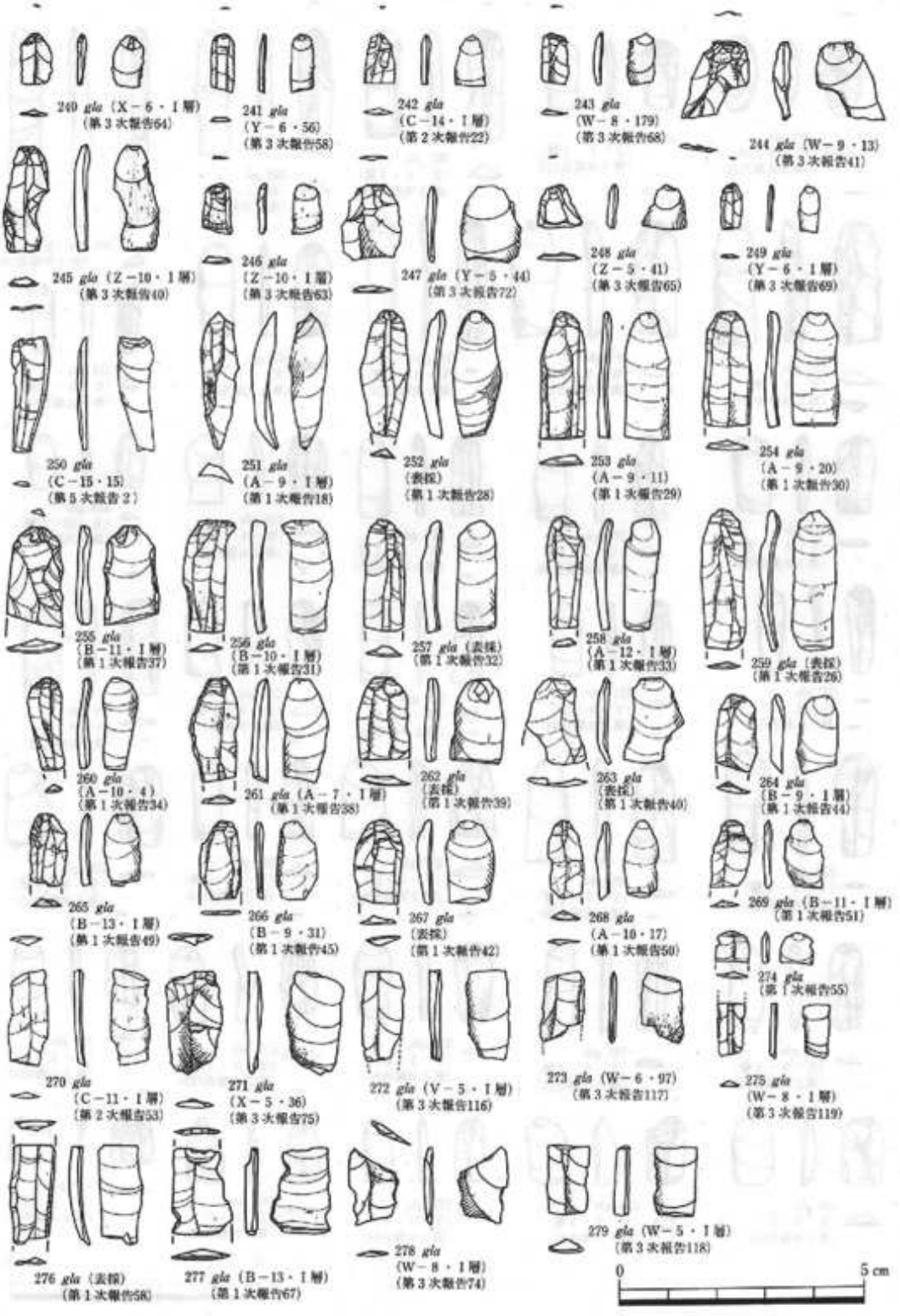
第181図　第Ⅴ層文化層の石器(10)細石刃(3/4)



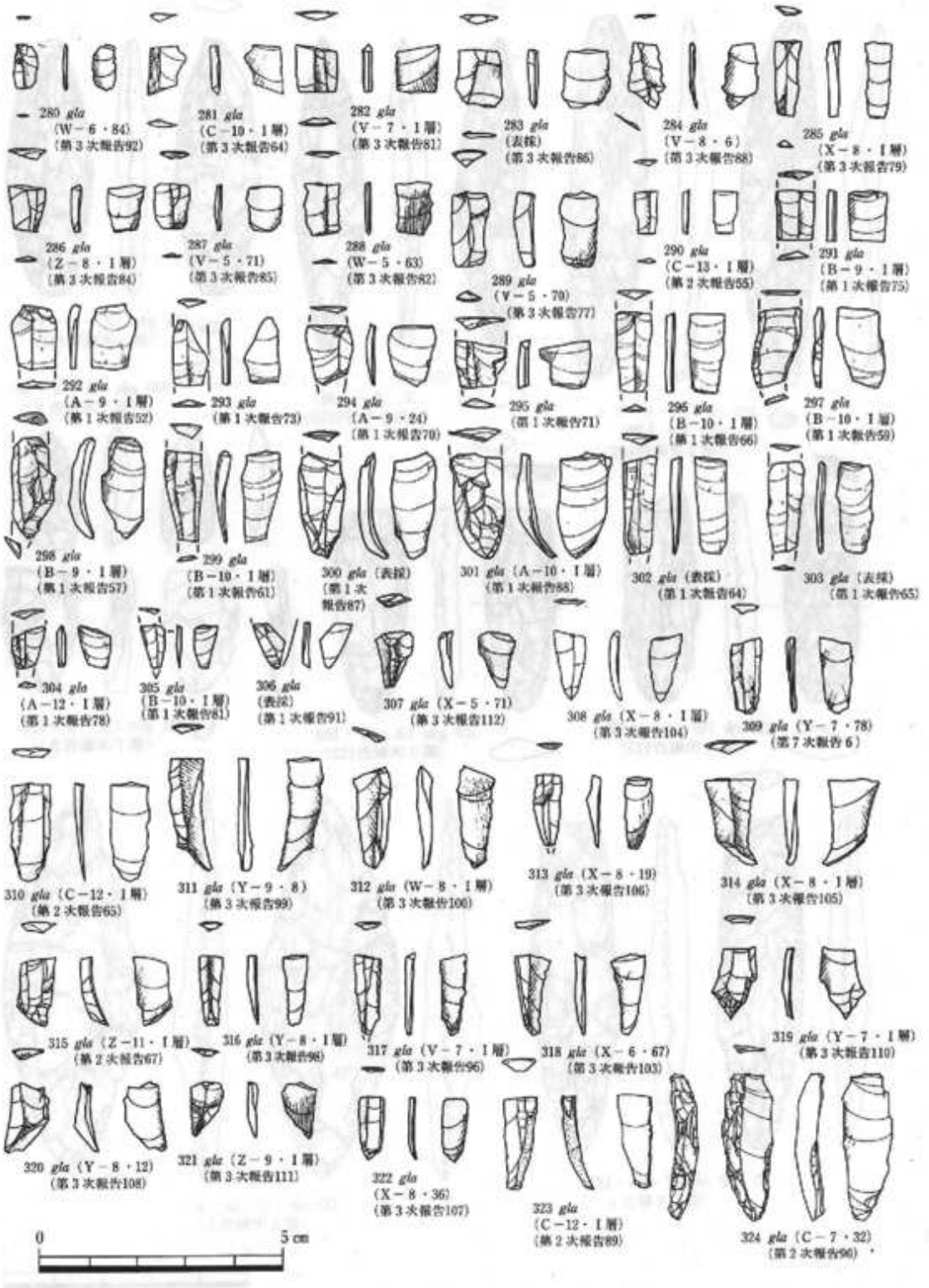
第182図　第Ⅴ層文化層の石器(11)細石刃(3/4)



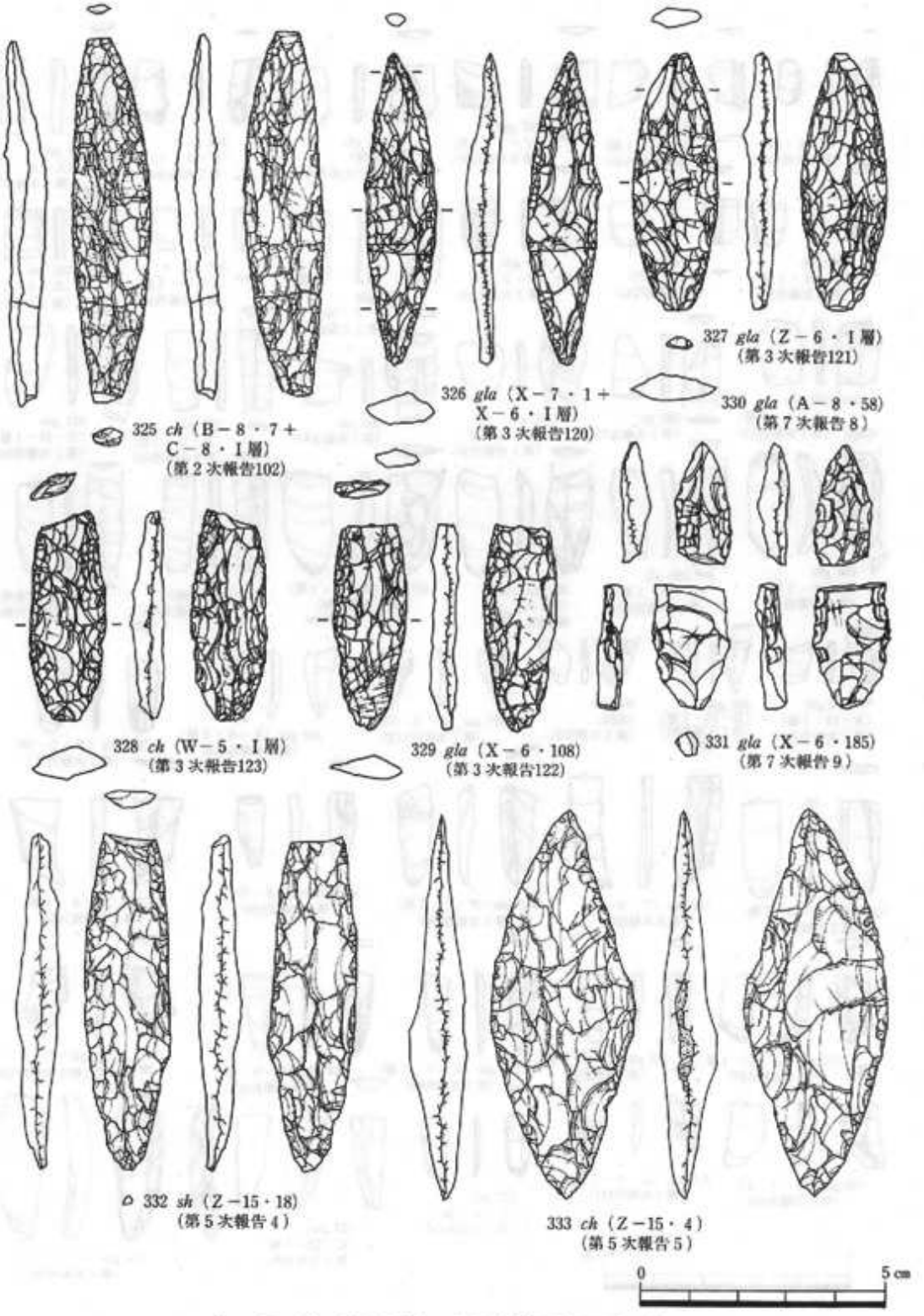
第183図　第Ⅴ層文化層の石器(12)細石刃(3/4)



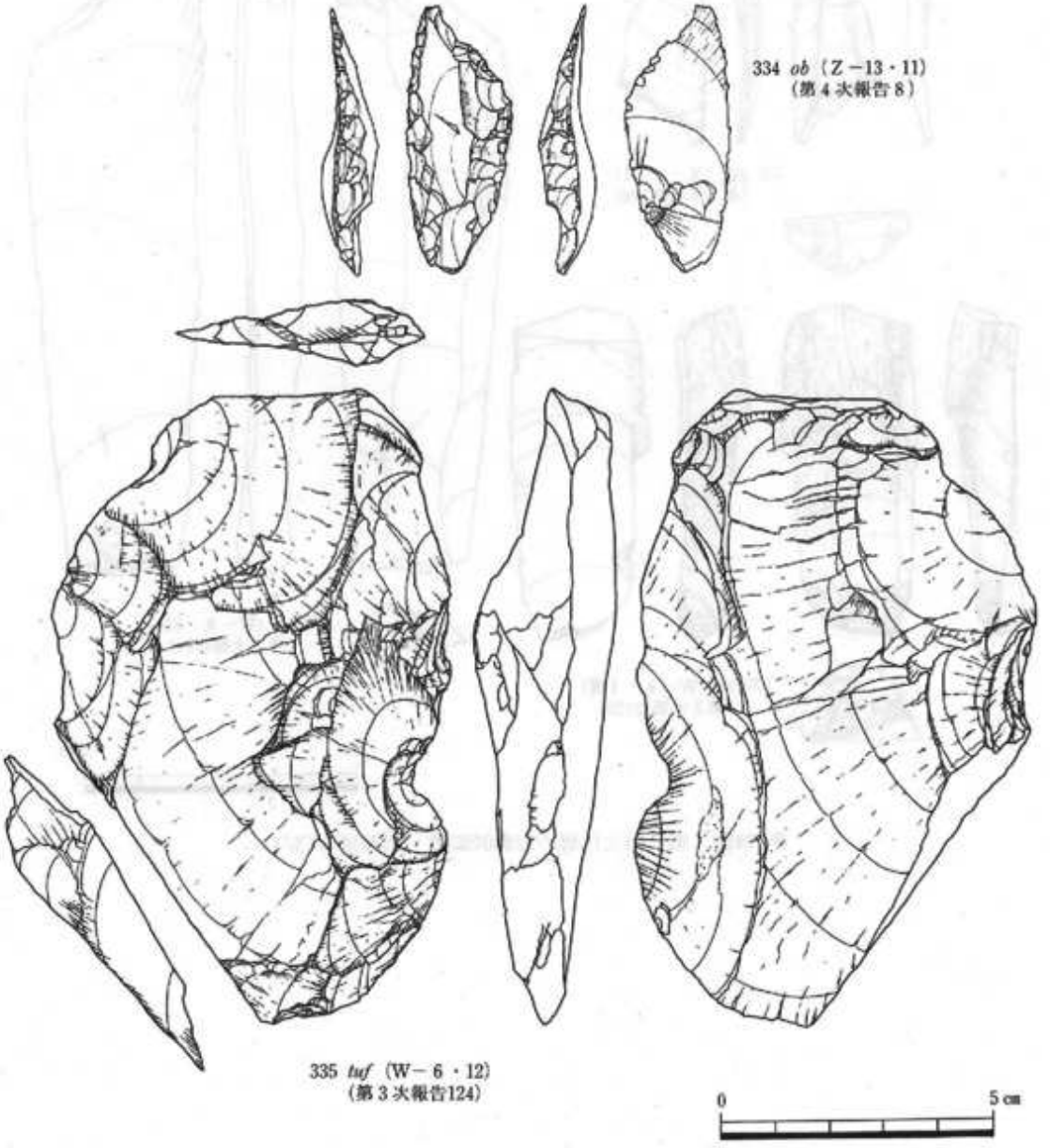
第184図　第Ⅴ層文化層の石器(13)細石刃(3/4)



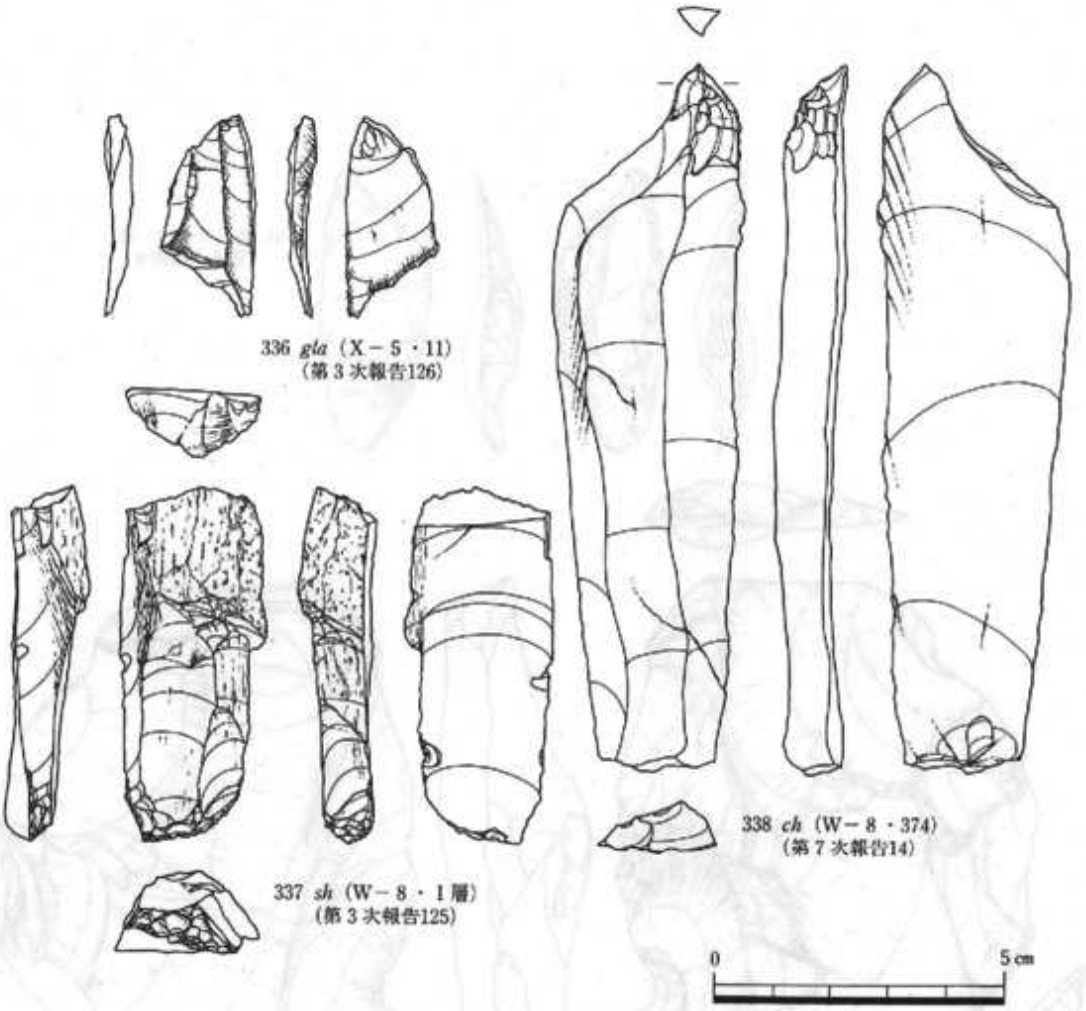
第185図　第V層文化層の石器(4)細石刃(3/4)



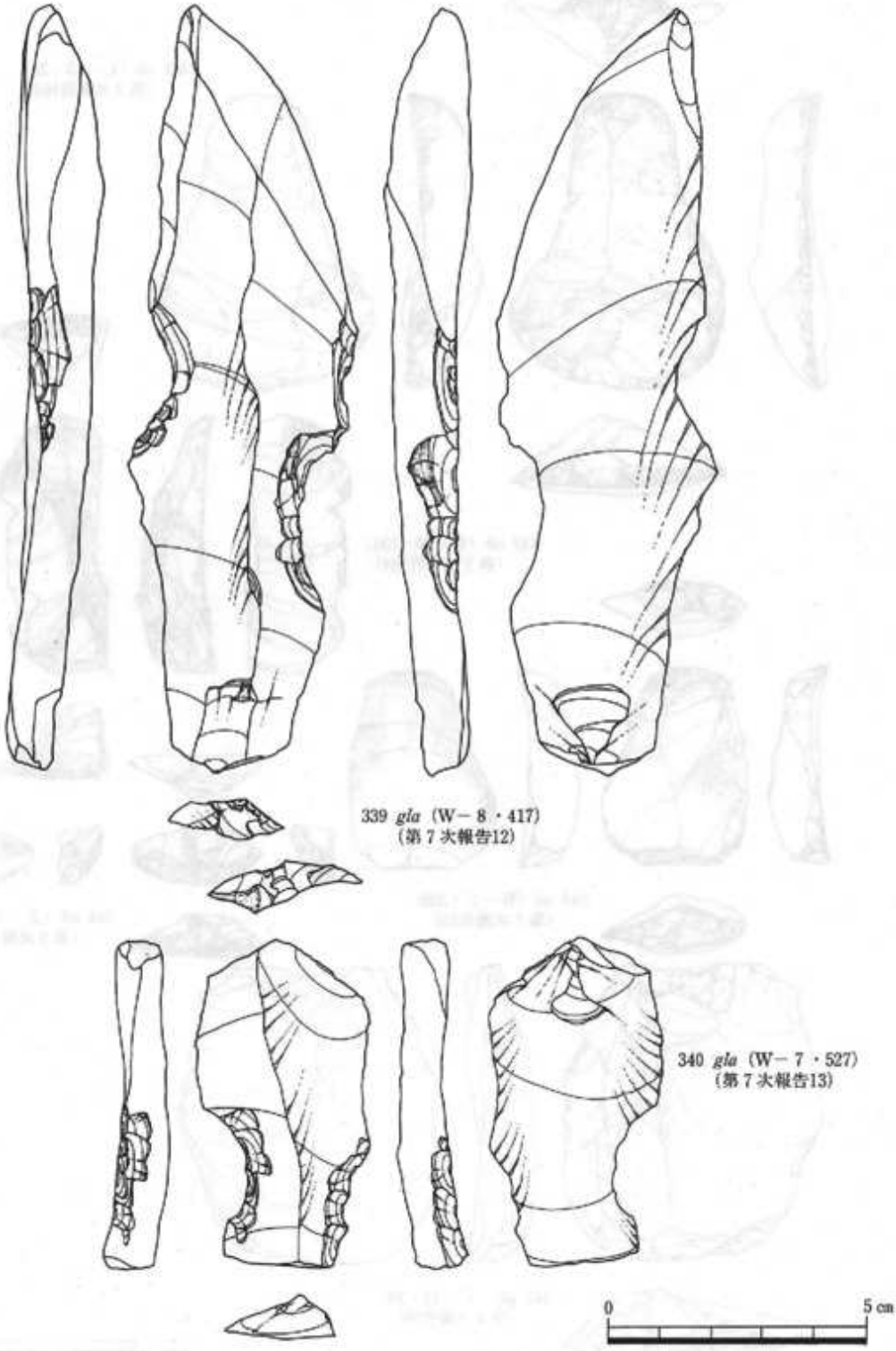
第186図　第Ⅴ層文化層の石器(8)槍先形尖頭器(3/4)



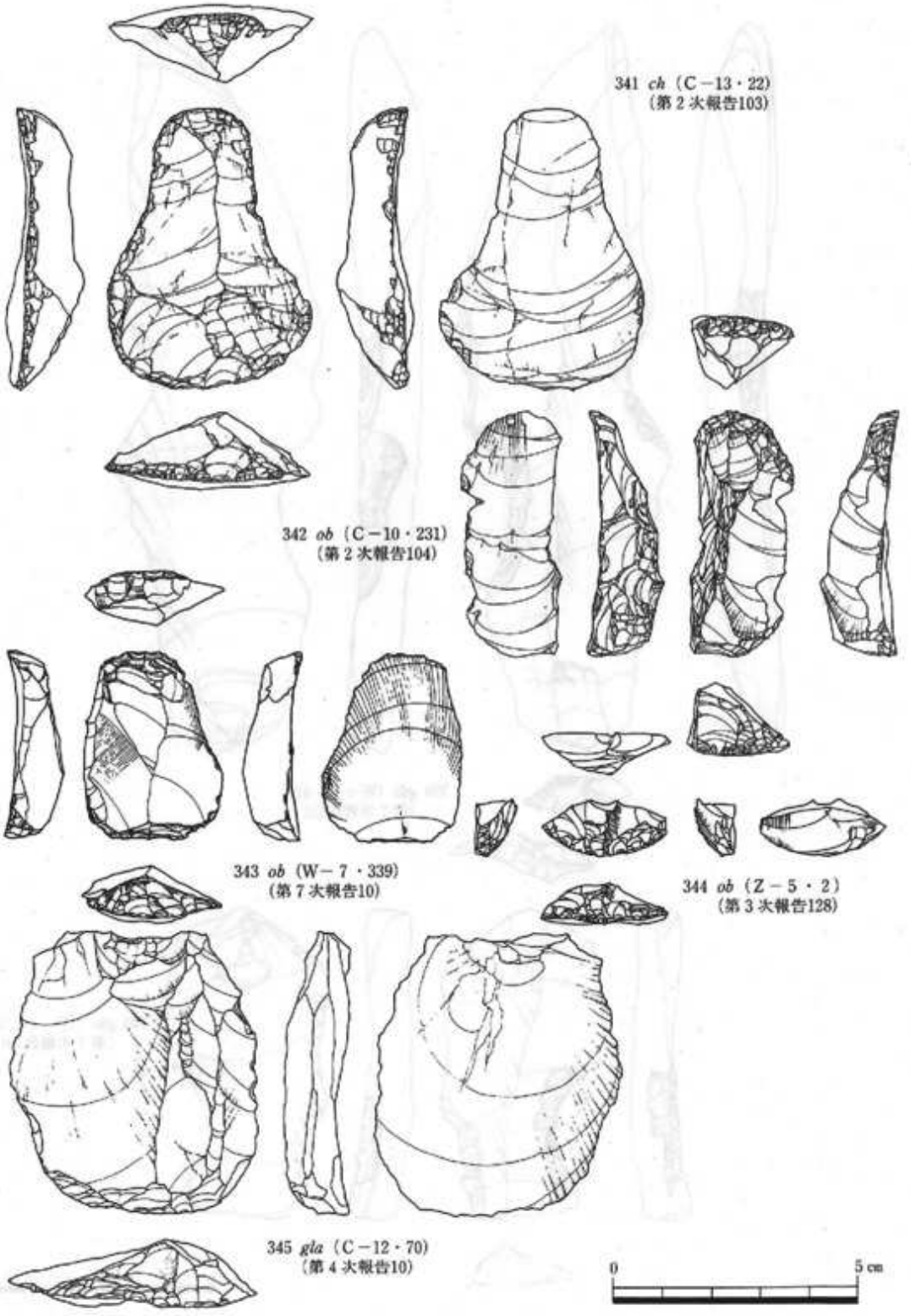
第187図　第V層文化層の石器(6)尖頭器・両面調整石器(3/4)



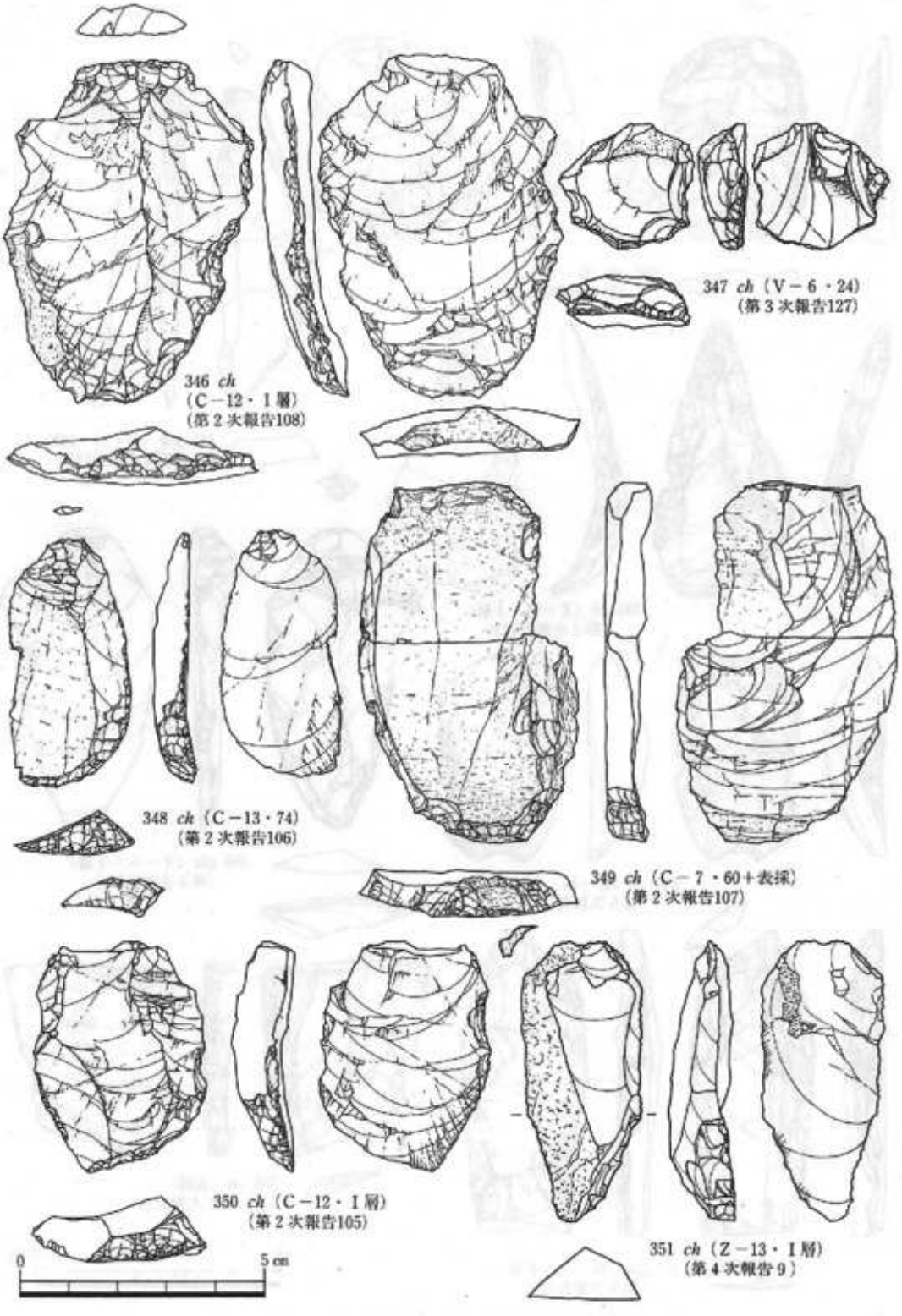
第188図　第Ⅴ層文化層の石器(17)彫器・彫器掻器(3/4)



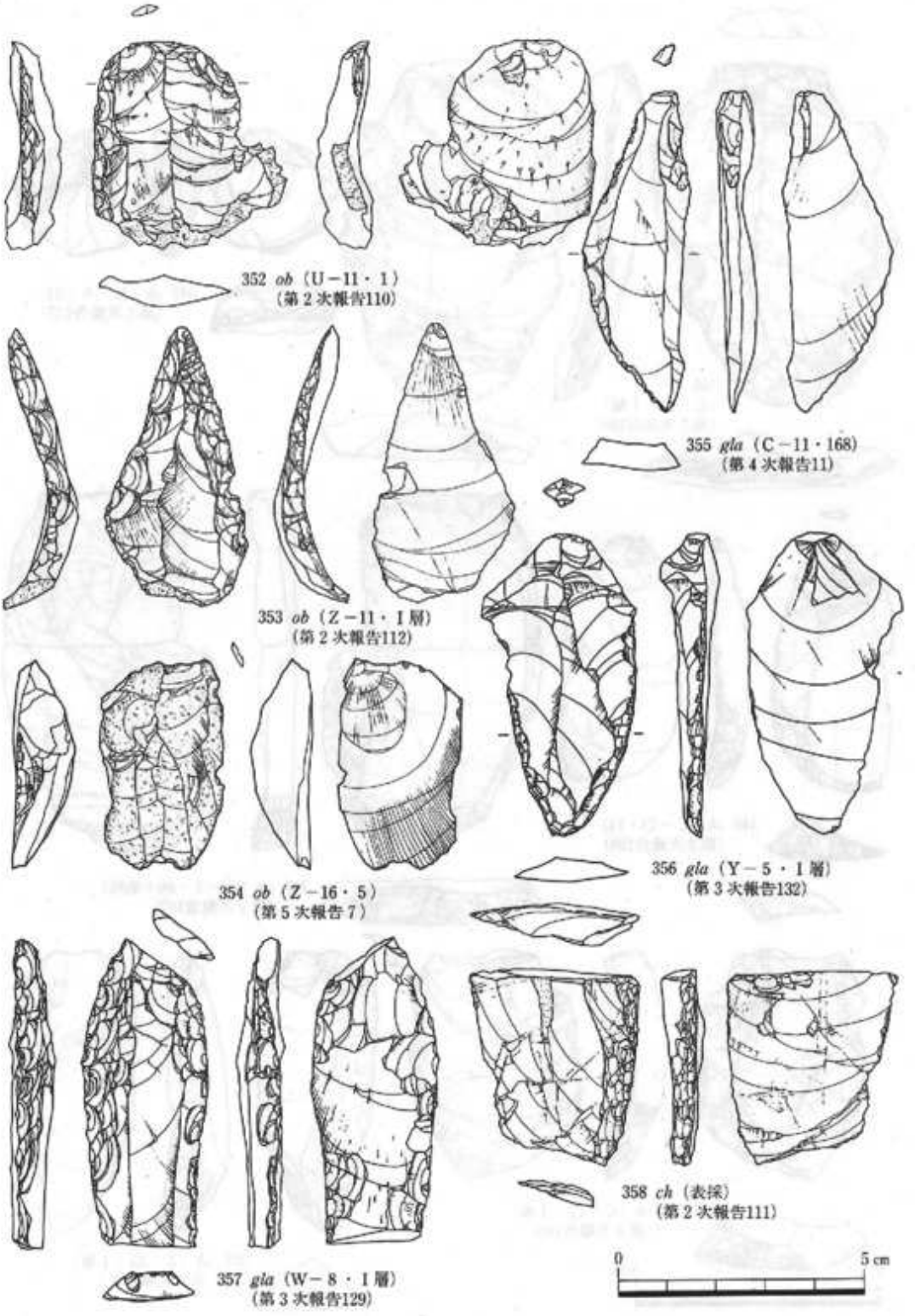
第189図　第Ⅴ層文化層の石器(18)彫器抉入石器・抉入石器(3/4)



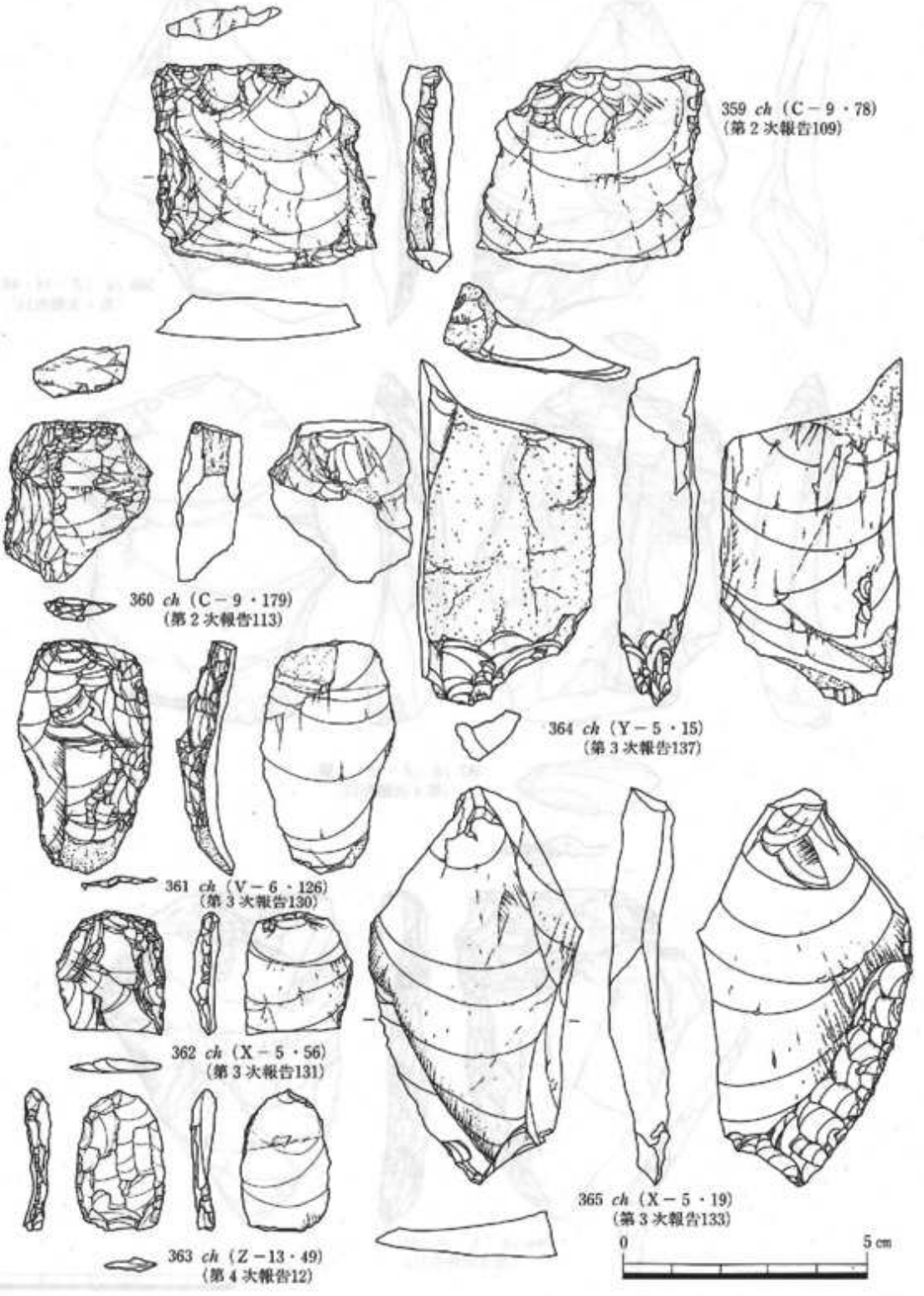
第190図　第Ⅴ層文化層の石器(剥離器(3/4)



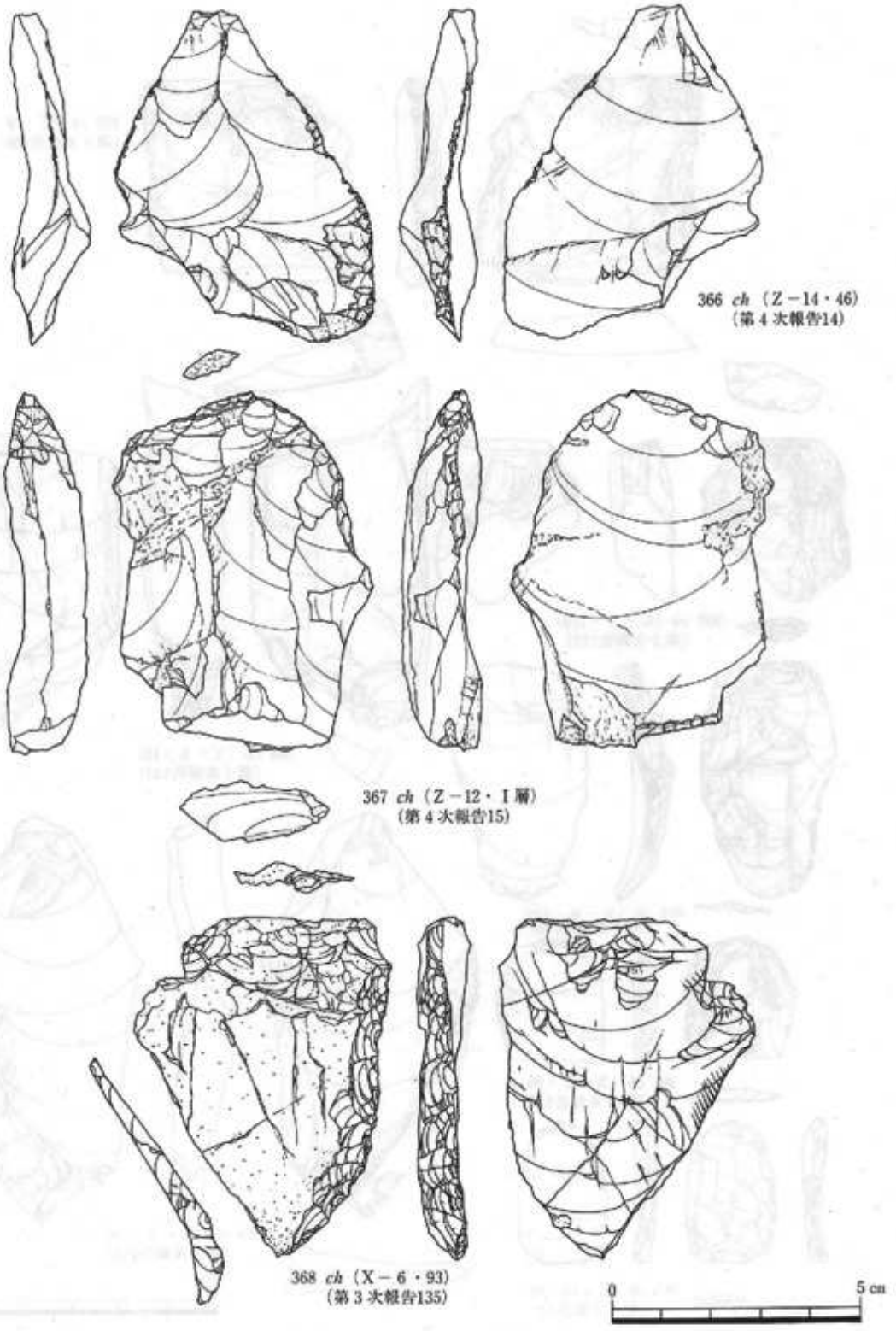
第191図　第V層文化層の石器(2)掻器(3/4)



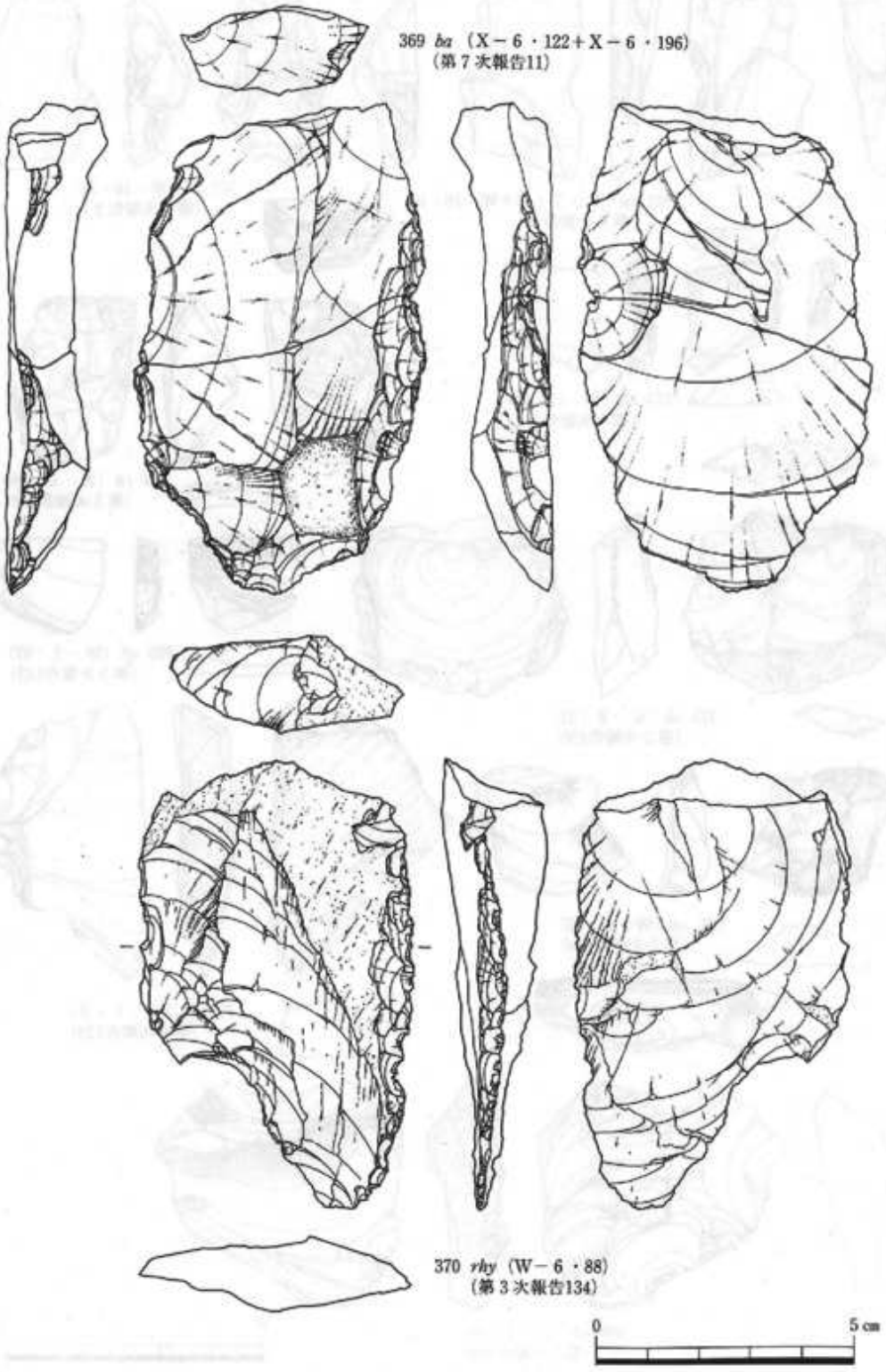
第192図　第Ⅴ層文化層の石器②削器・縦形削器(3/4)



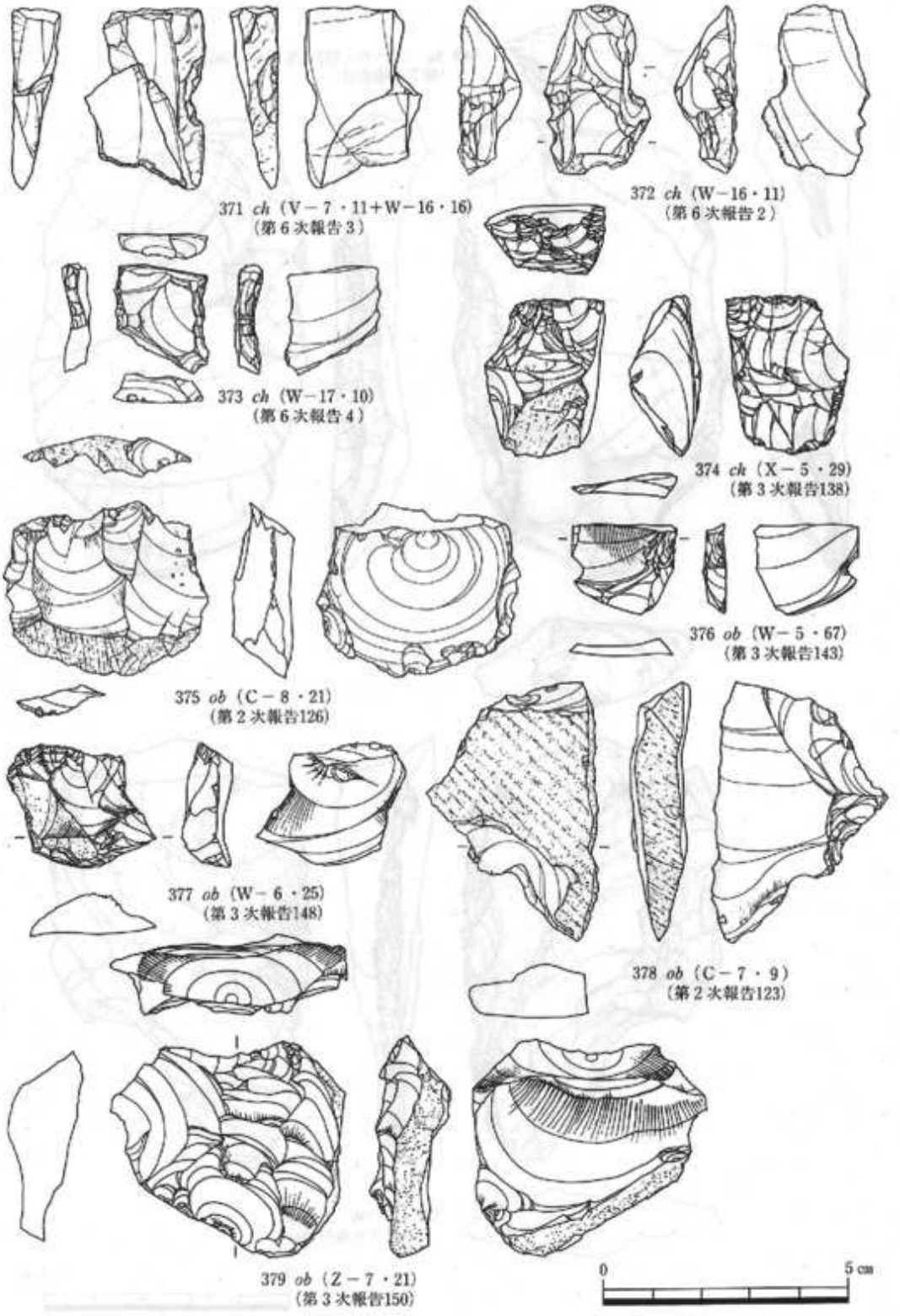
第193図　第V層文化層の石器22削器(3/4)



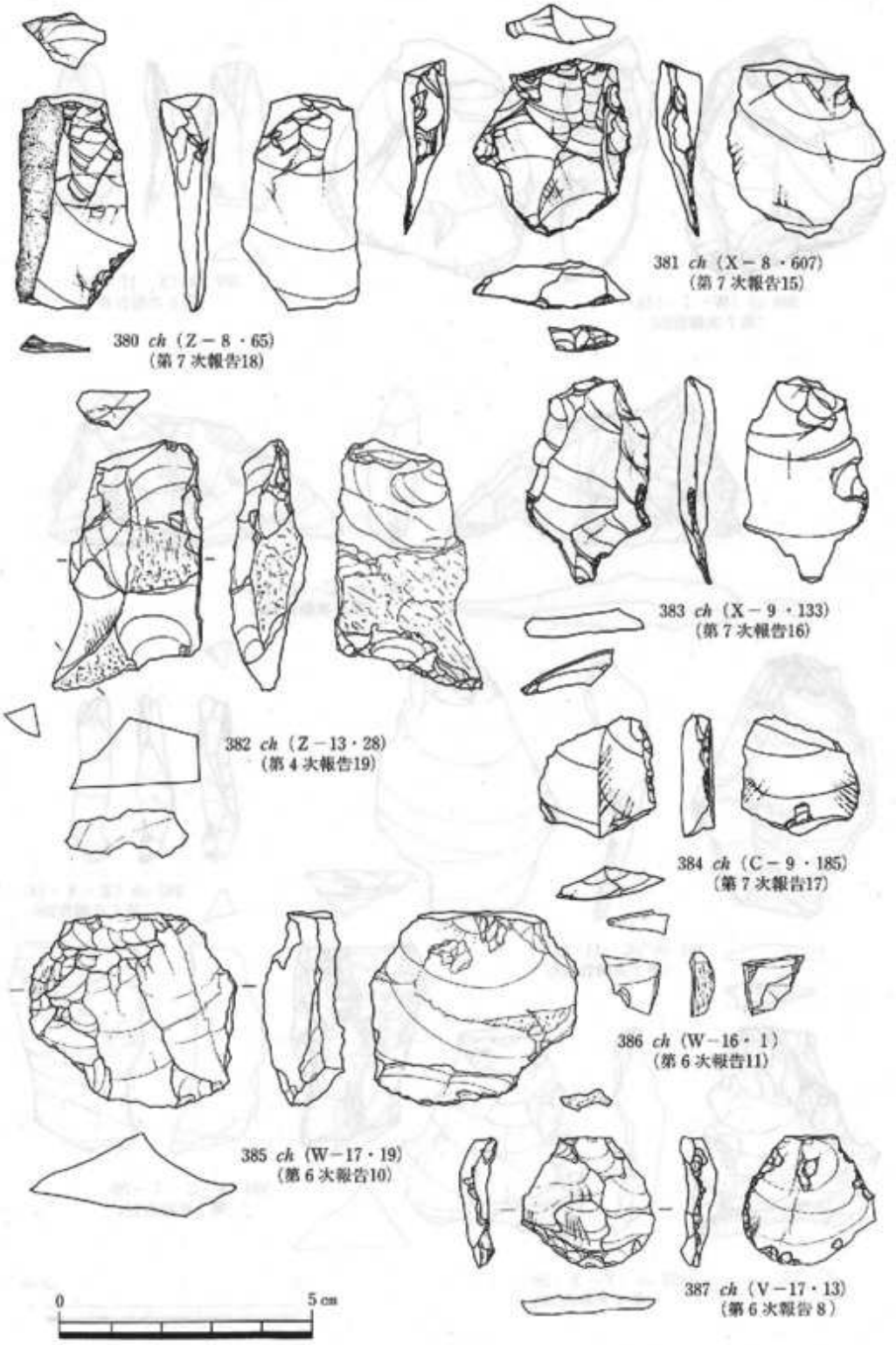
第194図　第Ⅴ層文化層の石器(3)削器(3/4)



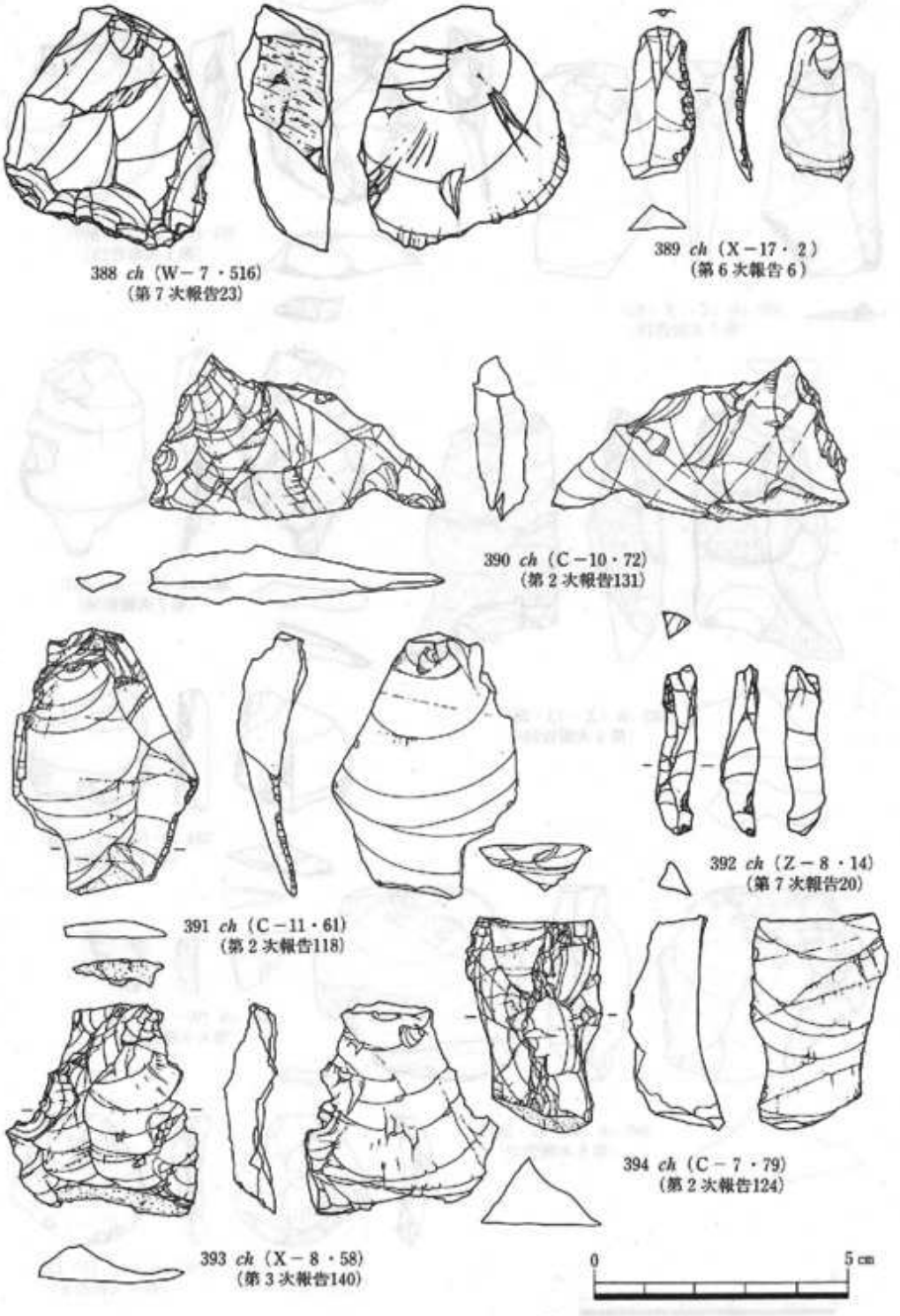
第195図　第V層文化層の石器②削器(3/4)



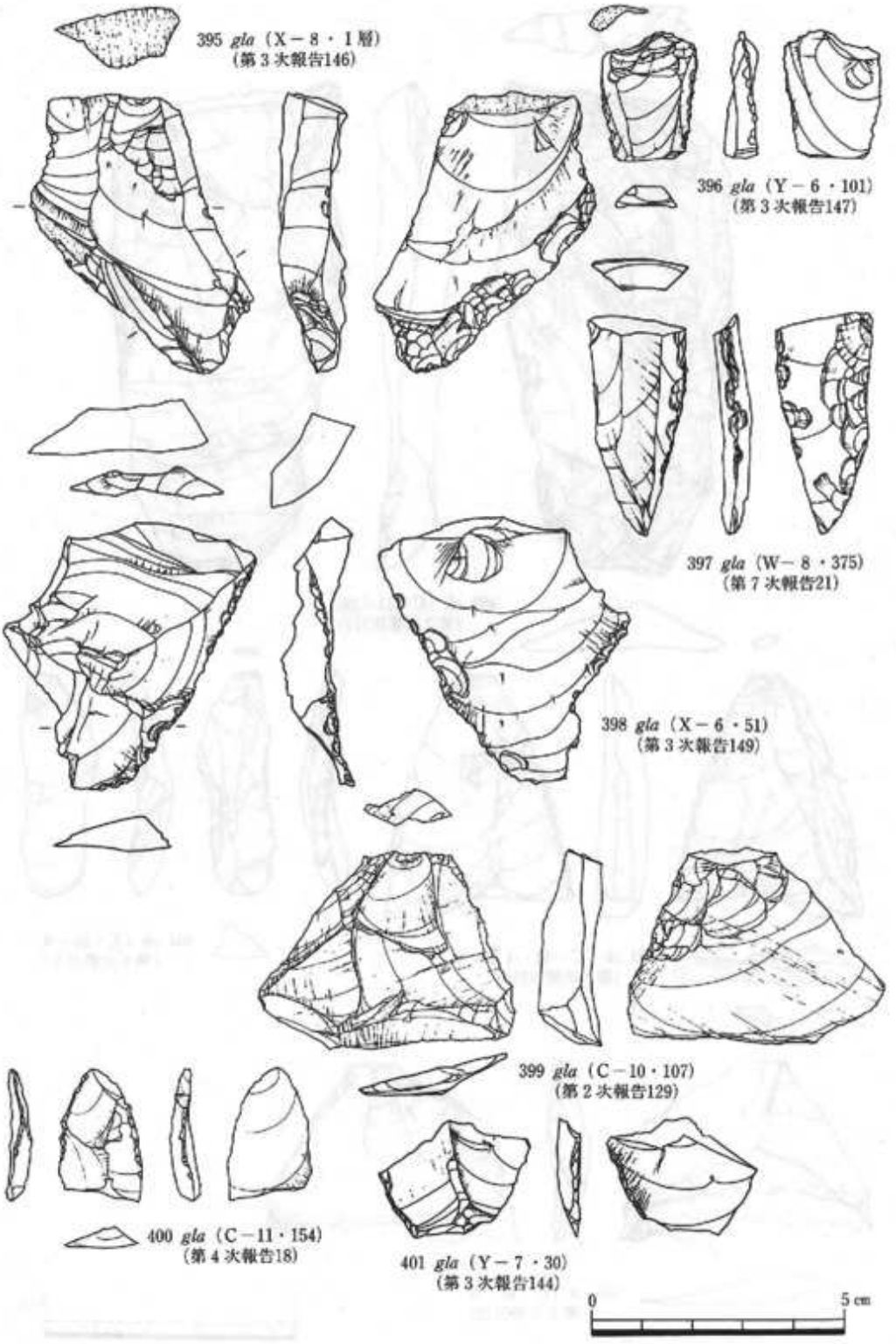
第196図　第Ⅴ層文化層の石器(25)抉入石器、楔形石器、細部調整剥片(3/4)



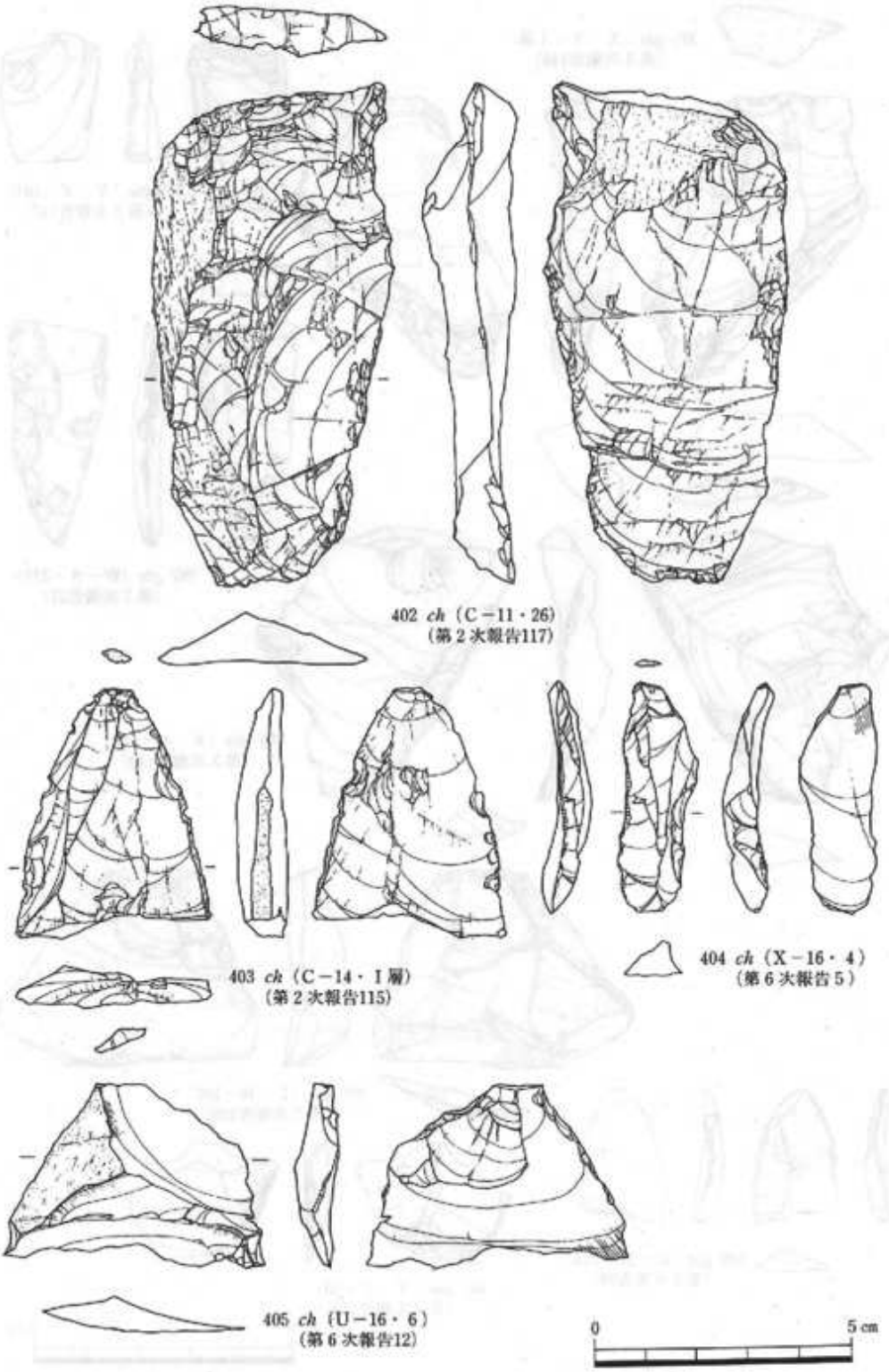
第197図　第V層文化層の石器(26)細部調整剥片(3/4)



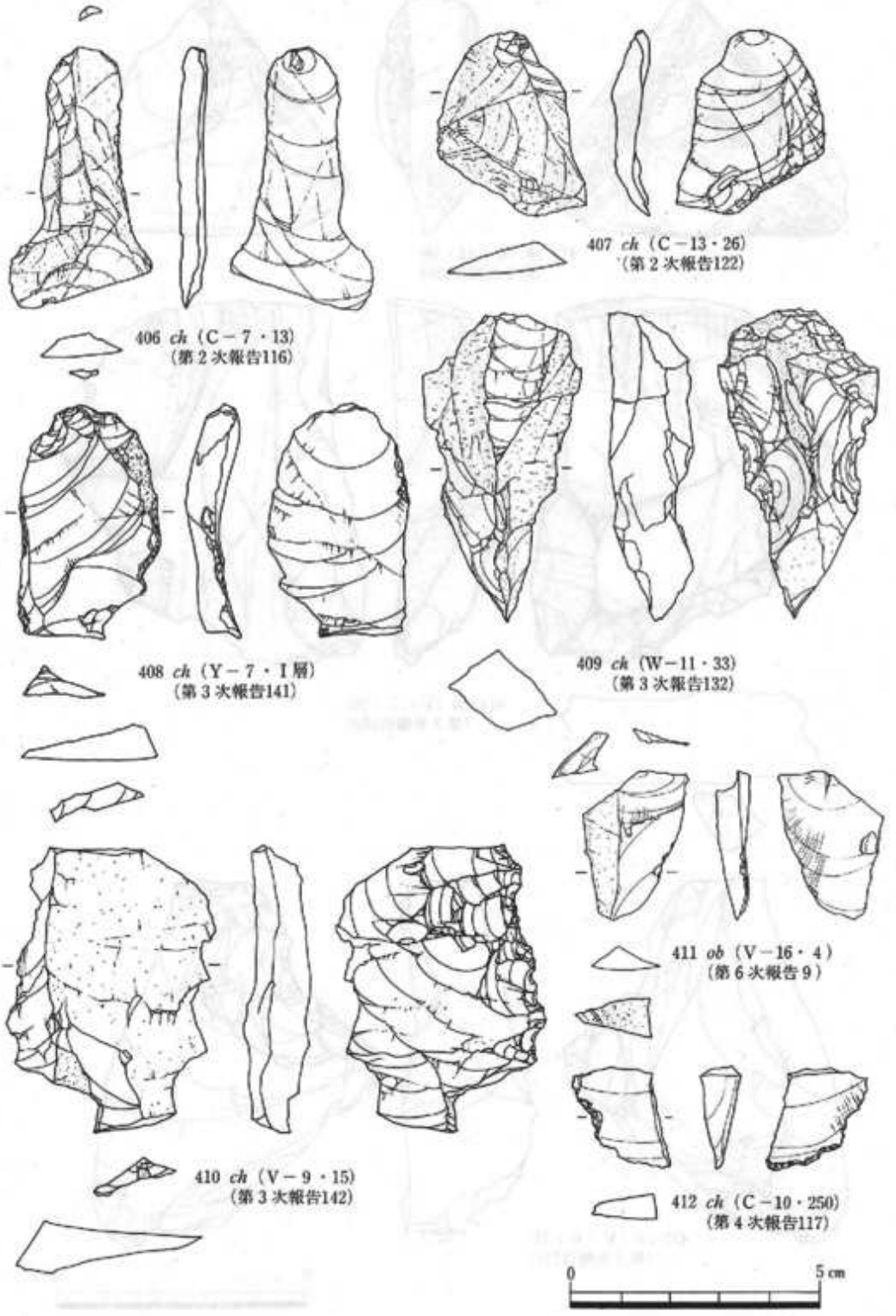
第198図　第Ⅴ層文化層の石器(7)細部調整剥片・細部調整石刃(3/4)



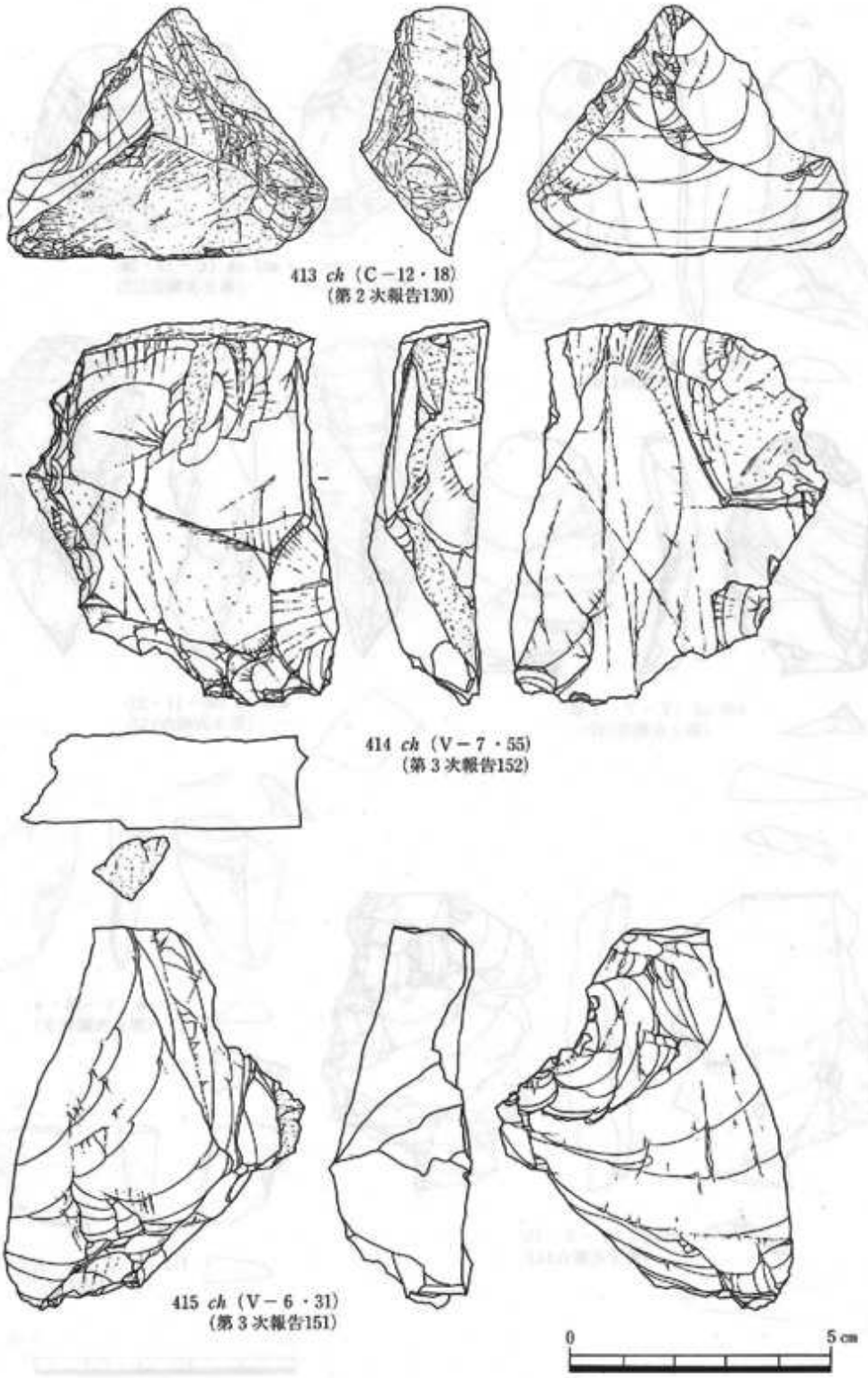
第199図　第V層文化層の石器(28)細部調整剥片(3/4)



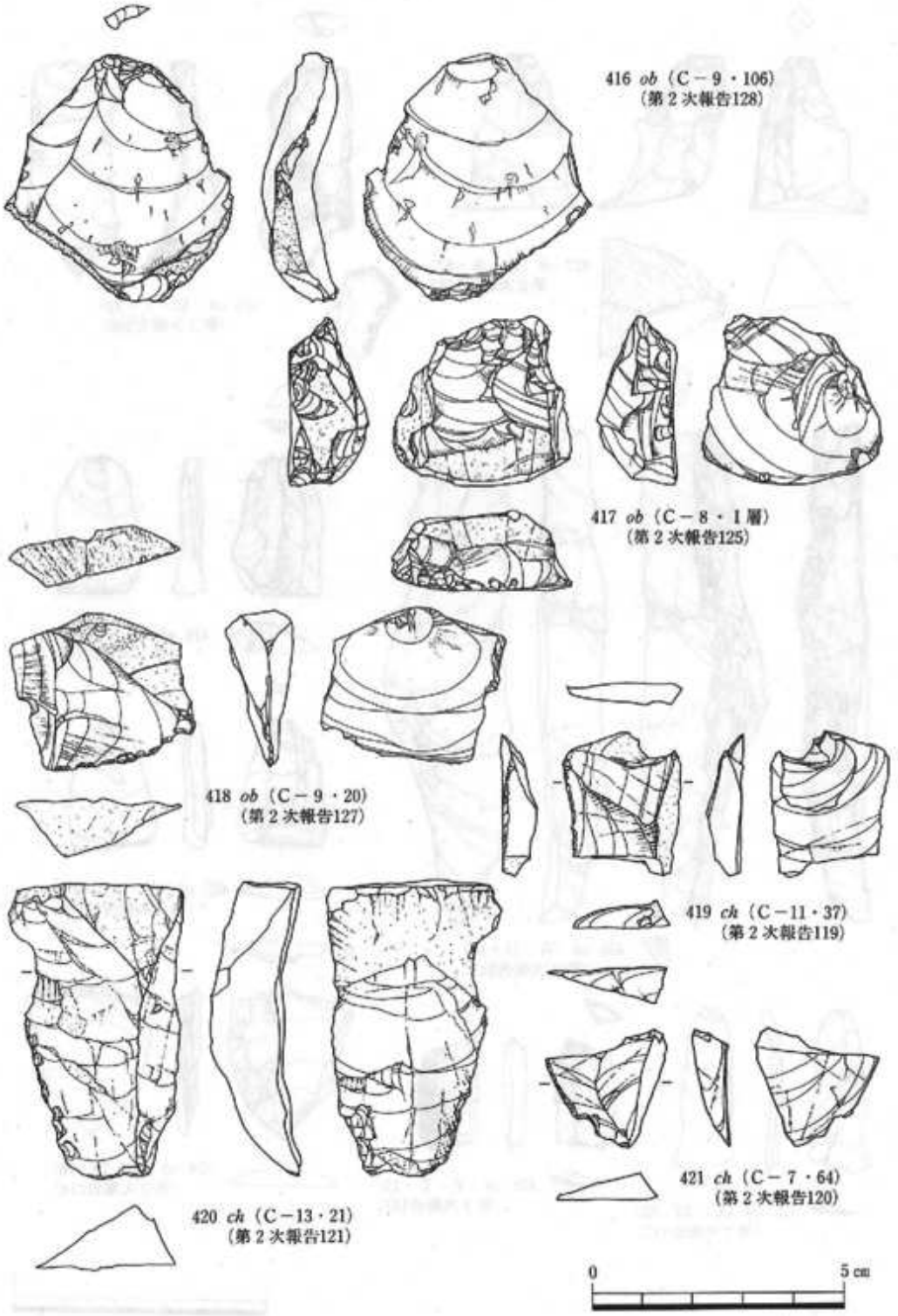
第200図　第Ⅴ層文化層の石器(29)細部調整剥片・細部調整石刃(3/4)



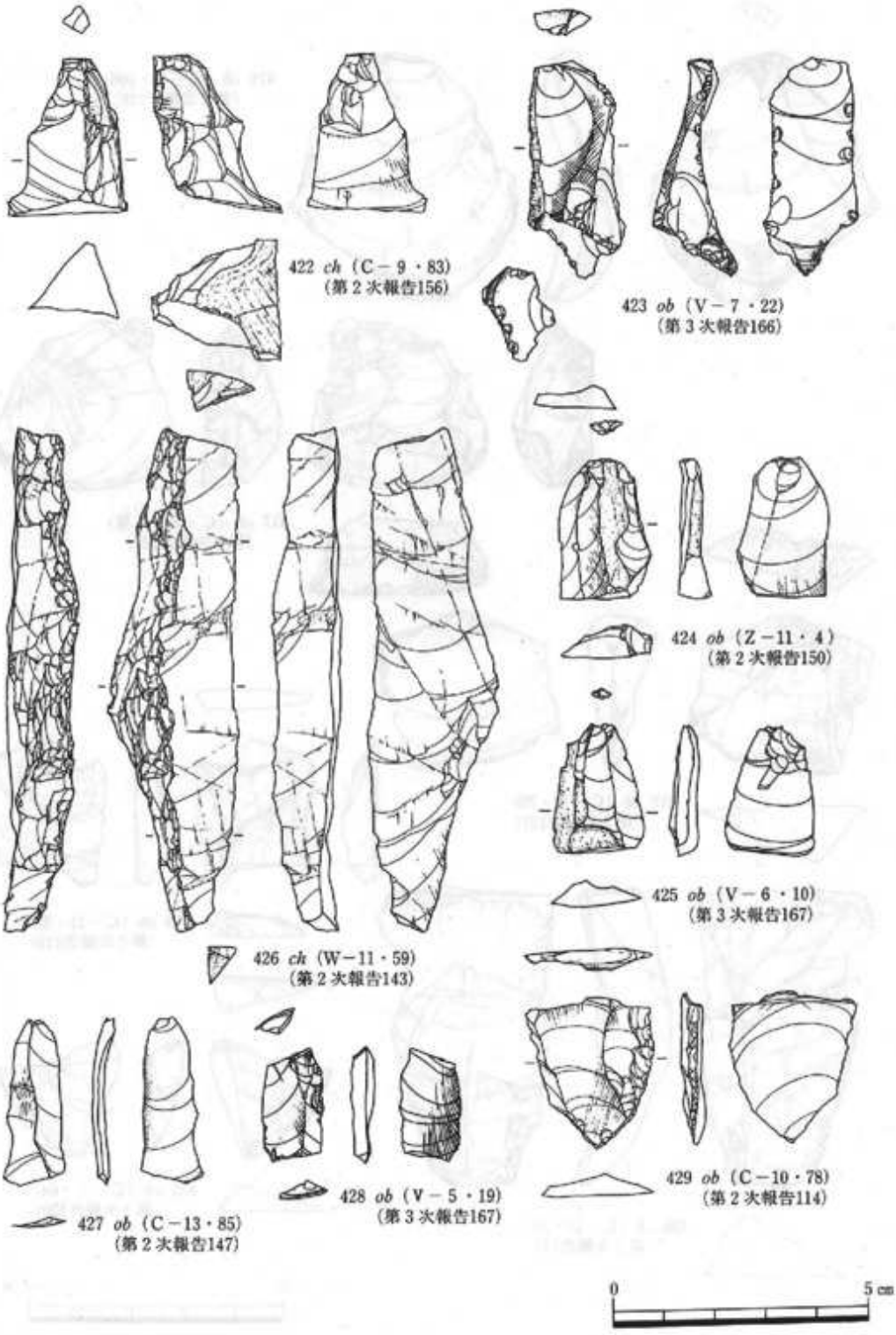
第201図　第Ⅴ層文化層の石器(30)細部調整剥片(3/4)



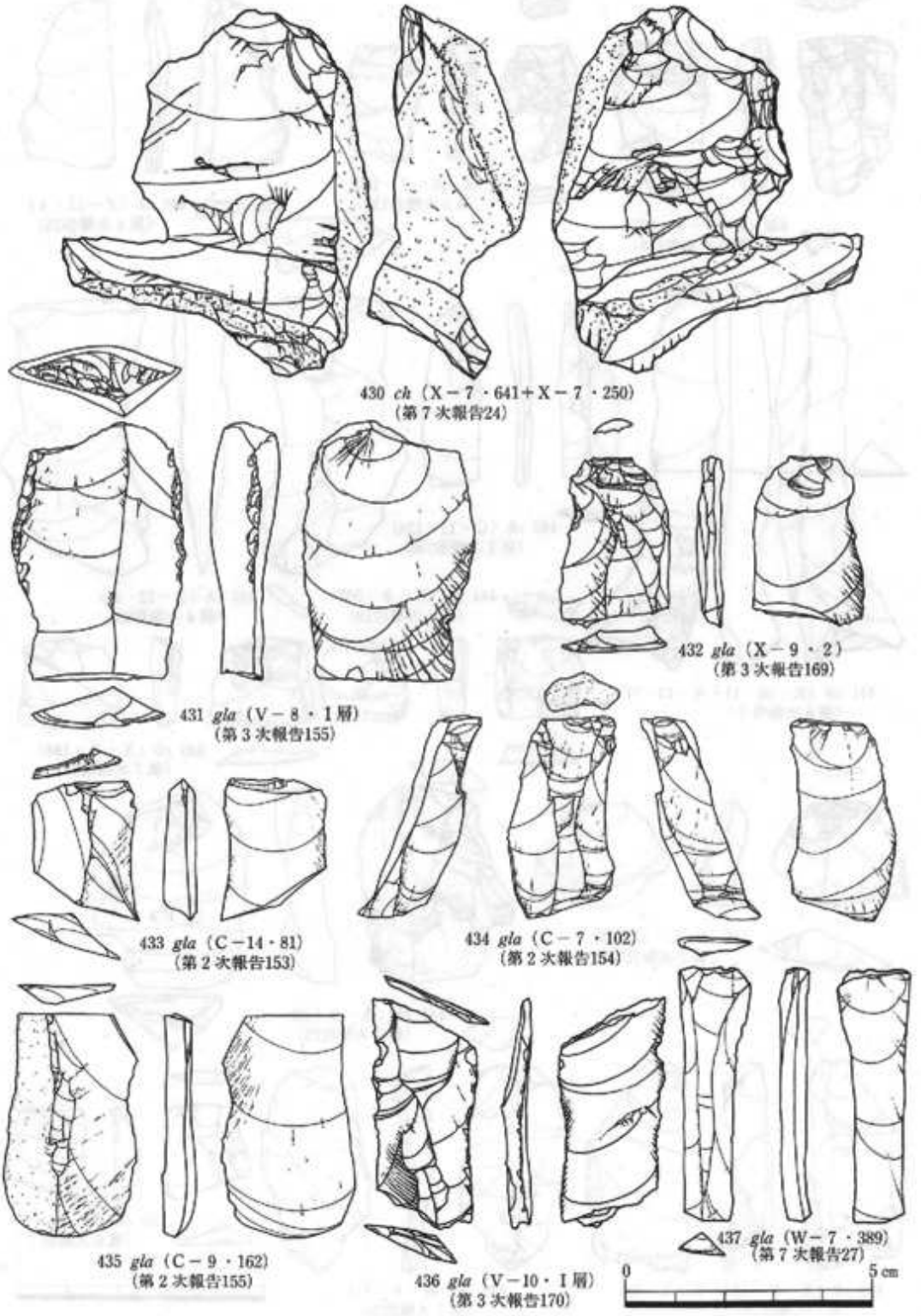
第202図　第Ｖ層文化層の石器(31)細部調整剥片(3/4)



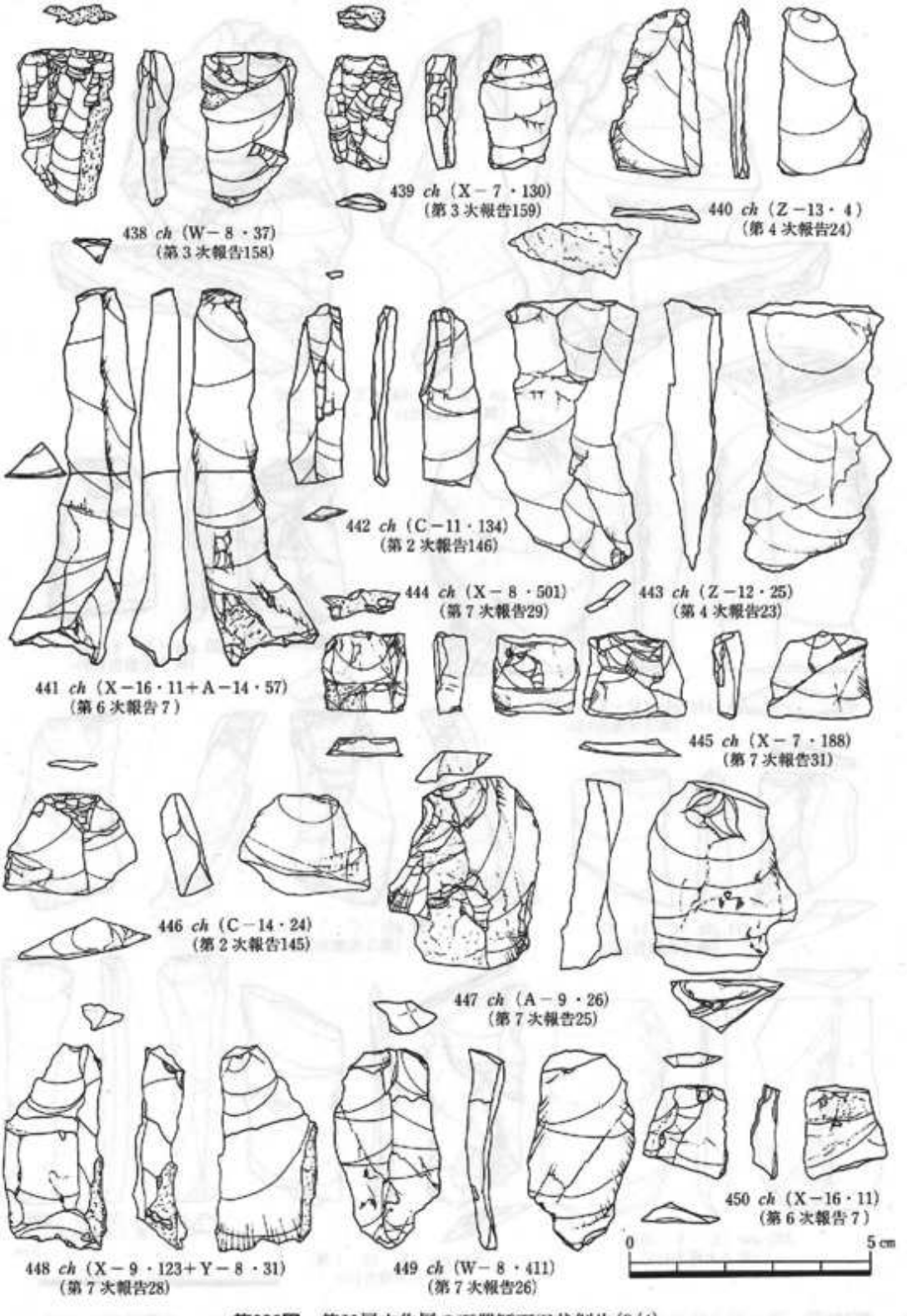
第203図　第V層文化層の石器32細部調整剥片(3/4)



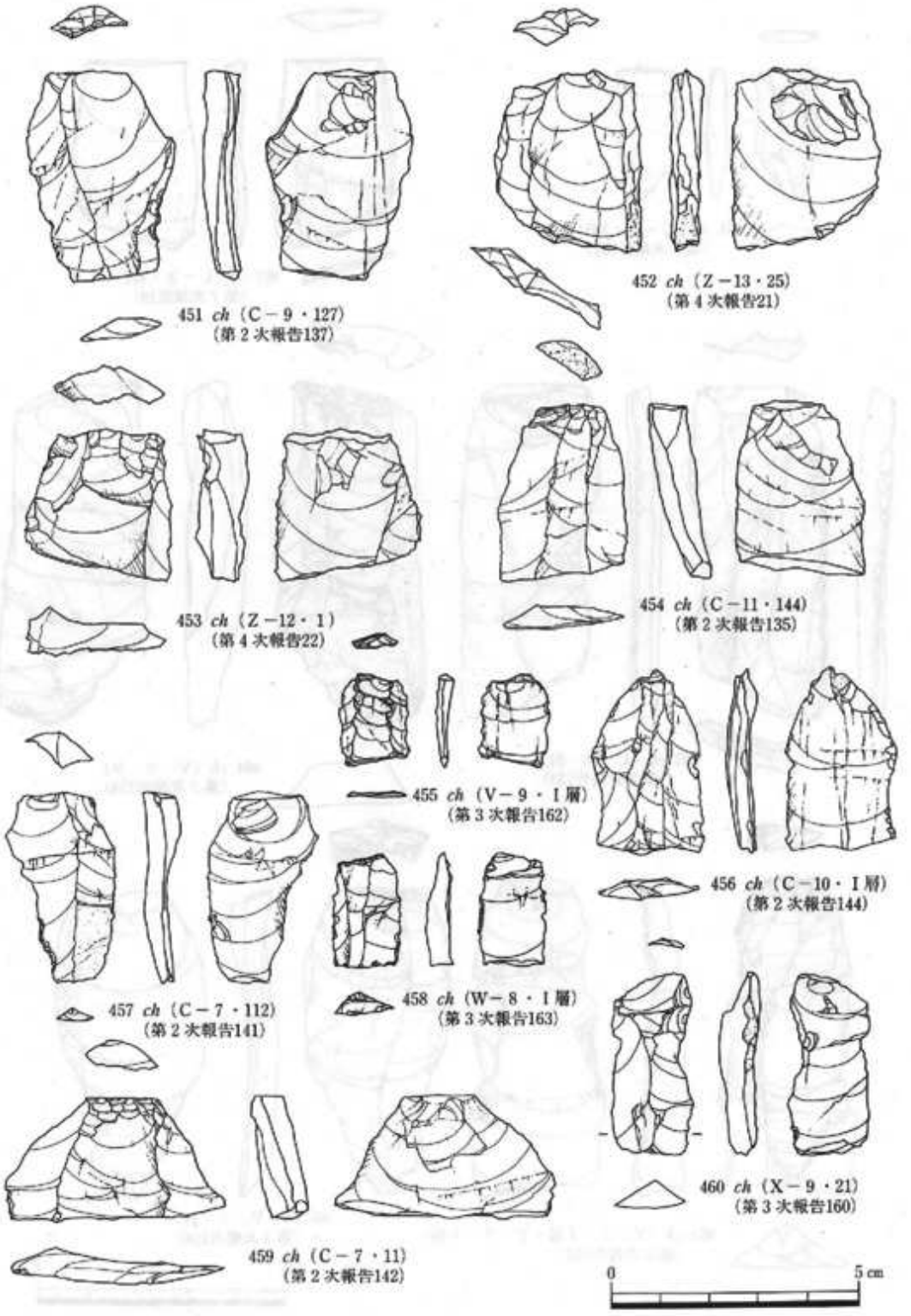
第204図　第Ｖ層文化層の石器(33)石刃、細部調整剥片、細部調整石刃(3/4)



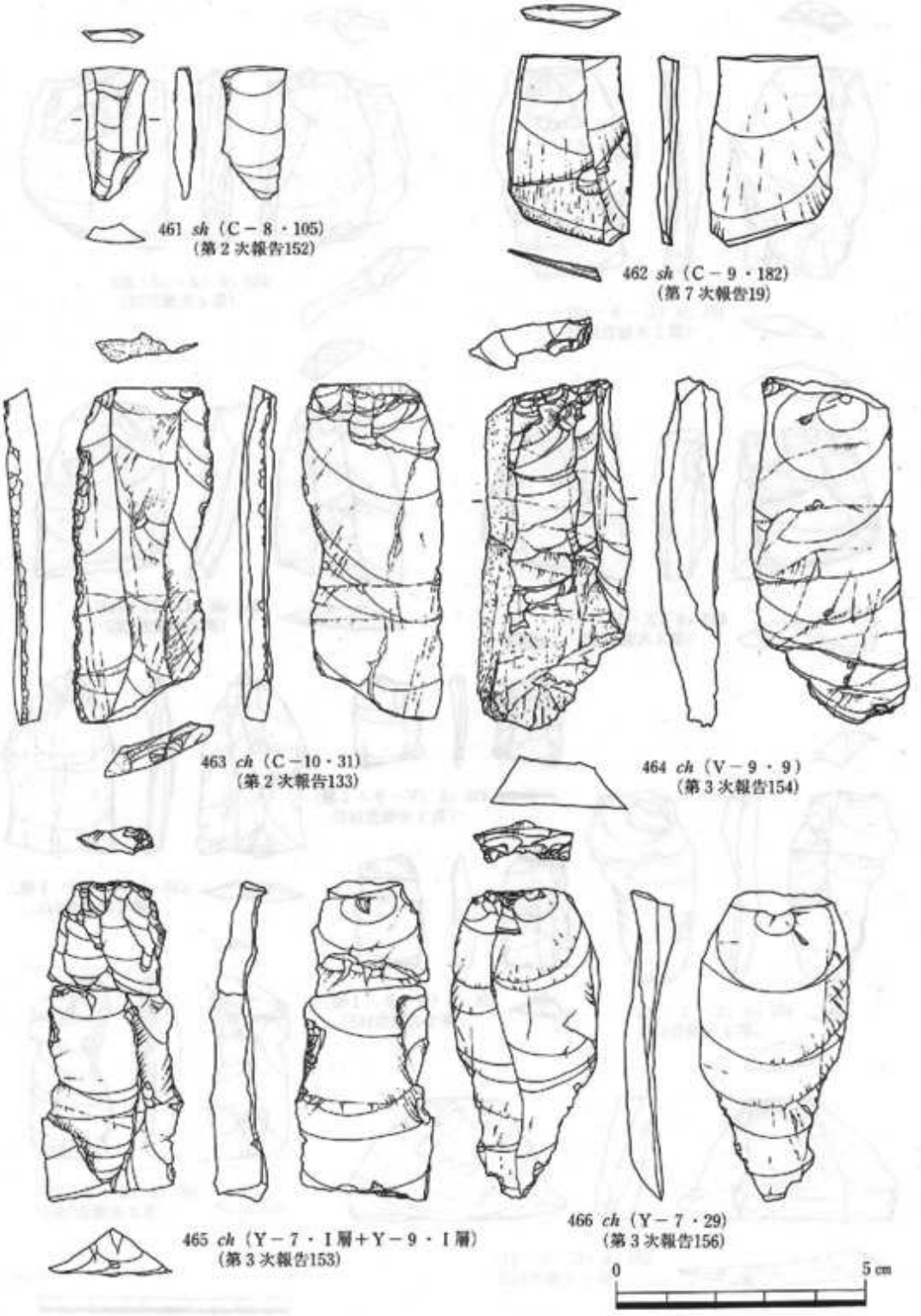
第205図　第V層文化層の石器30微細剥離痕を有する剥片、石刃、石刃状剥片、細部調整石刃(3/4)



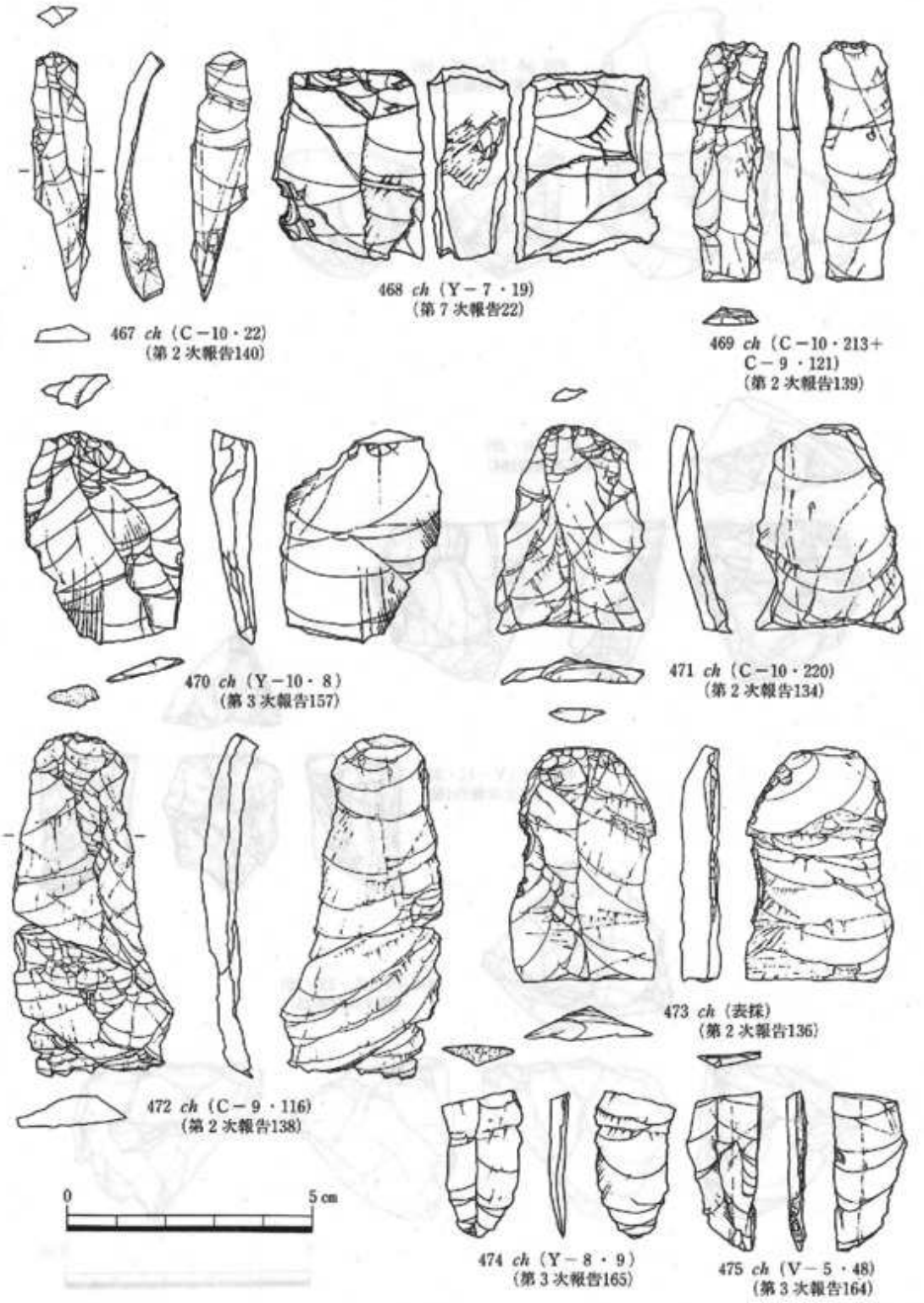
第206図　第Ⅴ層文化層の石器(35)石刃状剥片(3/4)



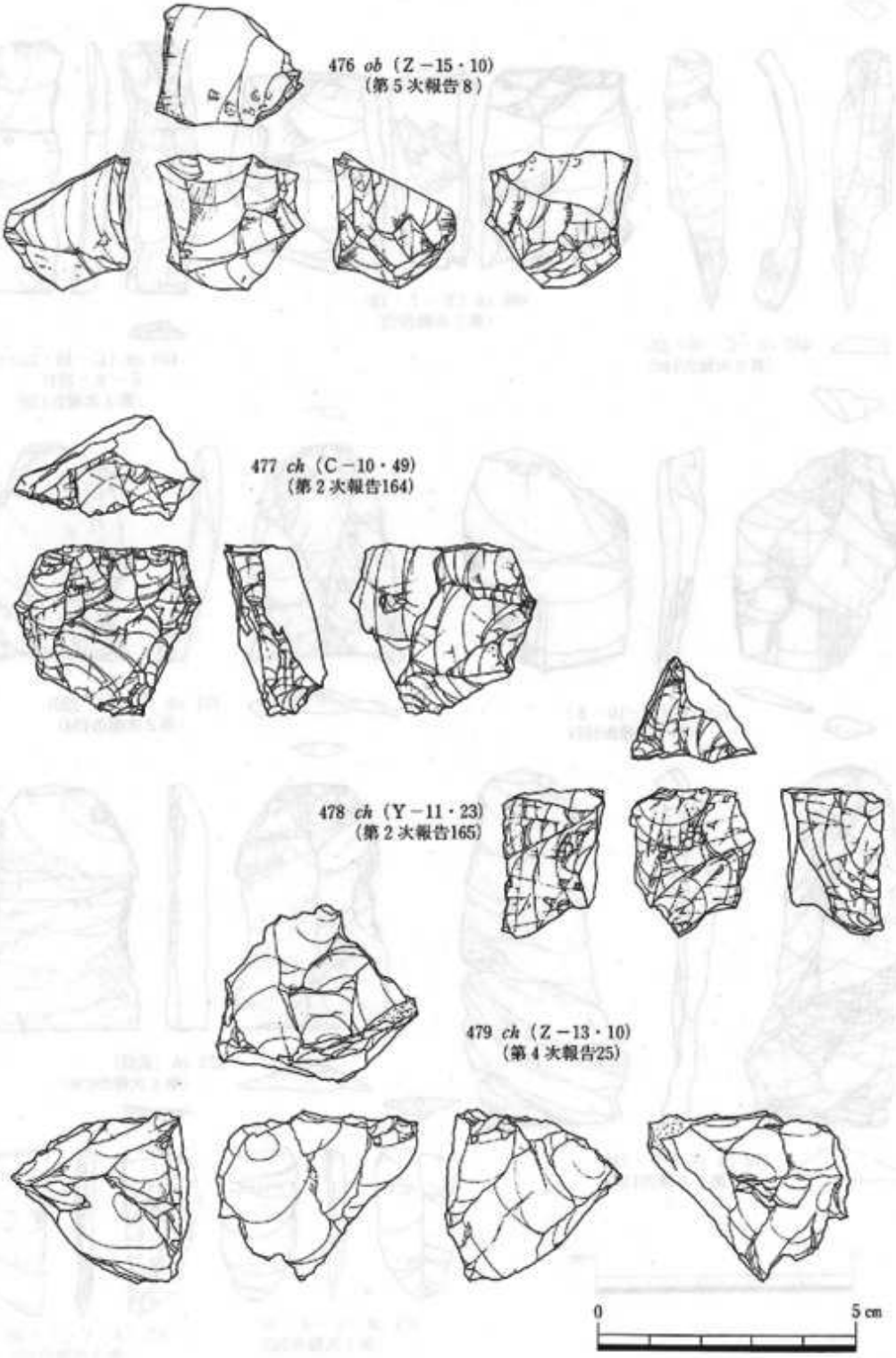
第207図　第Ⅴ層文化層の石器(36)石刃、石刃状剥片、細部調整石刃(3/4)



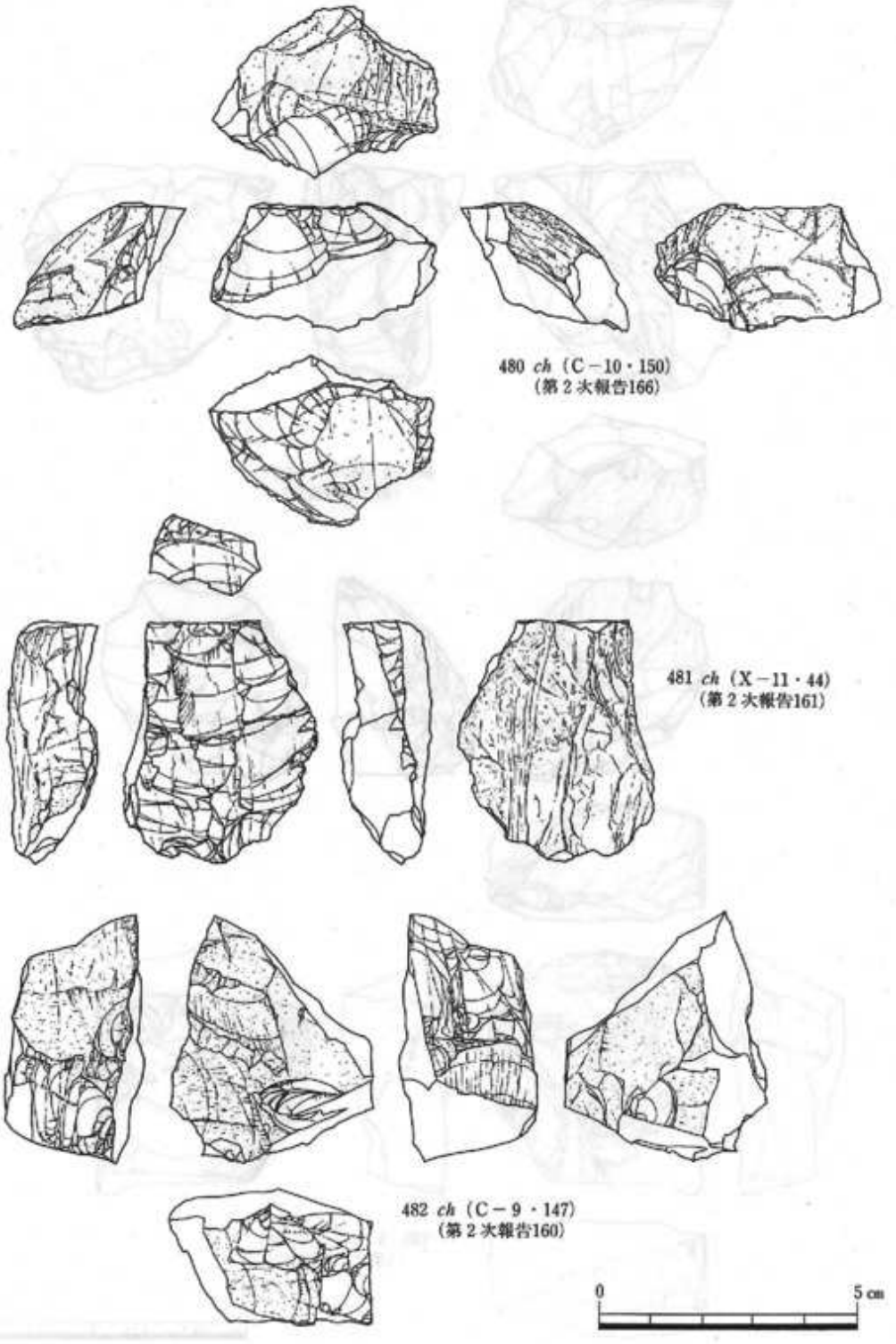
第208図　第Ⅴ層文化層の石器㊲石刃、石刃状剥片、微細剥離痕を有する剥片、細部調整石刃（3/4）



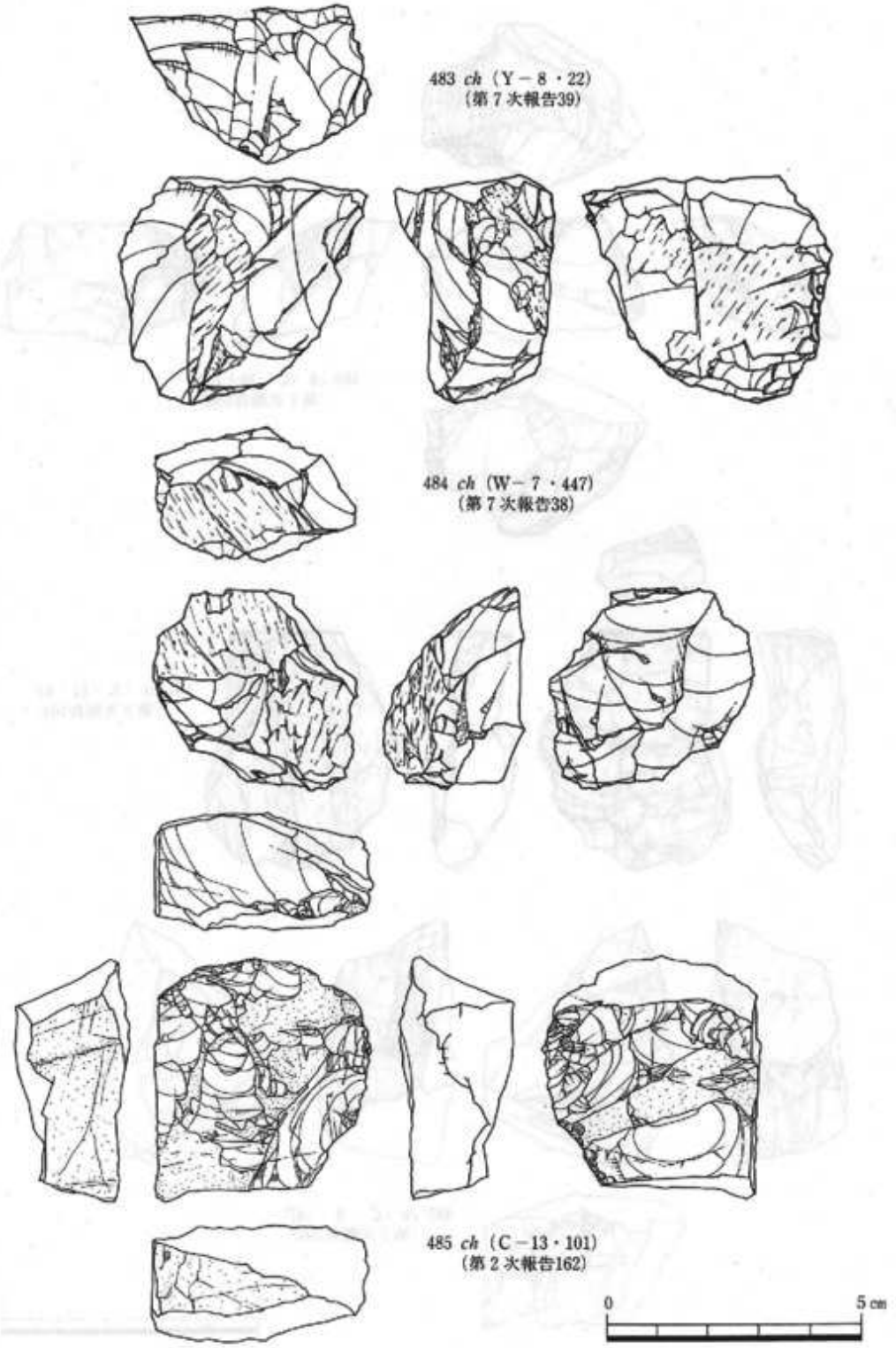
第209図　第V層文化層の石器(剥石刃、石刃状剥片、抉入石器、細部調整石刃(3/4)



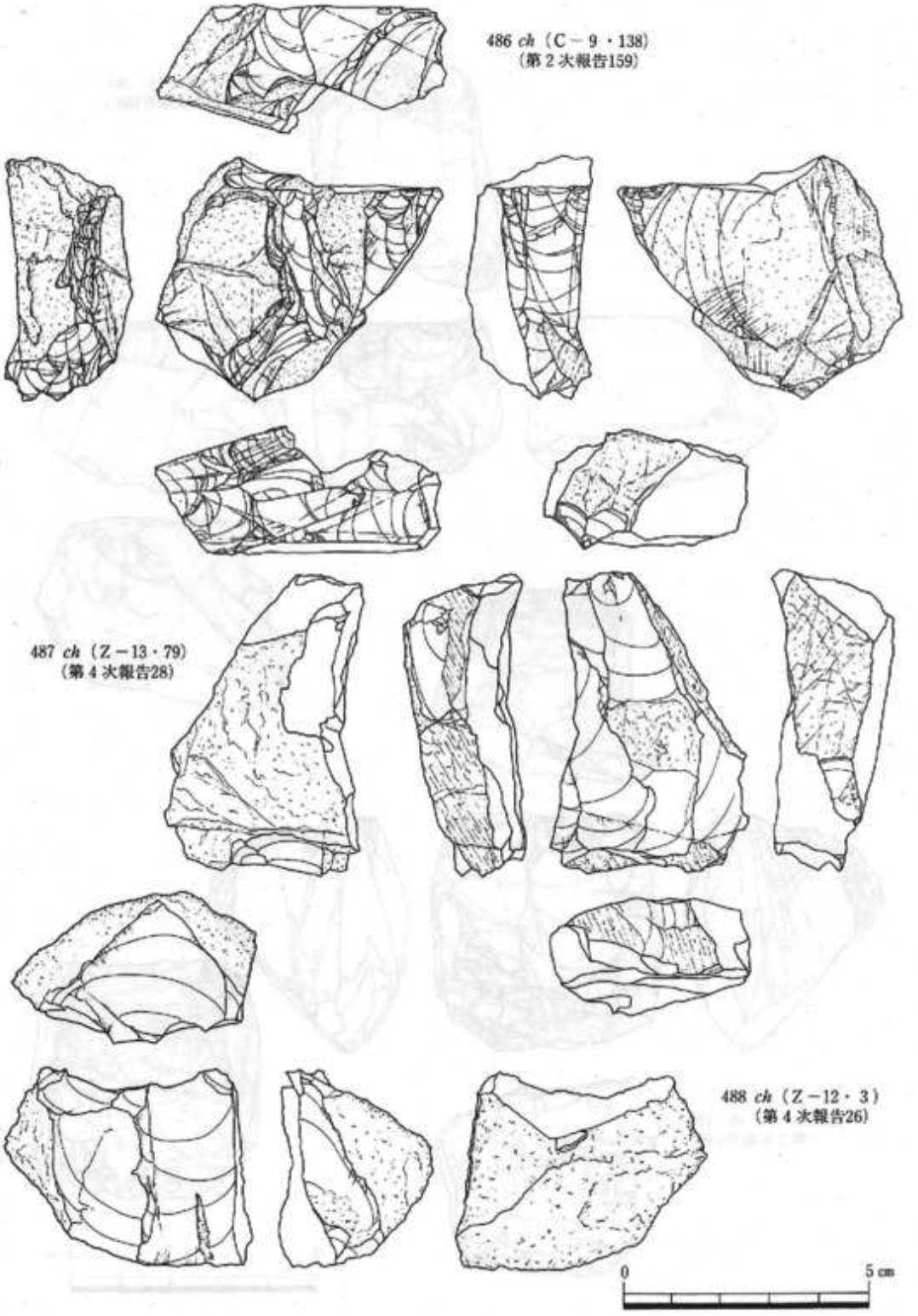
第210図　第Ⅴ層文化層の石器⑧石核(3/4)



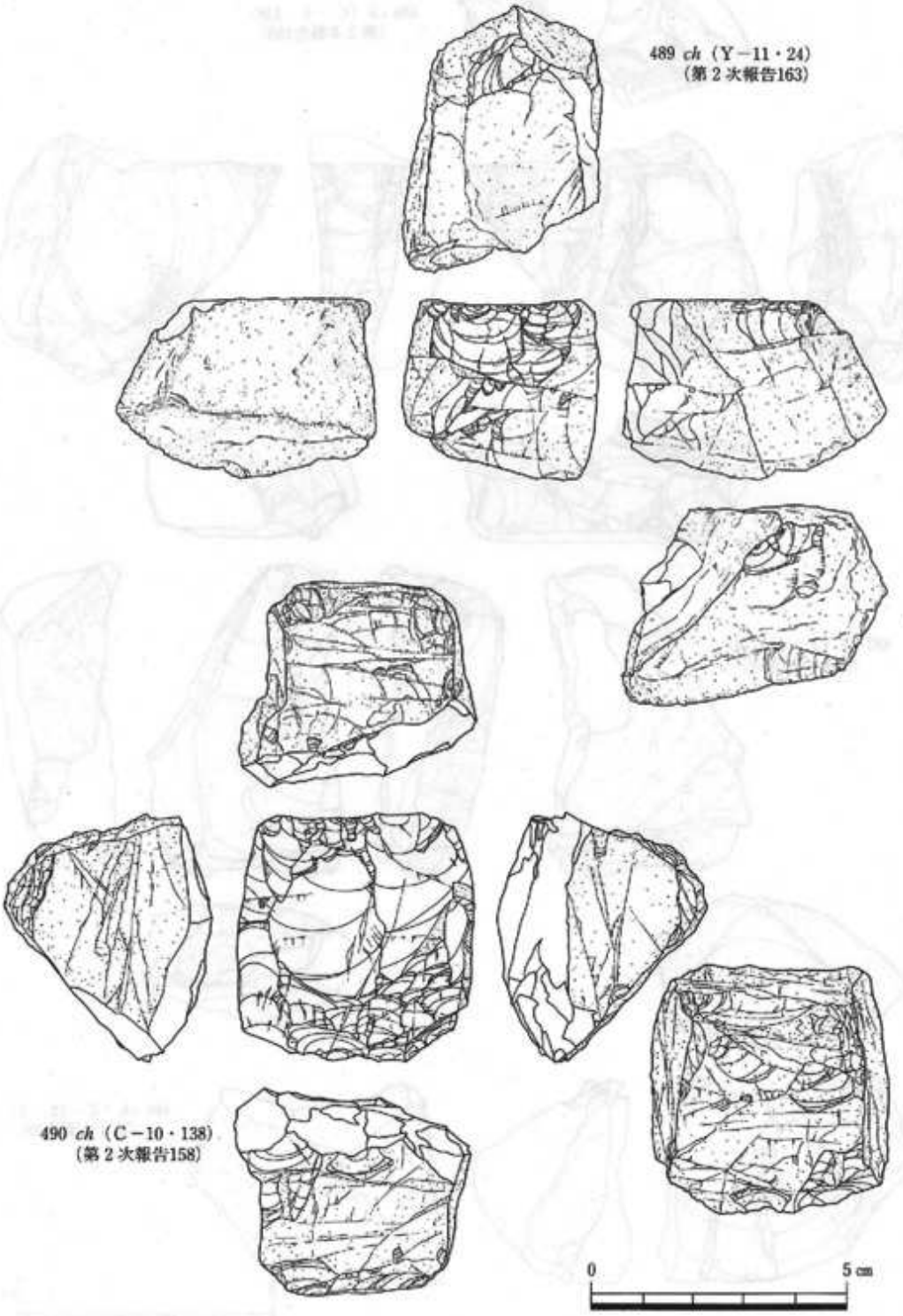
第211図　第Ⅴ層文化層の石器(40)石核(3/4)



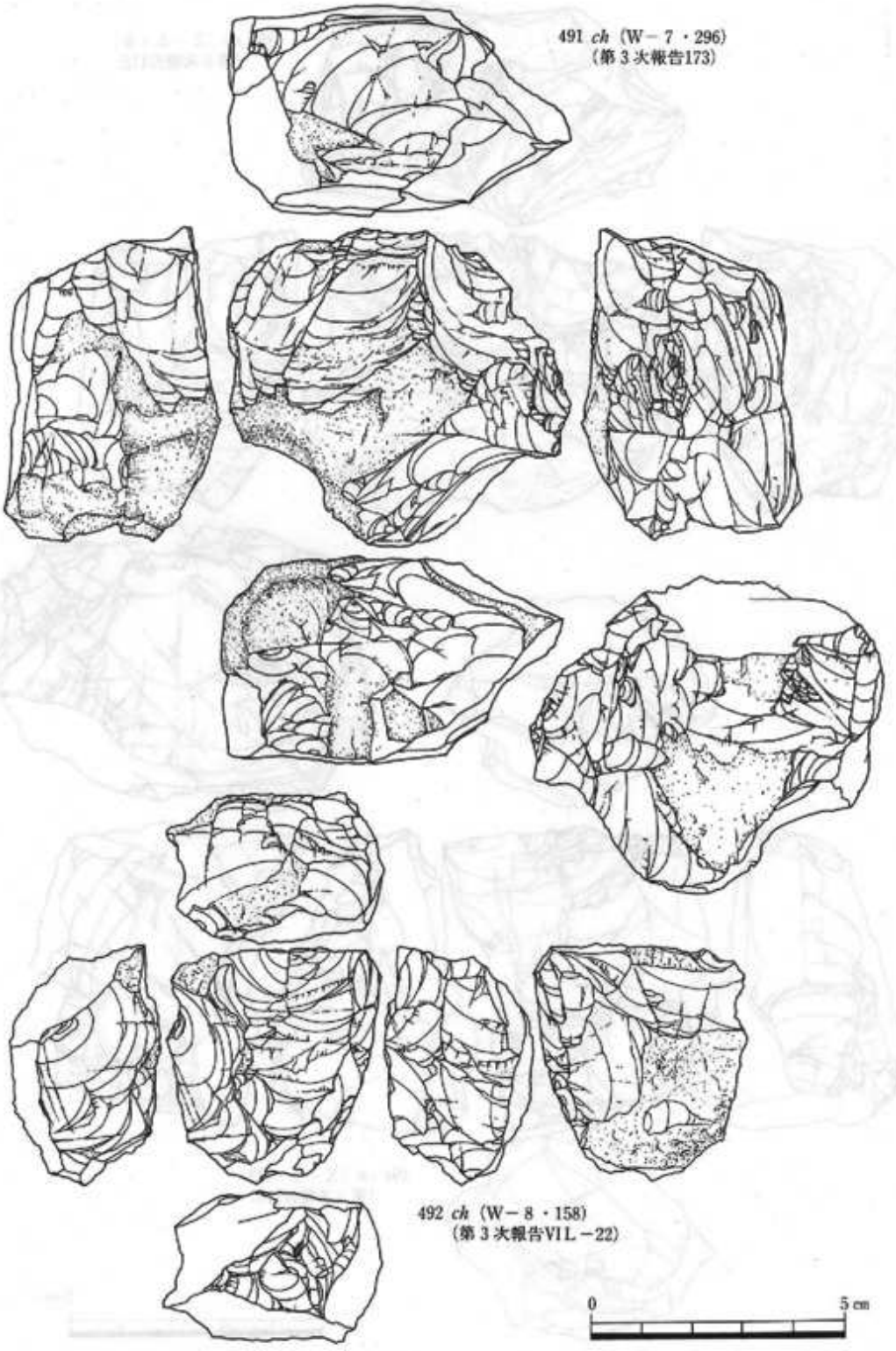
第212図　第Ⅴ層文化層の石器(4)石核(3/4)



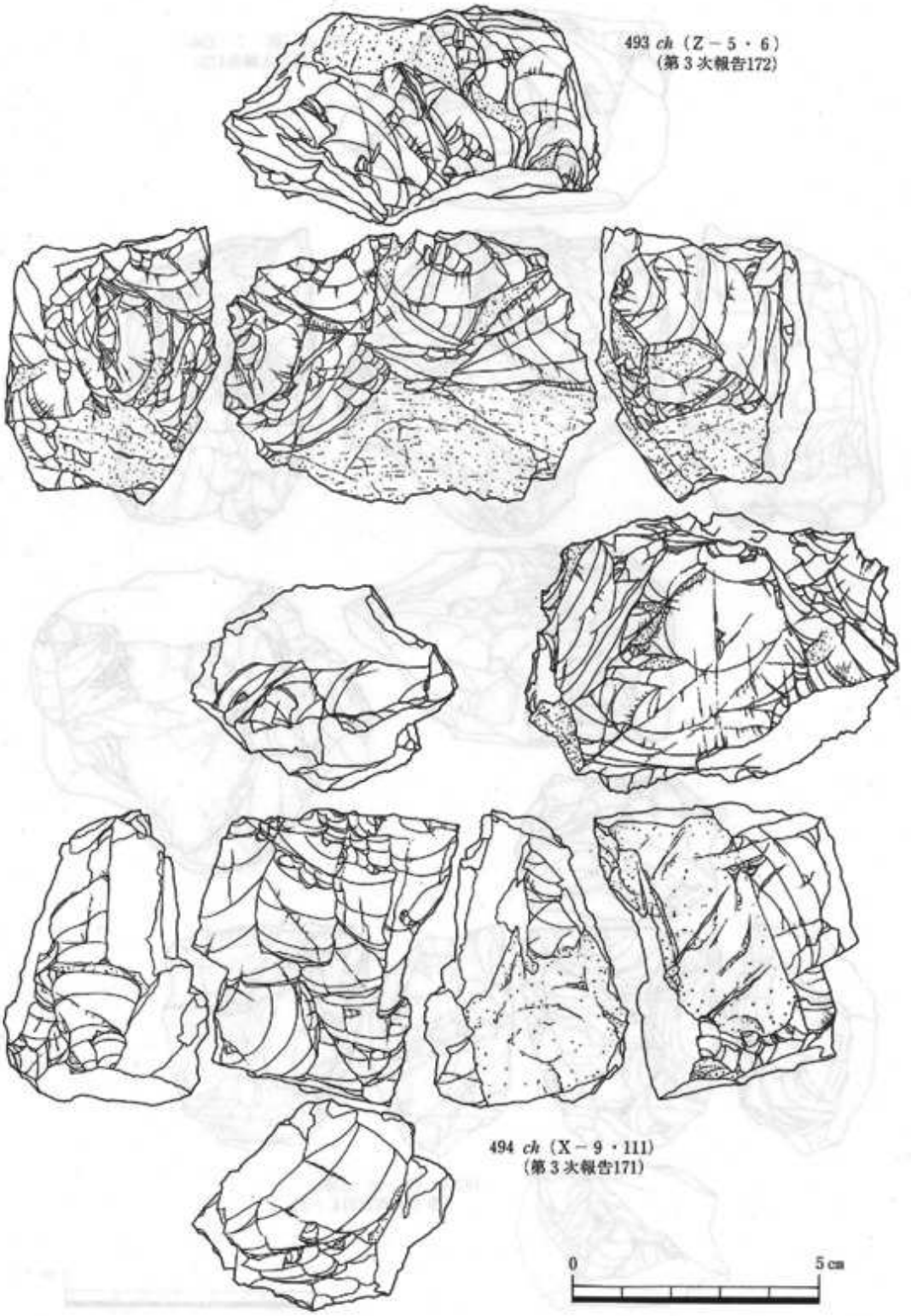
第213図　第V層文化層の石器(42)石核(3/4)



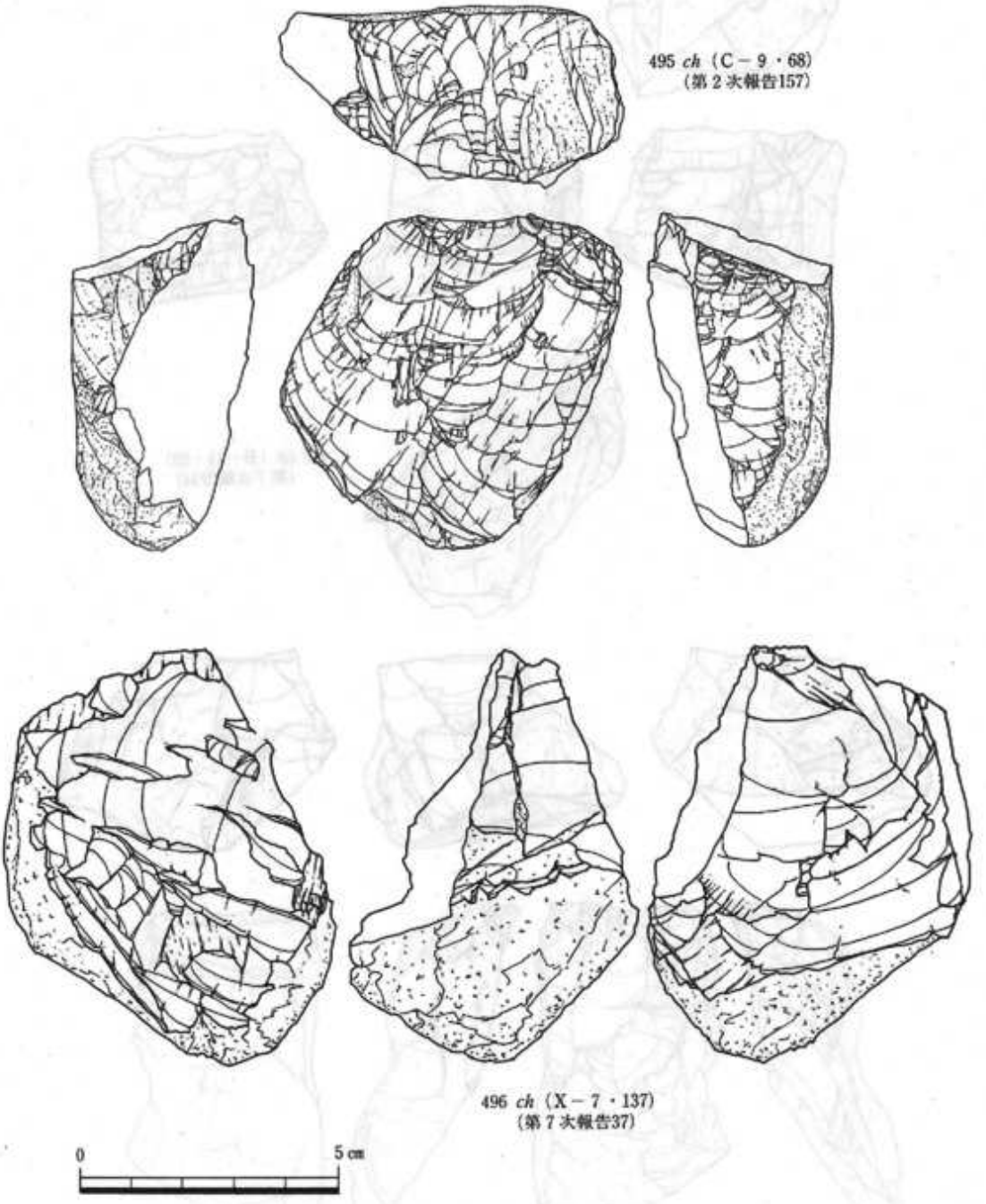
第214図　第Ⅴ層文化層の石器(43)石核(3/4)



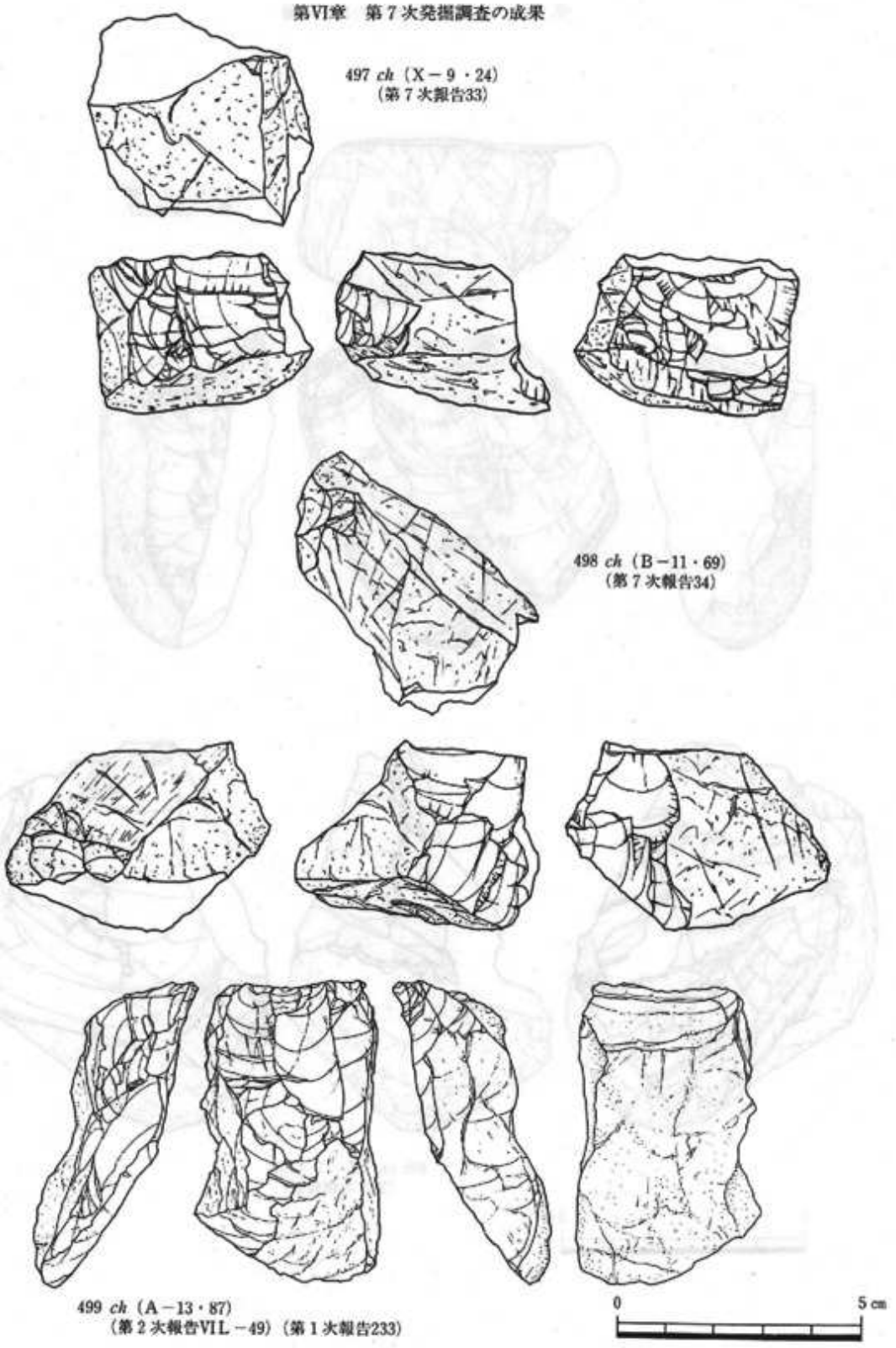
第215図　第V層文化層の石器(40石核(3/4)



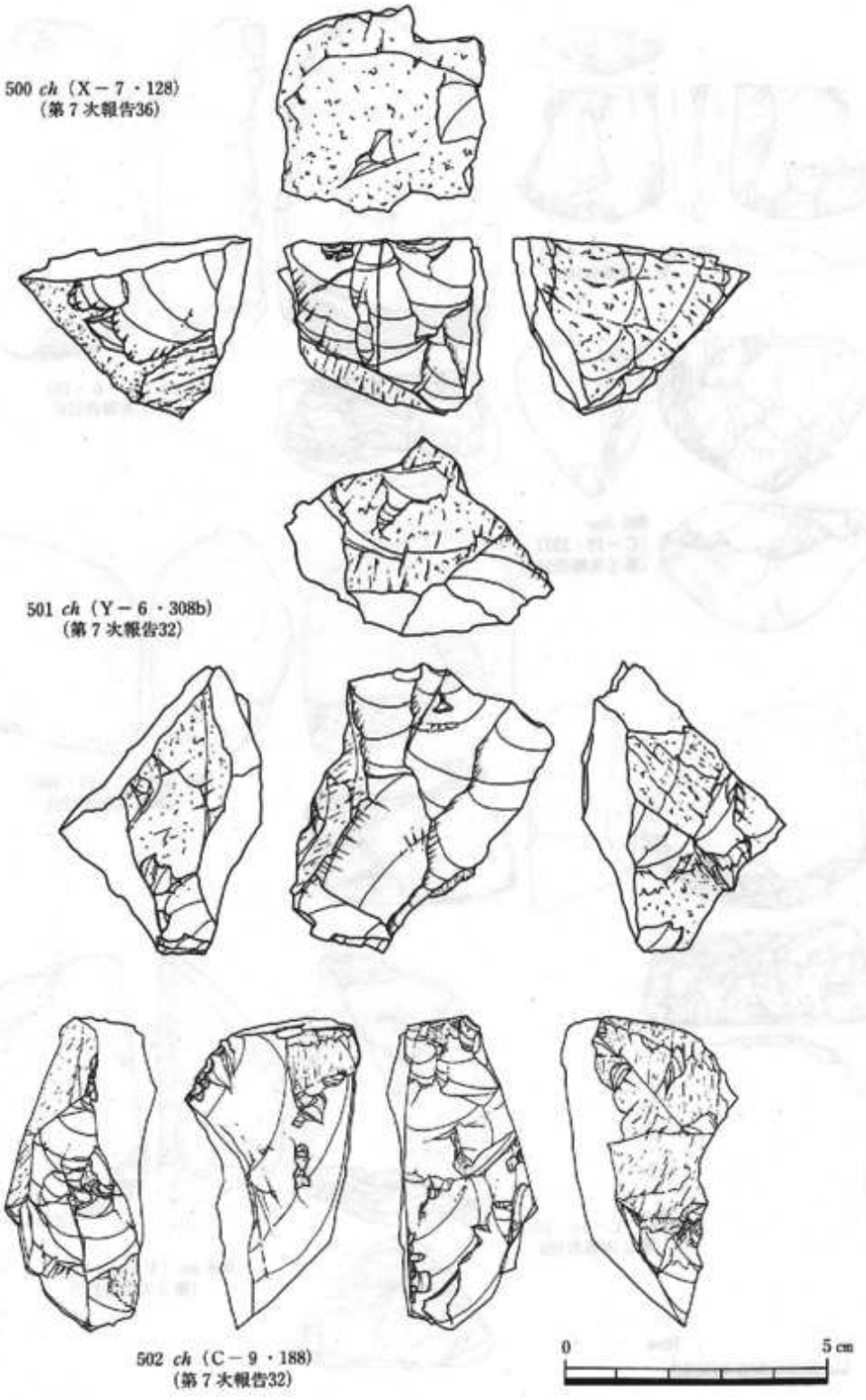
第216図　第Ⅴ層文化層の石器493石核(3/4)



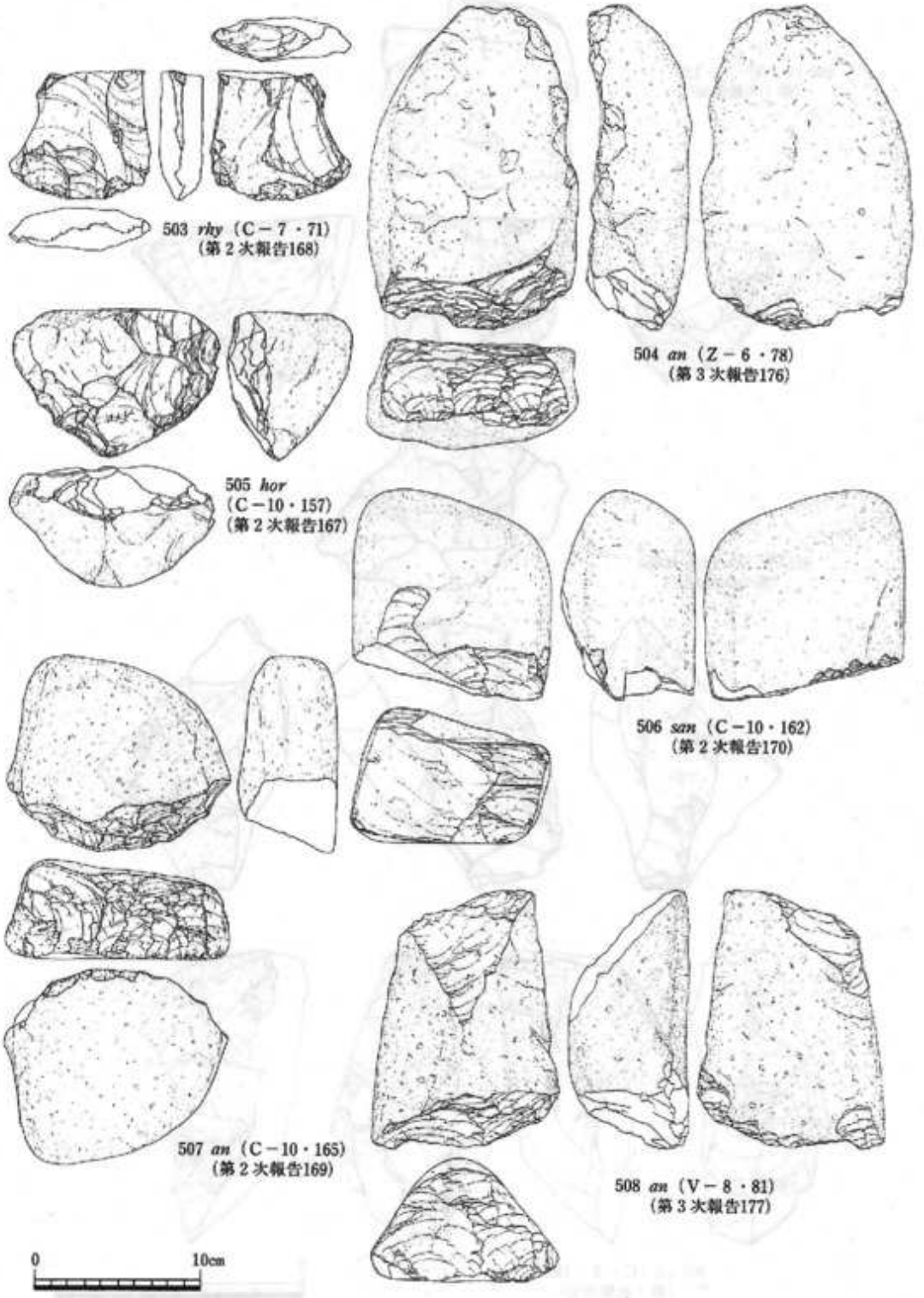
第217図　第Ⅴ層文化層の石器(46)石核(3/4)



第218図　第Ⅴ層文化層の石器(47)石核(3/4)



第219図　第Ⅴ層文化層の石器(48)石核(3/4)



第220図　第Ⅴ層文化層の石器(9)礫器・打製石斧(3/4)

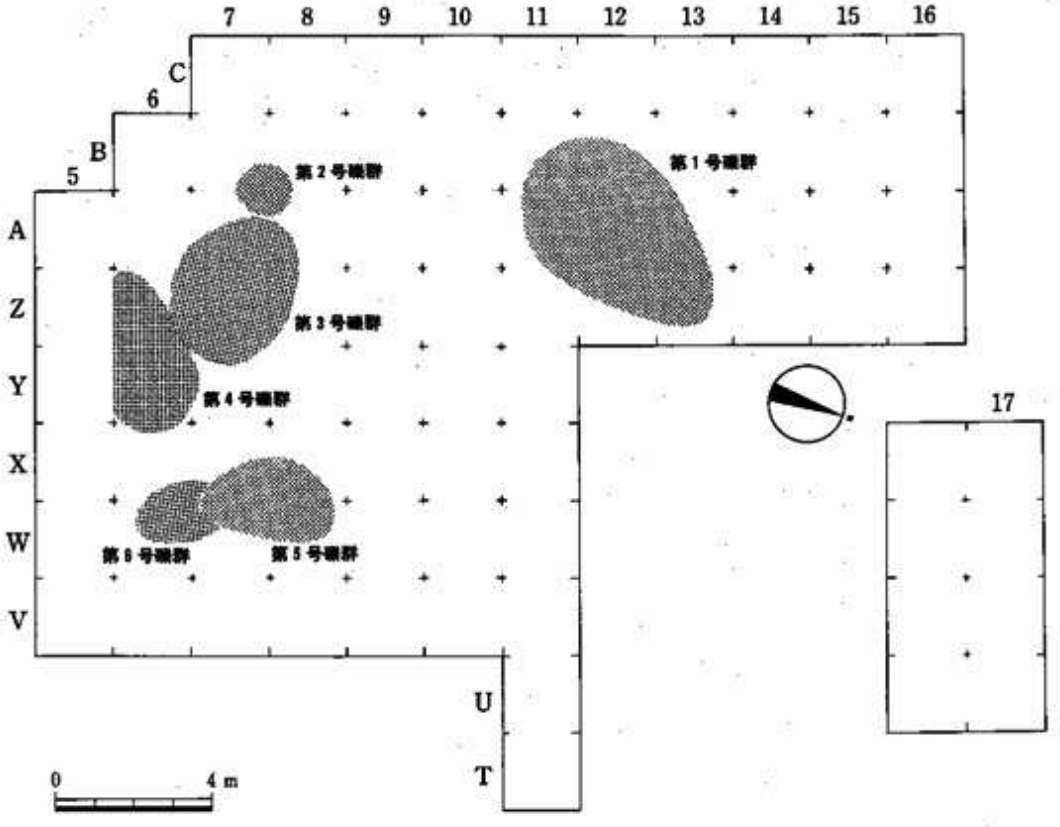
(5)　第Ⅵ層Ｌ文化層

第Ⅵ層Ｌ文化層は、ナイフ形石器を主体とする文化層である。

第２次調査と第４次調査とによって、礫群１基と石器ブロック１か所が把握されていたが、第７次調査によって、第３次調査で当該文化層の分布が示唆されていた範囲において礫群５基と、石器ブロック２ヶ所が確認された。

その結果、礫群６基と石器ブロック３ヶ所が把握された（第221～225図）。なお、これらの礫群と石器ブロックとは重複する位置関係にある場合が多い。すなわち、石器ブロック１は第１号礫群を覆うように、石器ブロック２は第３号礫群と第４号礫群とを覆うように、石器ブロック３は第５号礫群と第６号礫群とを覆うように、それぞれ形成されており、礫群と石器ブロックとの有機的な関連が示唆されるところである。

なお、これらの礫群相互には多数の接合が確認され、共時性を示唆するとともに文化層を越える礫の接合事例が認められる。このような接合状況は各礫群の帰属文化層の誤認に起因する可能性も否定できないが、各文化層に帰属する礫群の範囲が、それぞれの文化層の石器群の分布と一致したり、礫群と石器ブロックとの間に有機的な関係を想定できること、礫群と石器ブロックの検出層位ががほぼ同レベルないしは、礫群のほうが下位に位置し、石器群を層位的に

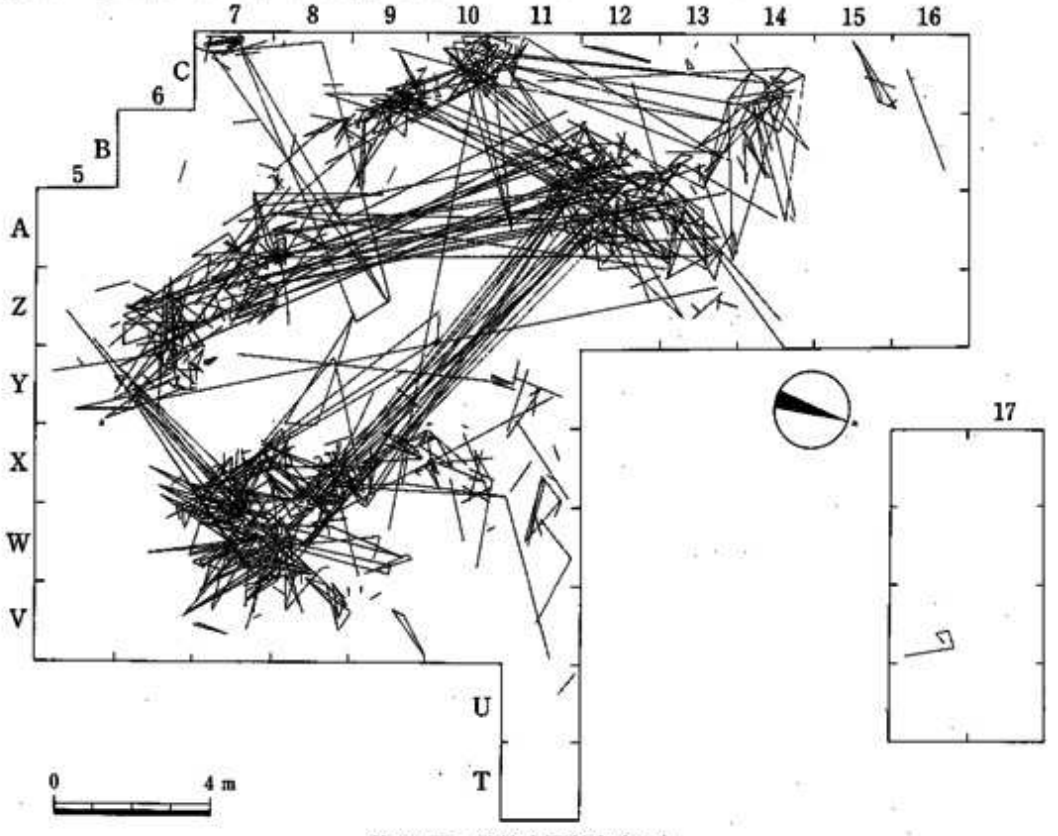


第221図　第Ⅵ層Ｌ文化層における遺構の位置(1/200)

挟んでそれぞれの礫群が存在すること、文化層を越える礫群の構成礫の接合関係が把握できた場合、相対的に古い文化層の礫群を構成する礫は小形であり、より新しい文化層に大形の礫が残存する傾向があること、接合は各礫群の単位内で最も多く確認できること、という４点を根拠に、現時点では、文化層を越える礫群の構成礫の共有がより古い文化層の礫群構成礫が持ち出され、再使用された結果と考えている。しかしながら礫群の帰属時期に関わることであり注意されるところである。

第VI層Ｌ文化層の生活面は、これらの礫群を構成する礫の検出層位から第VI層下部に想定される。なお、石器群は第VI層中部から下部にかけて包含されており、礫群に対して相対的に上位に位置することになる。

そのために第７次調査では第Ｖ層文化層に帰属する石器群、特に細石刃などが第Ｖ層文化層の礫群の下位第VI層Ｌ文化層と同一の層準からも出土した。しかしながら、石器群の平面的な分布が、第Ｖ層文化層と第VI層Ｌ文化層とでは排他的な関係にあることを根拠に、示準的な石器器種に則して帰属文化層を決定した。そして、それはナイフ形石器を主体とする石器群の下位に礫群が位置することを意味し、逆説的に第２号礫群、第３号礫群、第４号礫群、第５号礫群、第６号礫群が第VI層Ｌ文化層に帰属することを明らかにした。



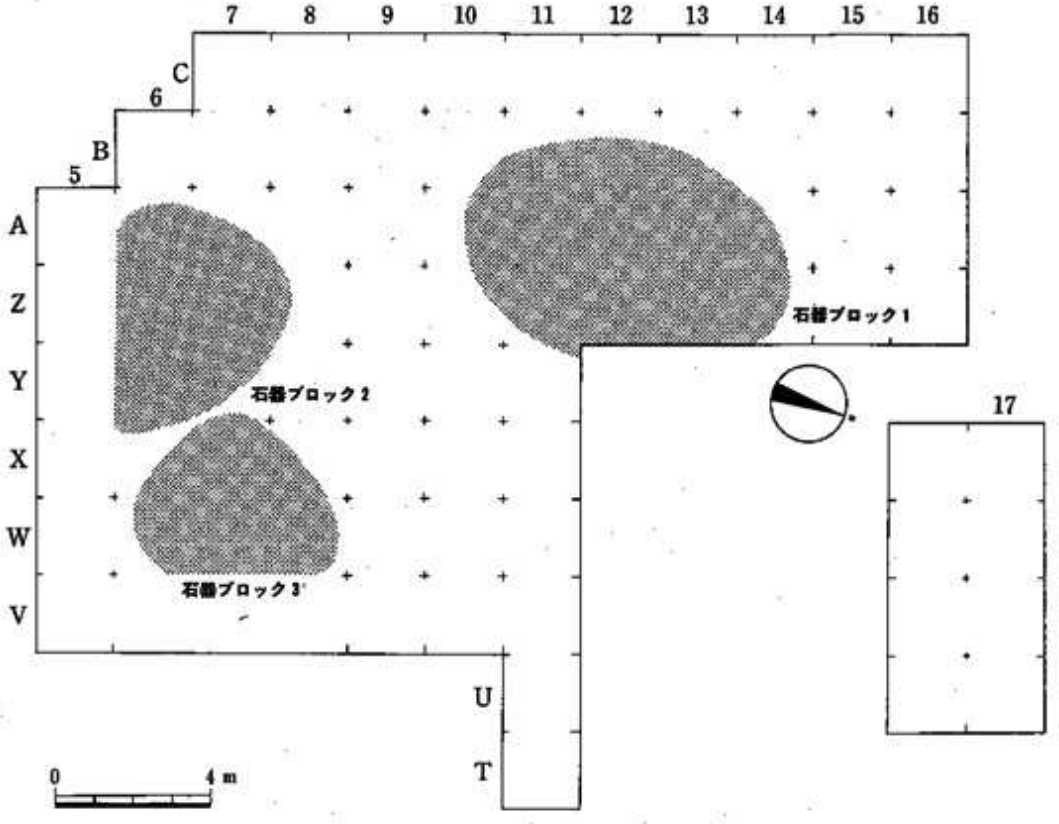
第222図　礫接合配線(1/200)

当該文化層における石器ブロック相互の関係は、母岩別資料分析を通して石器ブロックを越えて分布する母岩別資料の存在と、複数の石器ブロックにまたがって接合する母岩別資料が確認されたことから共時性を認識している。

母岩別資料には、黒曜石とチャートのものを把握しているが、チャートの母岩がそれぞれ、両設打面石核を用いた剥片剥離工程を復元できて、ほぼ原礫素材にまで復元できる場合が多かったのに対して、黒曜石の母岩は、それぞれ同一母岩から製作されたものと肉眼観察されたが、いずれも石核を含んでおらず、ナイフ形石器などの石器製品か、ナイフ形石器などの調整剥片・砕片、あるいは不連続な剥片・砕片に限られており、好対照をなしている。このような母岩別資料に見られる石器石材の傾向は、あるいは柳又遺跡A地点に石器ブロックを形成した集団に関わる行動論的な解釈に、資料を提供するものとも考えられる。

なお、石器石材の特徴を見ると、チャートの石器製品への利用頻度が高さ、剥片剥離工程を含む使用総量もに圧倒的に多い。次いで黒曜石、玻璃質安山岩と続くが、玻璃質安山岩以下は石器石材としての利用頻度が低く、使用総量もにひじょうに少なくて第VI層L文化層の特徴をなしている。

このような特徴は、石器ブロック単位に見た場合にも認められるもので、特に母岩別資料分



第223図　第VI層L文化層の石器ブロックの位置(1/200)

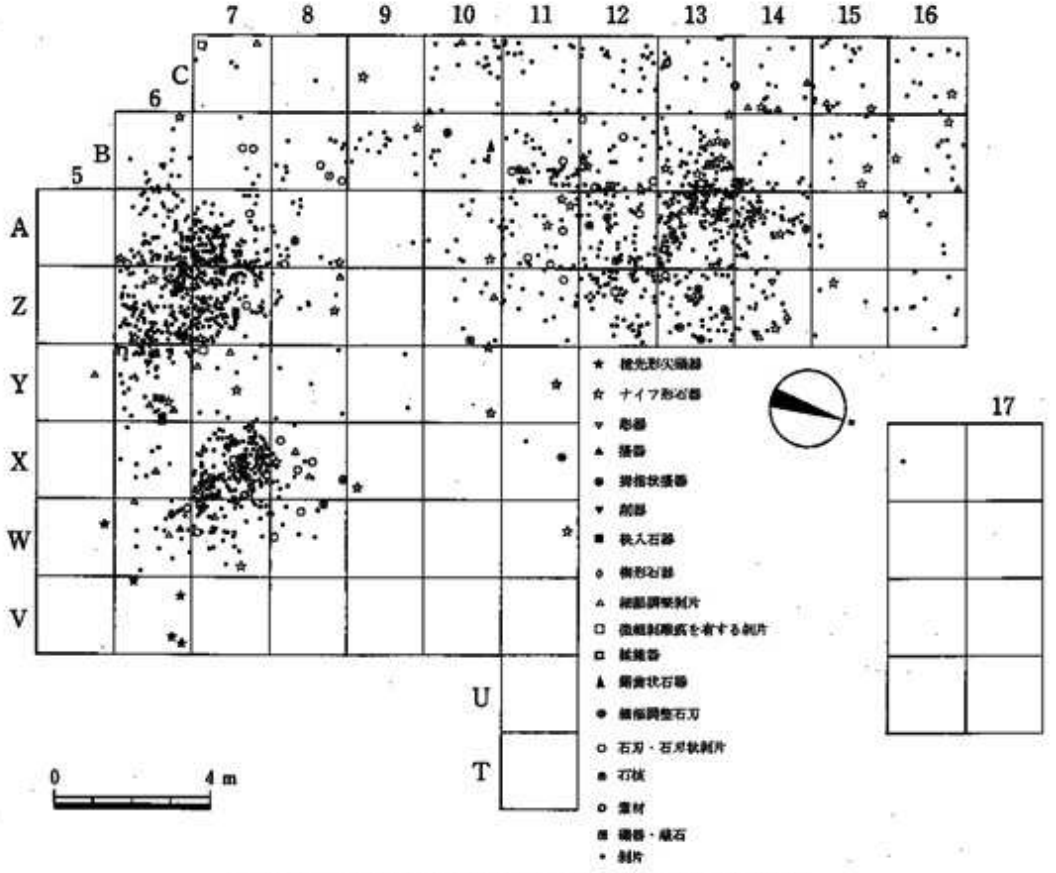
析を通して、各石器ブロックの場の性格を推察した場合、石器製品の生産に関わって、素材の剥片剥離工程から調整にいたる過程が認められる母岩は、いずれもチャートであり興味深い。

それとは逆に、母岩別資料として把握し得ながら、剥片剥離工程の明確に理解し得ない黒曜石について考える際には示唆的な状況である。つまり、黒曜石は一定の加工がなされて柳又遺跡Ａ地点へと搬入された可能性すら考えられるのではないだろうか。今後とも検討を要する課題である。

第VI層Ｌ文化層の石器器種組成は、ナイフ形石器を主体として、槍先形尖頭器、彫器、掻器、拇指状掻器、削器、鋸歯状石器、揉錐器、抉入石器、細部調整剥片などの剥片石器、石刃・石刃状剥片、剥片・砕片、石核、石核素材など、礫器には敲石があり、ナイフ形石器とともに槍先形尖頭器が伴う点が特徴であろう（第226～252図）（表25～27）。

ナイフ形石器は、石刃折断技法によって素材の形状を大きく変形させたうえで、二側縁加工によって鋭い先端部を作り出す、いわゆる茂呂型ナイフ形石器と、石刃を素材として先端を斜めに折断するような急斜度の調整を加えた、部分調整のナイフ形石器との２形態が主体をなす。

この２形態の組み合わせを中心とするナイフ形石器の形態組成は、関東地方の石器群に対比



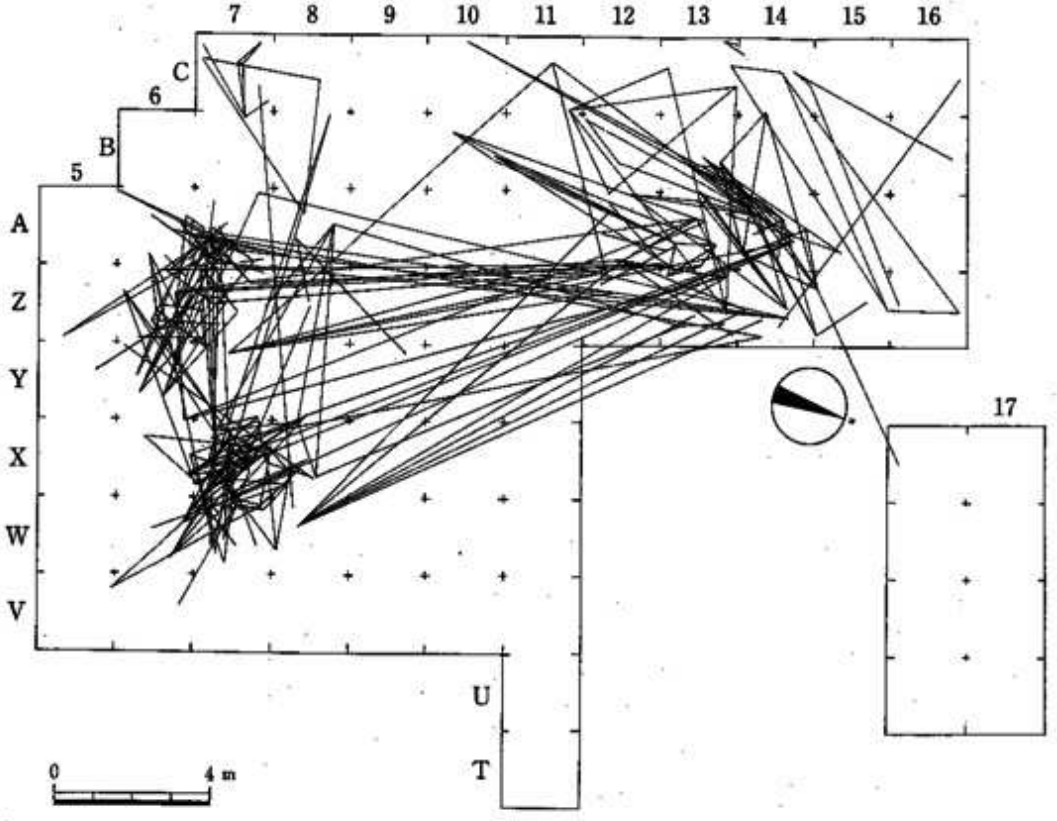
第224図　第VI層Ｌ文化層の石器器種別分布状態(1/200)

した場合、相模野台地では相模野第Ⅳ期前半（矢島・鈴木　1977）、諏訪間順（1988）によるいわゆる相模野編年の段階Ⅵ、武蔵野台地ではⅡｂ期（小田　1977）に特徴的に見ることができ、当該文化層の編年的位置は、武蔵野台地立川ローム層第Ⅳ層中位に比定することが妥当であろう。

いわゆる「砂川期」の石器群は、南関東地方にとどまらない広範囲な広がりをみせているもので、両設打面石核を用いた石刃技法にも特徴があるが、当該文化層における母岩別資料分析の結果でも両設打面の形成という特徴が認められ、ナイフ形石器の形態組成に基づく推定を裏付けている。

また、隣接するＣ地点（青木・内川・高橋　1993）では、細石刃石器群（第Ⅰ・第Ⅱ文化層）、尖頭器石器群（第Ⅲ文化層）、ナイフ形石器石器群（第Ⅳ・第Ⅴ文化層）の計５枚の文化層が検出されているが、チャートを主要石材とした石刃素材のナイフ形石器が主体となる第Ⅳ文化層に、当該文化層は比定されよう。

なお、今回の報告した第Ⅵ層Ｌ文化層の石器群のなかでは、５点を数える抉入石器が注意される。これまでに試掘、第１次調査（小林編　1990）で11点の抉入石器が出土しているが、表土から検出されたものであったため文化層を特定することができなかった。



第225図　第Ⅵ層Ｌ文化層の石器母岩別資料接合配線(1/200)

その後の調査成果に基づいて、これらの抉入石器のうちで２点に関してのみ、それぞれ１点づつを細石刃を主体とする第Ｖ層文化層と、槍先形尖頭器を伴うナイフ形石器の第VI層Ｌ文化層とに帰属することを判断した。その後、第６次調査において第Ｖ層文化層に帰属するものと判断した抉入石器が３点検出されているが、第VI層Ｌ文化層に伴う抉入石器は、第４次調査で報告した１点を数えるに過ぎなかった。

東海・関東地方の抉入石器を検討した山下秀樹（1995）は、諏訪間順（1988）による相模野台地の編年、段階VI・VIIにわたって同地域の抉入石器が盛行することを指摘し、関連する地域の遺跡として柳又遺跡Ａ地点の抉入石器にも注意を払っている。

今回の調査で検出された５点の抉入石器は、いわゆる「砂川期」に位置づけられる第VI層Ｌ文化層に帰属し、山下の見解とうまく整合するものであろう。しかしながらその一方で、抉入石器が槍先形尖頭器を主体とする石器群以降には急速に衰退するとされている点で、柳又遺跡Ａ地点の事情は若干問題を含んでいる。すなわち、第VI層Ｌ文化層においての槍先形尖頭器を伴っていることと、続く第Ｖ層文化層が細石刃を主体としながらも、槍先形尖頭器が比較的まとまっていながら、抉入石器も４点を数えることが挙げられる。この点に関わって、柳又遺跡Ａ地点における石器それぞれの帰属する文化層の問題が再び浮上することになろう。

柳又遺跡Ａ地点の発掘調査出土資料に関していえば、石器群の帰属する文化層の認定にあたって、まず出土層位を重視している。そのうえで石器群の平面分布のまとまりと垂直分布のまとまりとに注意して、石器ブロックを認識し、各文化層の石器ブロックの範囲に含まれる石器群について、各文化層へと帰属させている。第Ｖ層文化層に関しては、石器ブロックを設定していないものの、分布の集中するまとまりを把握しており、それらが第VI層Ｌ文化層に把握した石器ブロックとは、平面分布上も、垂直分布上も排他的な傾向を示していることが理解されている。この点を重視して、これまでに石器群は、各文化層に分離され、槍先形尖頭器や抉入石器に関しても同様の手続きを経て、文化層がそれぞれに分離されている。

槍先形尖頭器では、第Ｖ層文化層のものと第VI層Ｌ文化層のものとに形態的な違いも存在しているようである。すなわち、第VI層Ｌ文化層の槍先形尖頭器は片面調整の場合が多く、幅広の非対称形を呈している。対して第Ｖ層文化層のそれは両面調整で細身の対称形を呈しているのである。このような形態的な特徴が前述の手続きを経て分離された文化層それぞれに理解される点は、槍先形尖頭器が第Ｖ層文化層と第VI層Ｌ文化層とに、それぞれ帰属することを傍証すると考えている。

なお、抉入石器はすでに第Ｖ層文化層の項で触れた大形の石刃を素材とするものが、第Ｖ層文化層に特有と見られるが、その他の不定形の剥片を利用したものは両者に見られ、文化層それぞれに顕著な特徴は認められないために、形態から傍証できないという難点を残している。

（田村令子）

表25　第VI層L文化層石器器種別石材別点数

単位＝点

器　種	チャート	黒曜岩	玻璃質安山岩	珪質頁岩	凝灰岩	安山岩	砂　岩	ホルンフェルス	不　明	総　計
槍先形尖頭器	6	1	2	0	0	0	0	0	0	9
両面調整石器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ナイフ形石器	32	20	2	1	0	0	0	0	0	55
彫器	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
掻器	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
搔指状掻器	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
削器	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
抉入石器	5	4	0	0	0	0	0	0	0	9
細部調整石刃	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
細部調整剥片	41	4	0	0	0	0	0	0	1	46
揉錐器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
鋸歯状石器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
石刃	29	5	2	0	0	0	0	0	0	36
石刃状剥片	12	2	1	0	0	0	0	0	0	15
石核	39	1	0	0	0	0	0	0	0	40
石核素材	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
敲石	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
楔形石器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
微細剥離痕を有する剥片	7	4	0	0	0	0	0	0	0	11
剥片	1112	185	23	3	5	0	0	2	0	1330
砕片	544	83	9	2	0	1	0	0	0	639
総計	1840	320	39	6	5	1	2	2	1	2216

表26　第VI層L文化層石器器種別石材別重量

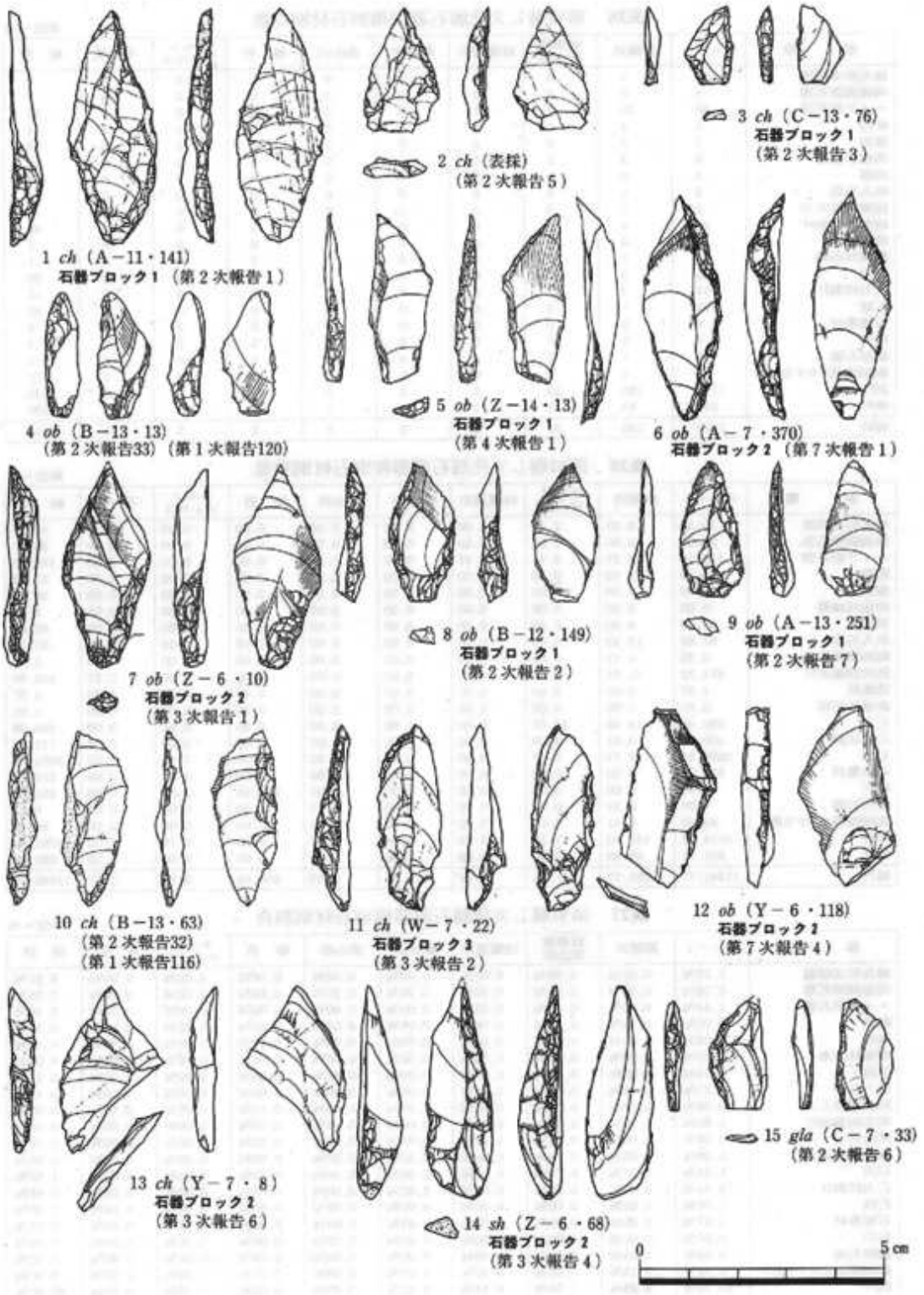
単位＝g

器　種	チャート	黒曜岩	玻璃質安山岩	珪質頁岩	凝灰岩	安山岩	砂　岩	ホルンフェルス	不　明	総　計
槍先形尖頭器	39.49	0.23	2.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	42.12
両面調整石器	38.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	38.30
ナイフ形石器	116.16	34.31	3.74	4.47	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	158.68
彫器	0.00	21.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	21.43
掻器	22.60	7.96	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	30.56
搔指状掻器	0.00	2.56	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.56
削器	63.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	63.09
抉入石器	81.88	13.23	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	95.11
細部調整石刃	0.76	5.51	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.27
細部調整剥片	816.32	21.87	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.77	838.96
揉錐器	4.97	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.97
鋸歯状石器	0.00	1.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.90
石刃	330.46	14.95	22.87	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	368.28
石刃状剥片	100.72	3.01	3.39	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	107.12
石核	2850.41	14.72	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2865.13
石核素材	519.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	519.27
敲石	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	254.65	0.00	0.00	254.65
楔形石器	0.00	8.24	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.24
微細剥離痕を有する剥片	85.86	4.41	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	90.27
剥片	5614.07	142.56	17.26	3.23	5.44	0.00	0.00	0.18	0.00	5782.74
砕片	557.31	29.88	2.00	0.09	0.00	0.60	0.00	0.00	0.00	589.88
総計	11241.70	326.77	51.68	7.79	5.44	0.60	254.65	0.18	0.77	11869.50

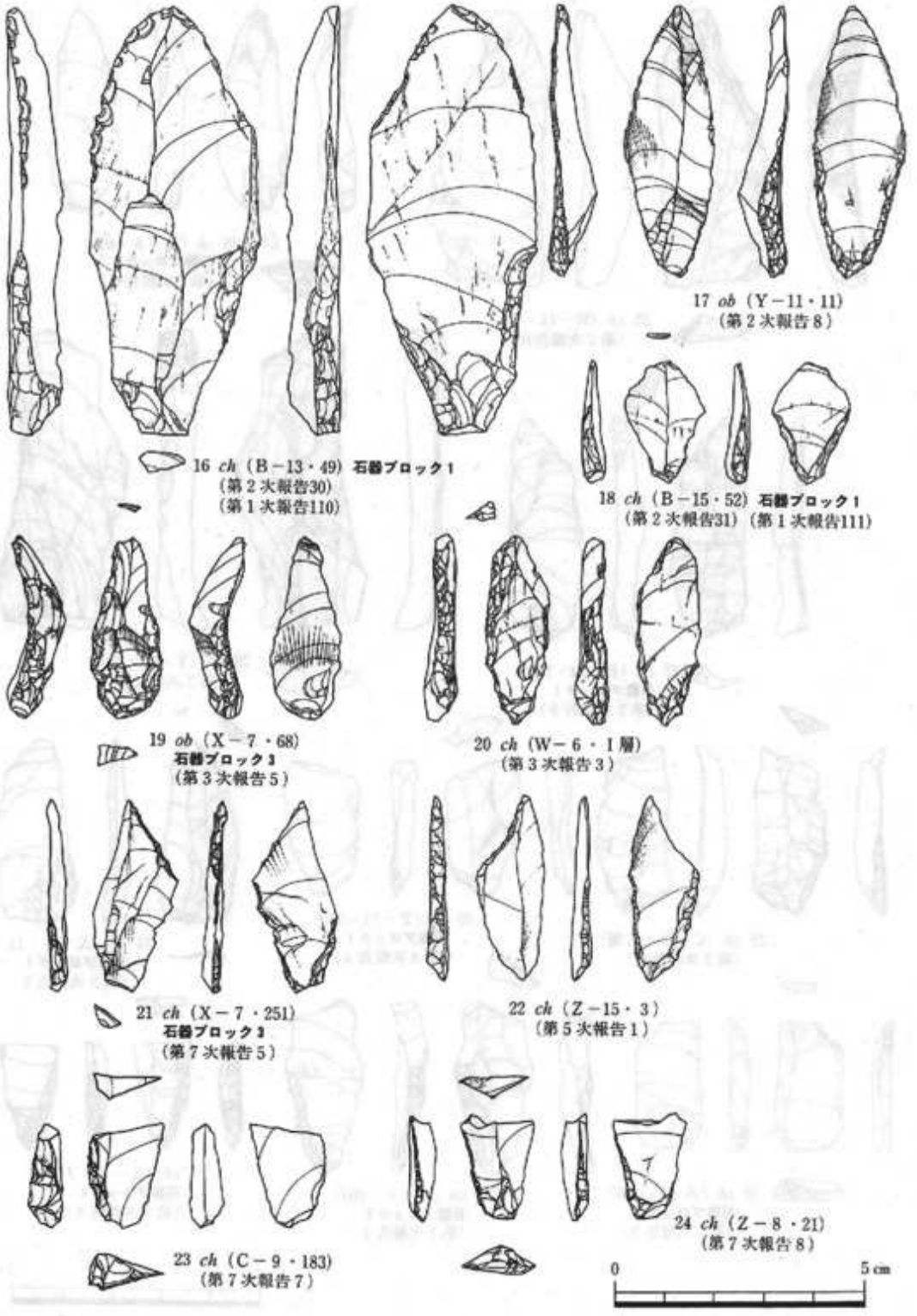
表27　第VI層L文化層石器器種別石材別割合

単位＝%

器　種	チャート	黒曜岩	玻璃質安山岩	珪質頁岩	凝灰岩	安山岩	砂　岩	ホルンフェルス	不　明	総　計
槍先形尖頭器	0.27%	0.05%	0.09%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.41%
両面調整石器	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
ナイフ形石器	1.44%	0.90%	0.09%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.48%
彫器	0.00%	0.18%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.18%
掻器	0.05%	0.09%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.14%
搔指状掻器	0.00%	0.09%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.09%
削器	0.14%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.14%
抉入石器	0.23%	0.18%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.41%
細部調整石刃	0.05%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.09%
細部調整剥片	1.85%	0.18%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%	2.08%
揉錐器	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
鋸歯状石器	0.00%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
石刃	1.31%	0.23%	0.09%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.63%
石刃状剥片	0.54%	0.09%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.68%
石核	1.76%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.81%
石核素材	0.27%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.27%
敲石	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.09%	0.00%	0.00%	0.09%
楔形石器	0.00%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.05%
微細剥離痕を有する剥片	0.32%	0.18%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.50%
剥片	50.16%	8.35%	1.04%	0.14%	0.23%	0.00%	0.00%	0.09%	0.00%	60.00%
砕片	24.56%	3.75%	0.41%	0.09%	0.00%	0.05%	0.00%	0.00%	0.00%	28.85%
総計	83.02%	14.45%	1.76%	0.27%	0.23%	0.05%	0.09%	0.09%	0.05%	100.00%



第226図　第VI層Ｌ文化層の石器(1)ナイフ形石器(3/4)



第227図　第VI層L文化層の石器(2)ナイフ形石器(3/4)